「第５次唐津市男女共同参画基本計画」策定のための

市民意識調査結果
《報告書》

令和６年３月

唐津市

目　次

Ⅰ　調査概要 1
1．調査の目的 1
2．調査の方法 1
3．回収結果 1
4．数値等の基本的な取扱いについて 1
Ⅱ　調査結果 2
1．属性 2
2．結婚や家庭生活について 5
3．教育・子育てについて 21
4．仕事と生活について 27
5．心と身体の健康について 55
6．社会活動について 57
7．人権尊重について 60
8．男女共同参画について 95
Ⅲ　調査票 111

Ⅰ　調査概要

１．調査の目的

「第５次唐津市男女共同参画基本計画」の策定に当たり、その資料とすることを目的として実施しました。

２．調査の方法

（１）調査対象
　　市内在住の 18 歳以上の方
（２）調査対象者数
　　2,000 人
（３）抽出方法
　　無作為抽出
（４）調査方法
　　郵送による配布・回収およびＷｅｂアンケート
（５）調査期間
　　令和５年 11 月 22 日～12 月 12 日

３．回収結果

（１）配布数　　2,000
（２）回収数　　637（内訳：郵送回答 521 票、Ｗｅｂ回答：116 票）
（３）回収率　　31.9%

４．数値等の基本的な取扱いについて

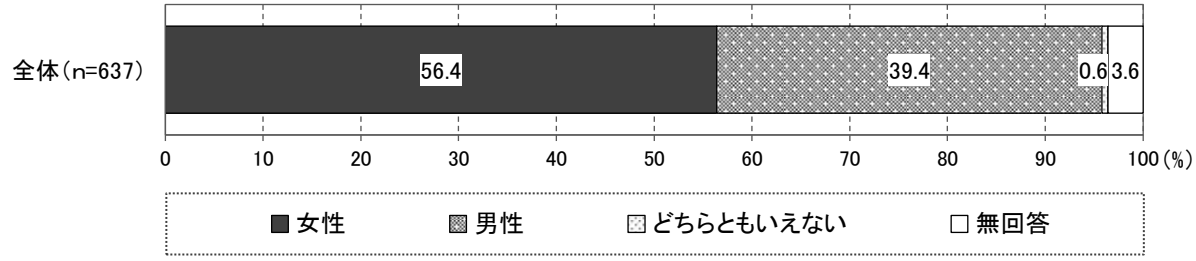
・比率は全て百分率（%）で表し、小数点以下第２位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が 100%を上下する場合もあります。
・基数となるべき実数は、“ｎ=○○○”として掲載し、各比率はｎを 100%として算出しています。（回答者総数または該当者数）
・質問の終わりに【複数回答可】とある問は、１人の回答者が２つ以上の回答を出してもよい問であるため、各回答の合計比率は 100%を超える場合があります。
・文中、グラフ中の設問カテゴリー（選択肢）の文言は、一部簡略化する場合があります。
・文中、グラフ中の数値や選択肢の文言は、一部省略・簡略化してあります。また、割合が０%であった箇所の数値は基本的に省略しています。
・質問の選択肢は、基本的に「　　」で表していますが、選択肢を２つ以上合わせて数値を示す場合は“　　”で表してあります。

Ⅱ　調査結果

1．属性

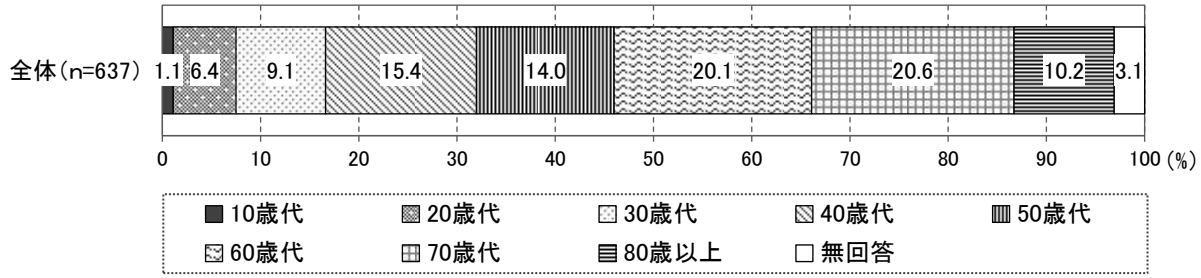
Q1　性別

「女性」が 56.4%、「男性」が 39.4%となっています。
前回調査と比べると、「無回答」が 2.3 ポイント高くなっています。



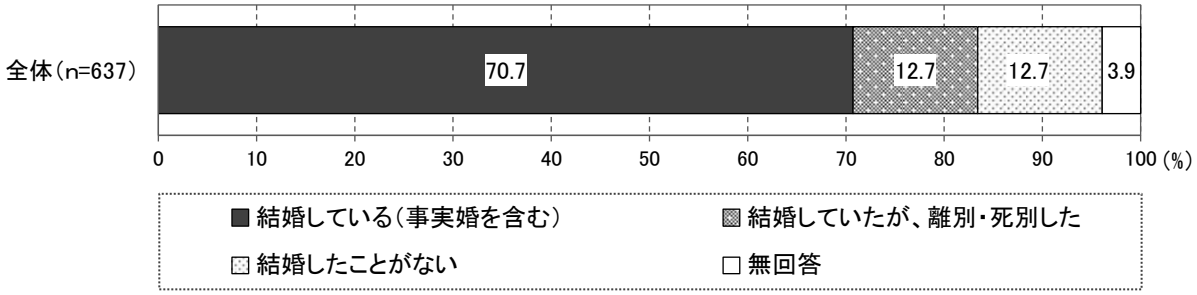
Q2　年齢（年代）

「70 歳代」が 20.6%と最も高く、次いで、「60 歳代」(20.1%)、「40 歳代」(15.4%）の順となっています。
前回調査と比べると、「70 歳代」が 3.9 ポイント高くなっています。



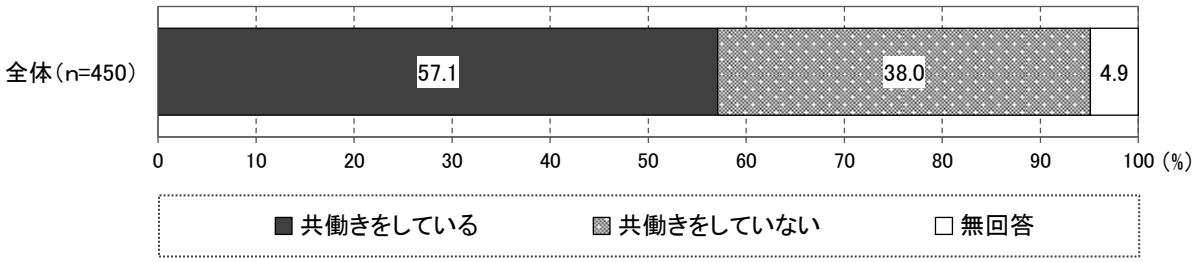
Q３　結婚していますか。

「結婚している（事実婚を含む）」が 70.7％と最も高く、次いで、「結婚していたが、離別・死別した」・「結婚したことがない」（12.7％で同率）の順となっています。
前回調査とは変わりありません。



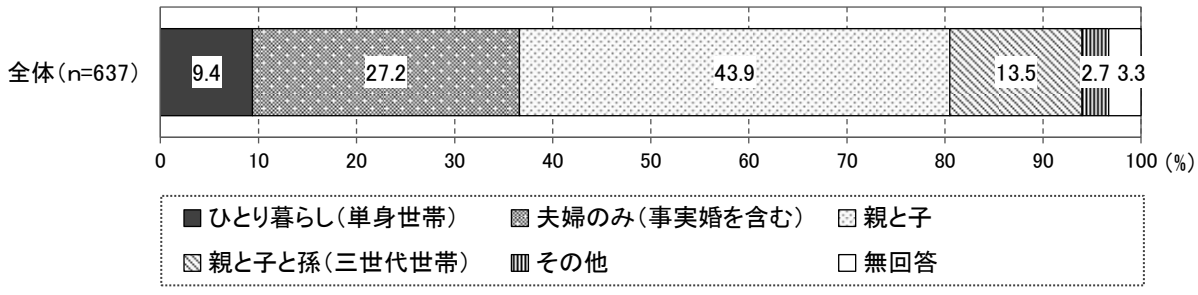
Q3-1　◆Q３で「1. 結婚している」と回答した方。あなたと配偶者は、共働きをしていますか。

「共働きをしている」が 57.1％、「共働きをしていない」が 38.0％となっています。
前回調査と比べると、「共働きをしている」が 5.0 ポイント高くなっています。



Q４　家族構成はどれですか。

「親と子」が 43.9％と最も高く、次いで、「夫婦のみ（事実婚を含みます）」（27.2％）、「親と子と孫（三世代世帯）」（13.5％）の順となっています。前回調査とは変わりありません。

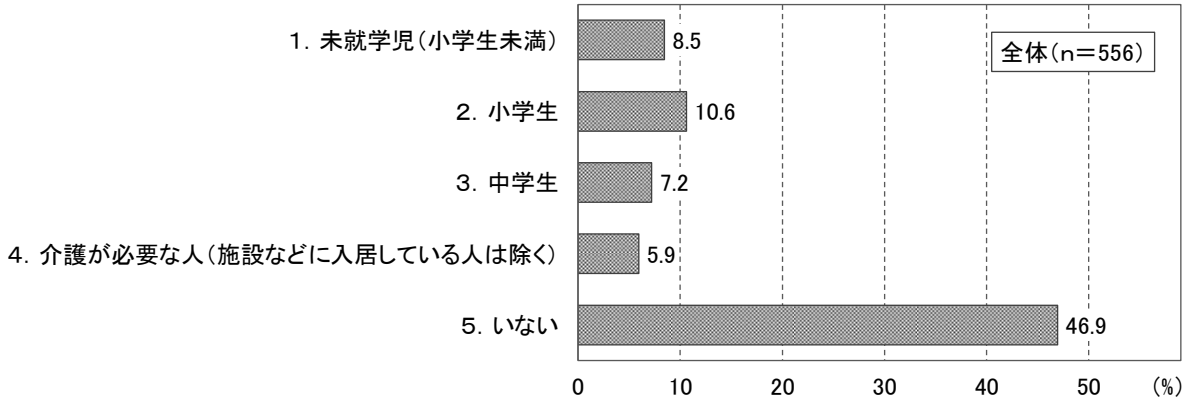


Q５

◆ひとり暮らし（単身世帯）以外の方。

同居家族に次の１～４にあてはまる人はいますか。【複数回答可】

「いない」が 46.9％と最も高く、次いで、「小学生」（10.6％）、「未就学児（小学生未満）」（8.5％）の順となっています。「いない」の割合が女性より男性が 18.5 ポイント高く、前回調査と比べると 8.2 ポイント高くなっています。



		（n＝）	1 未就学児（小学生未満）	2 小学生	3 中学生	4 介護が必要な人（施設などに入居している人は除く）	5 いない
全体		556	47 8.5%	59 10.6%	40 7.2%	33 5.9%	261 46.9%
性別	女性	320	32 10.0%	37 11.6%	25 7.8%	20 6.3%	125 39.1%
	男性	229	15 6.6%	21 9.2%	13 5.7%	13 5.7%	132 57.6%
年齢	10・20歳代	39	7 17.9%	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	24 61.5%
	30歳代	57	24 42.1%	15 26.3%	3 5.3%	1 1.8%	13 22.8%
	40歳代	95	8 8.4%	31 32.6%	27 28.4%	3 3.2%	26 27.4%
	50歳代	80	1 1.3%	0 0.0%	3 3.8%	7 8.8%	52 65.0%
	60歳代	113	5 4.4%	6 5.3%	4 3.5%	8 7.1%	57 50.4%
	70歳代	115	2 1.7%	5 4.3%	2 1.7%	11 9.6%	56 48.7%
	80歳以上	55	0 0.0%	1 1.8%	1 1.8%	3 5.5%	32 58.2%

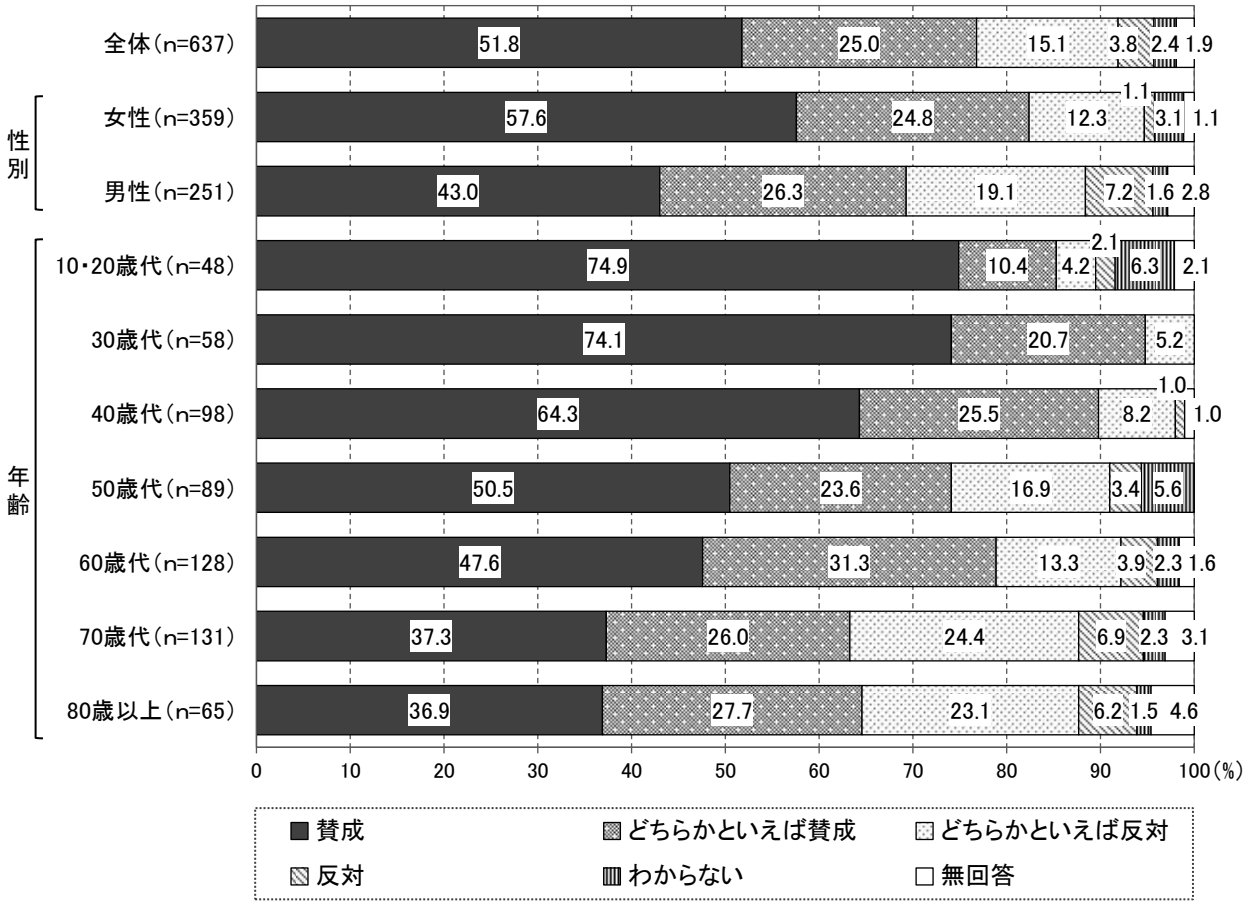
2．結婚や家庭生活について

問1　あなたの考えに近いものは何ですか。

（1）結婚は個人の自由なので、結婚してもしなくてもどちらでもよい

全体では、「賛成」が 51.8％と最も高く、次いで、「どちらかといえば賛成」（25.0％）、「どちらかといえば反対」（15.1％）の順となっています。

前回調査と比べると男女ともに「賛成」と「どちらかといえば賛成」を加えた「賛成率」が 11.5 ポイント（前回 65.3％）高くなっています。

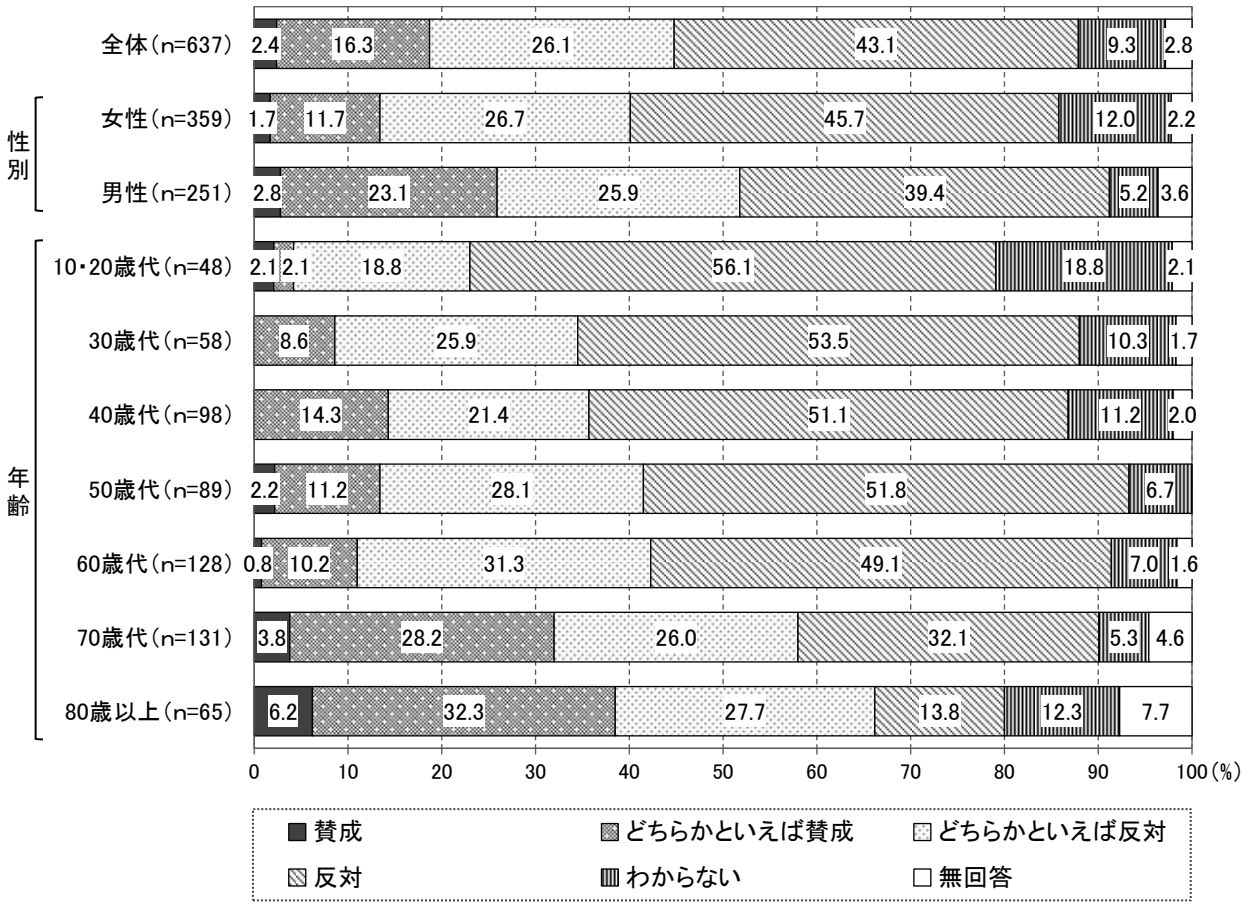


（２）夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

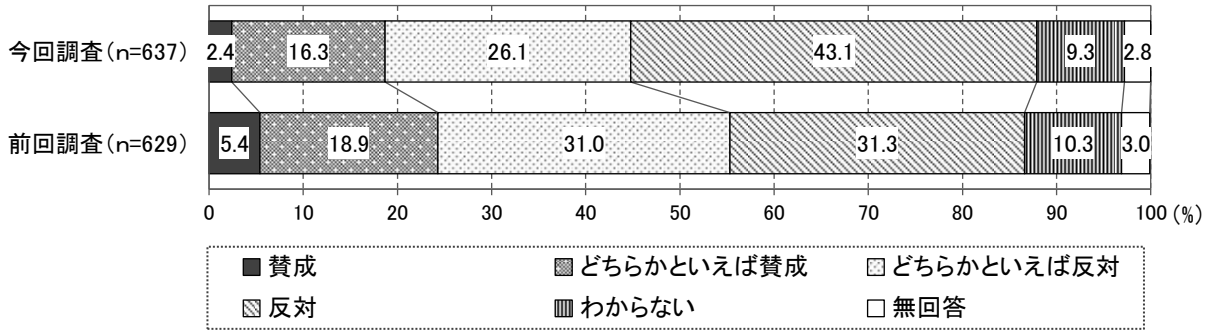
全体では、「反対」が 43.1％と最も高く、次いで、「どちらかといえば反対」（26.1％）、「どちらかといえば賛成」（16.3％）の順となっています。

前回調査と比べると、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた「反対率」が 6.9 ポイント（前回 62.3％）で高くなっています。

国・県調査と比べても同じく「反対率」がやや高くなっています。

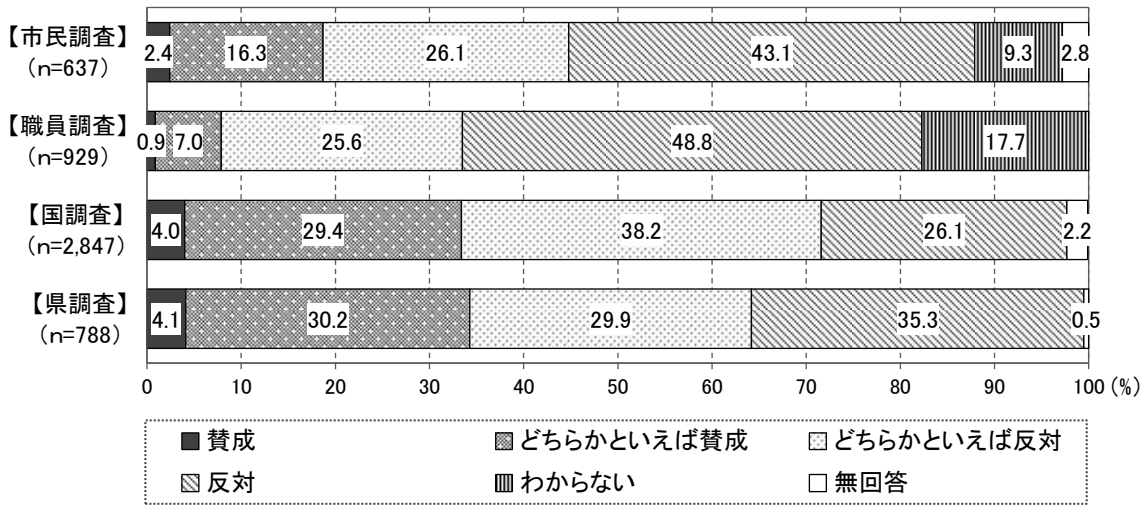


◆前回調査との比較



◆国・県との比較（参考）

【国】男女共同参画社会に関する世論調査（令和４年度）
【県】令和元年度男女共同参画社会づくりのための県民意識調査結果

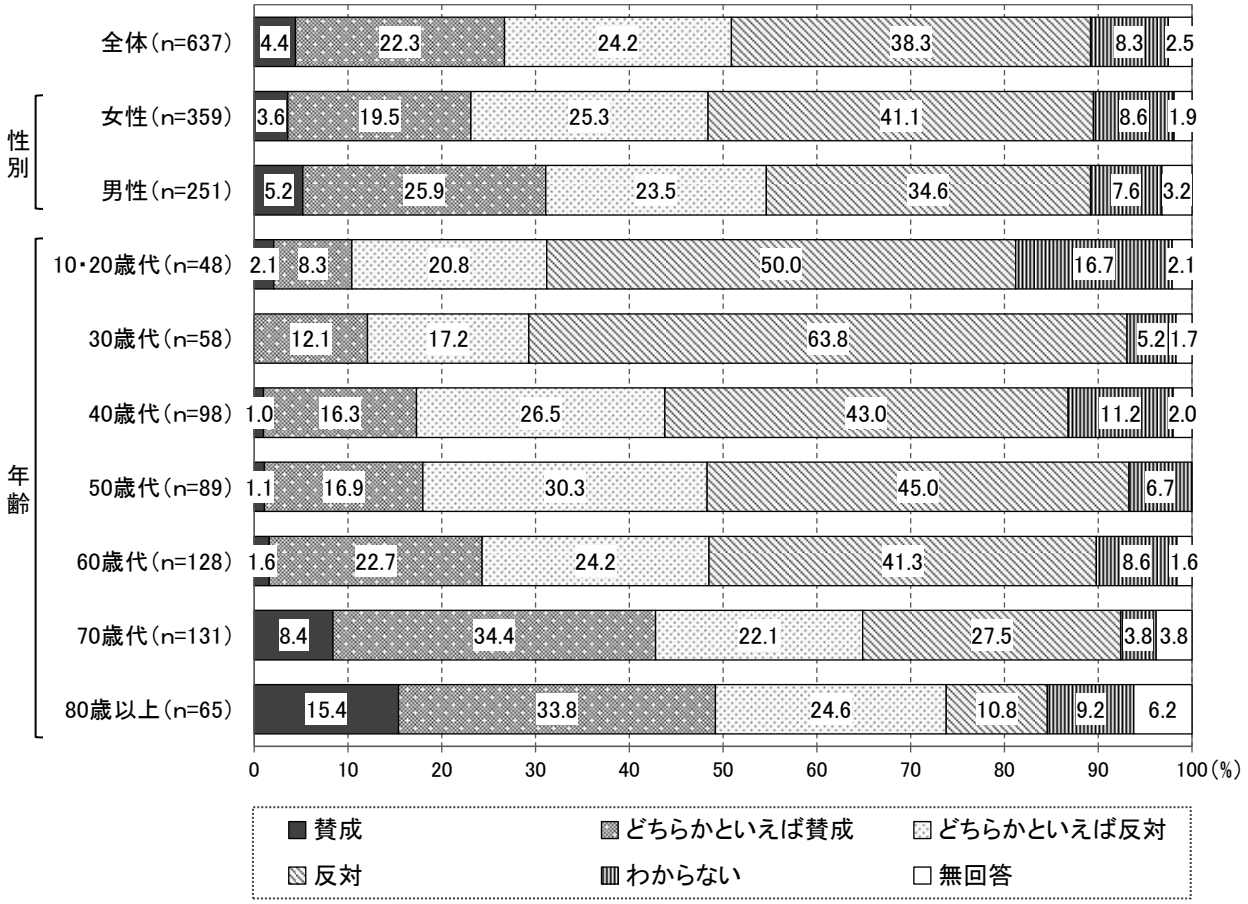


※「わからない」については、国調査及び県調査には選択肢がありません。

（3）女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活した方がよい

全体では、「反対」が 38.3%と最も高く、次いで、「どちらかといえば反対」(24.2%)、「どちらかといえば賛成」(22.3%）の順となっています。

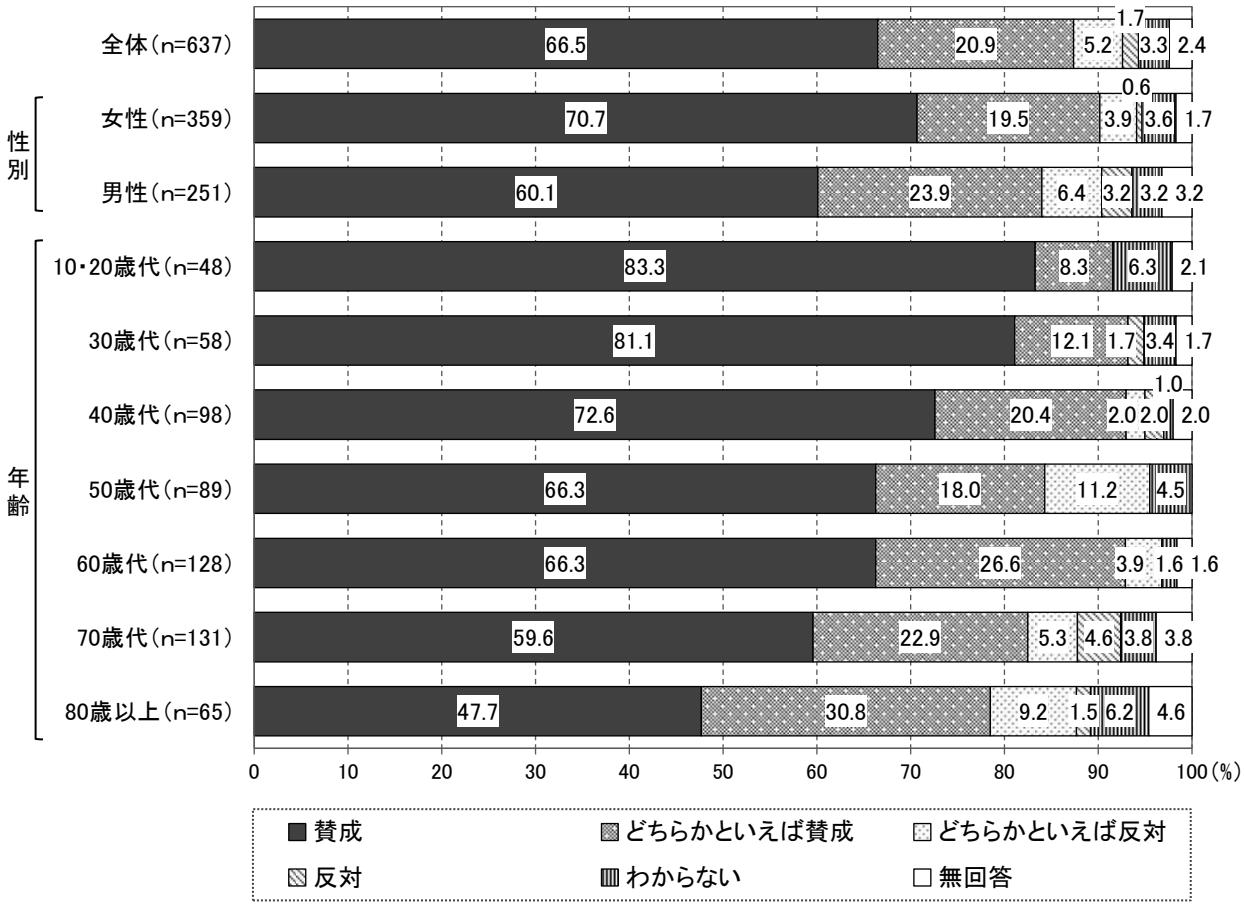
前回調査と比べると、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた「反対率」が 13.2 ポイント（前回 49.3%）高くなっています。



（4）子どもを持つか持たないかは夫婦で決めるべきである

全体では、「賛成」が66.5%と最も高く、次いで、「どちらかといえば賛成」(20.9%)、「どちらかといえば反対」(5.2%）の順となっています。

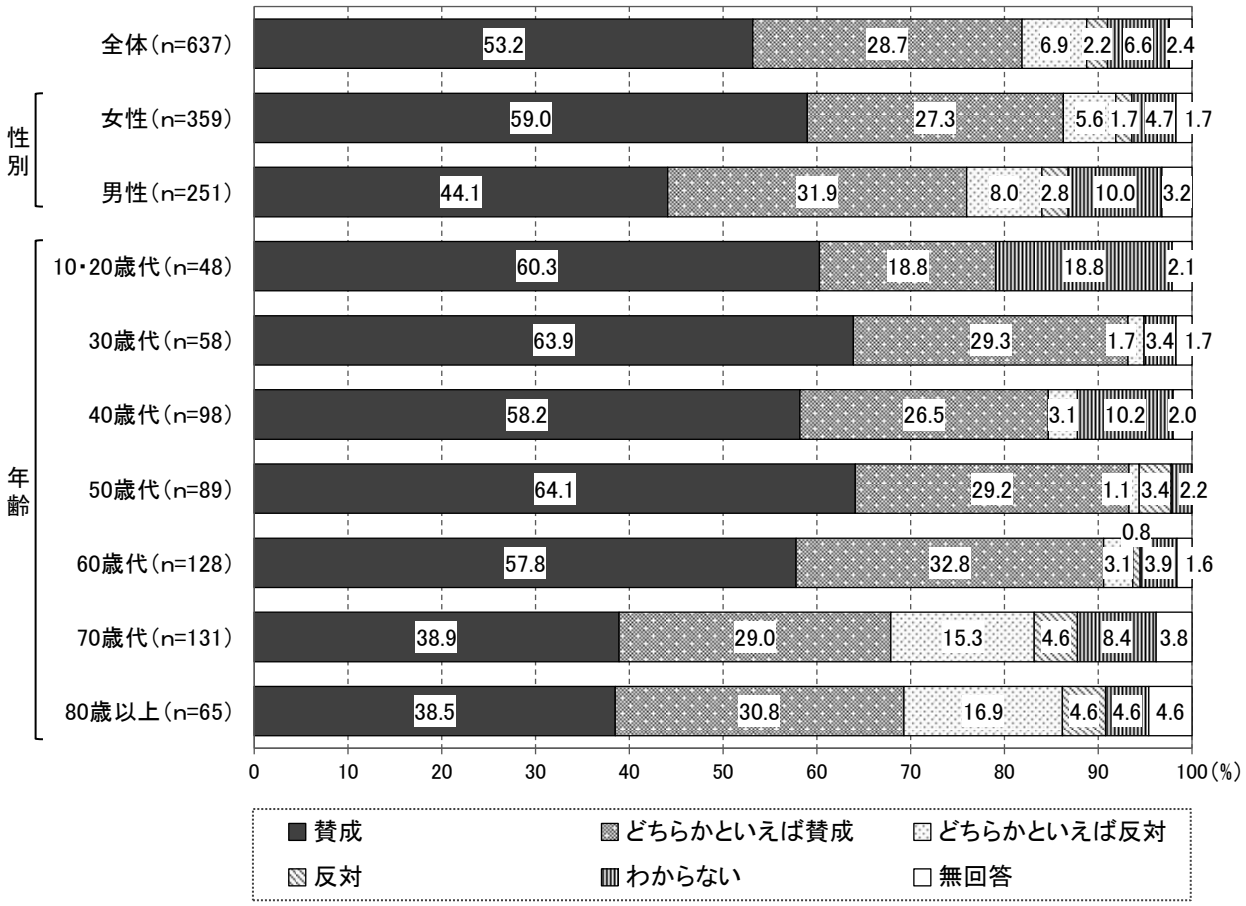
前回調査と比べると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成率」が4.1ポイント（前回83.3%）高くなっています。



（５）結婚生活の継続が困難な時は、離婚もやむをえない

全体では、「賛成」が 53.2％と最も高く、次いで、「どちらかといえば賛成」（28.7％）、「どちらかといえば反対」（6.9％）の順となっています。

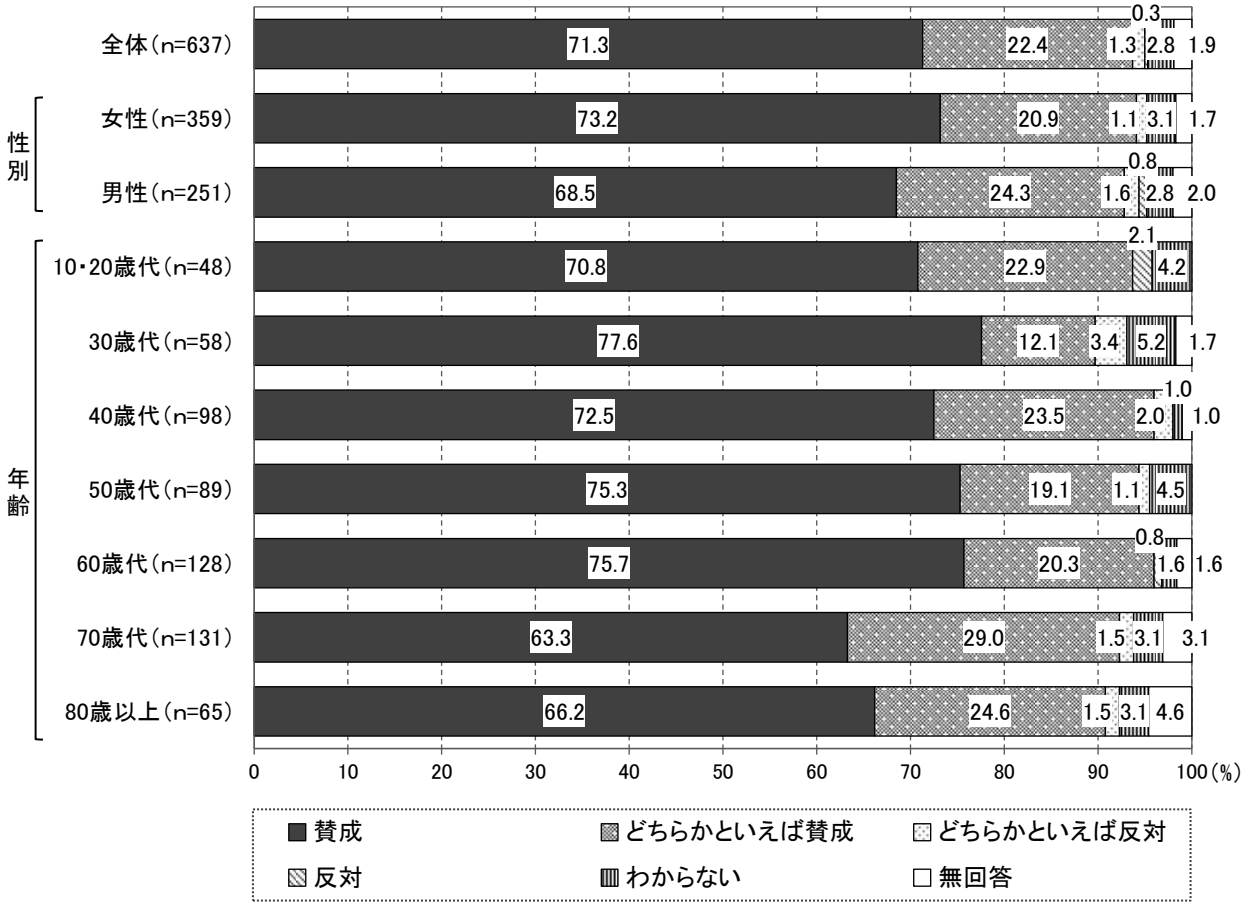
前回調査と比べると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成率」が 4.1 ポイント（前回 77.8％）高くなっています。



（6）男性も女性もどちらも仕事と家庭を両立できるとよい

全体では、「賛成」が 71.3％と最も高く、次いで、「どちらかといえば賛成」（22.4％）、「わからない」（2.8％）の順となっています。

前回調査と比べると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成率」が 1.5 ポイント（前回 92.2％）高くなっています。



問２

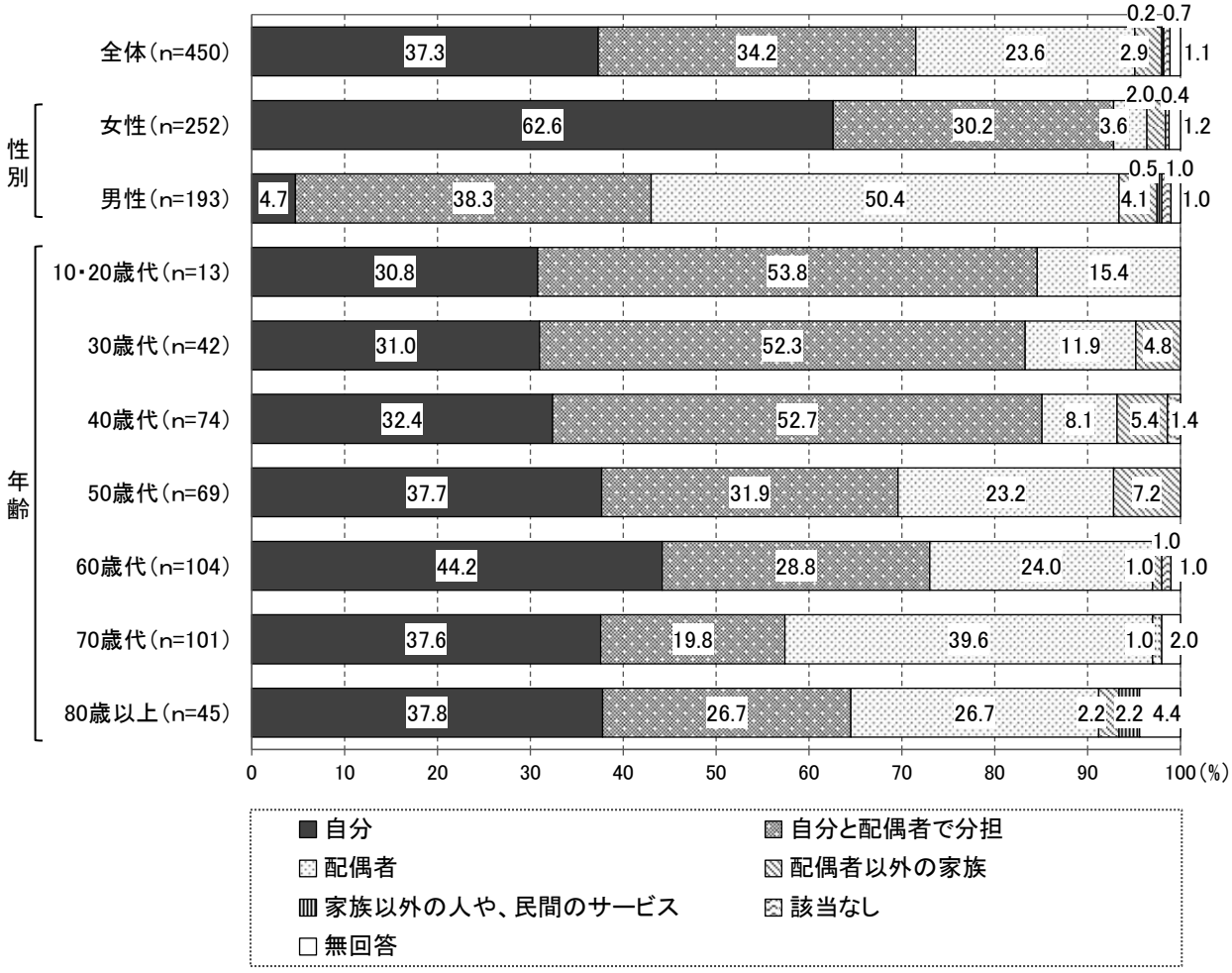
◆結婚している人（事実婚を含む）のみ。

あなたの家庭で、生活に必要な家事などは、おもに誰の役割ですか。

（１）掃除・洗濯

全体では、「自分」が 37.3％と最も高く、次いで、「自分と配偶者で分担」（34.2％）、「配偶者」（23.6％）の順となっています。

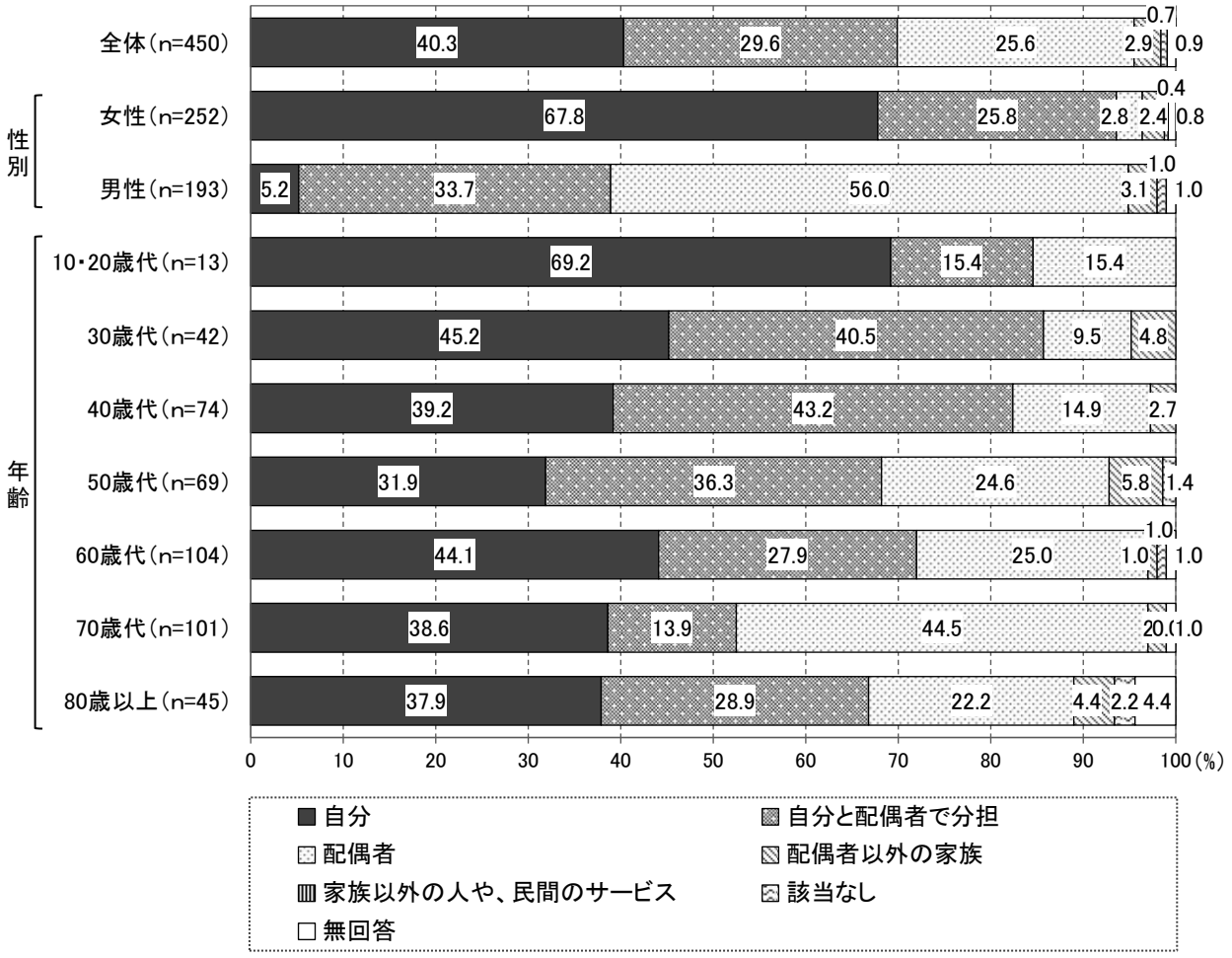
前回調査と比べると、「自分」と回答した割合が女性で 11.0 ポイント低く、男性で 1.1 ポイント高い一方、「自分と配偶者で分担」は女性で 9.8 ポイント、男性で 7.8 ポイントと、いずれも高くなっています。



（２）食事の準備・後片付け

全体では、「自分」が 40.3％と最も高く、次いで、「自分と配偶者で分担」（29.6％）、「配偶者」（25.6％）の順となっています。

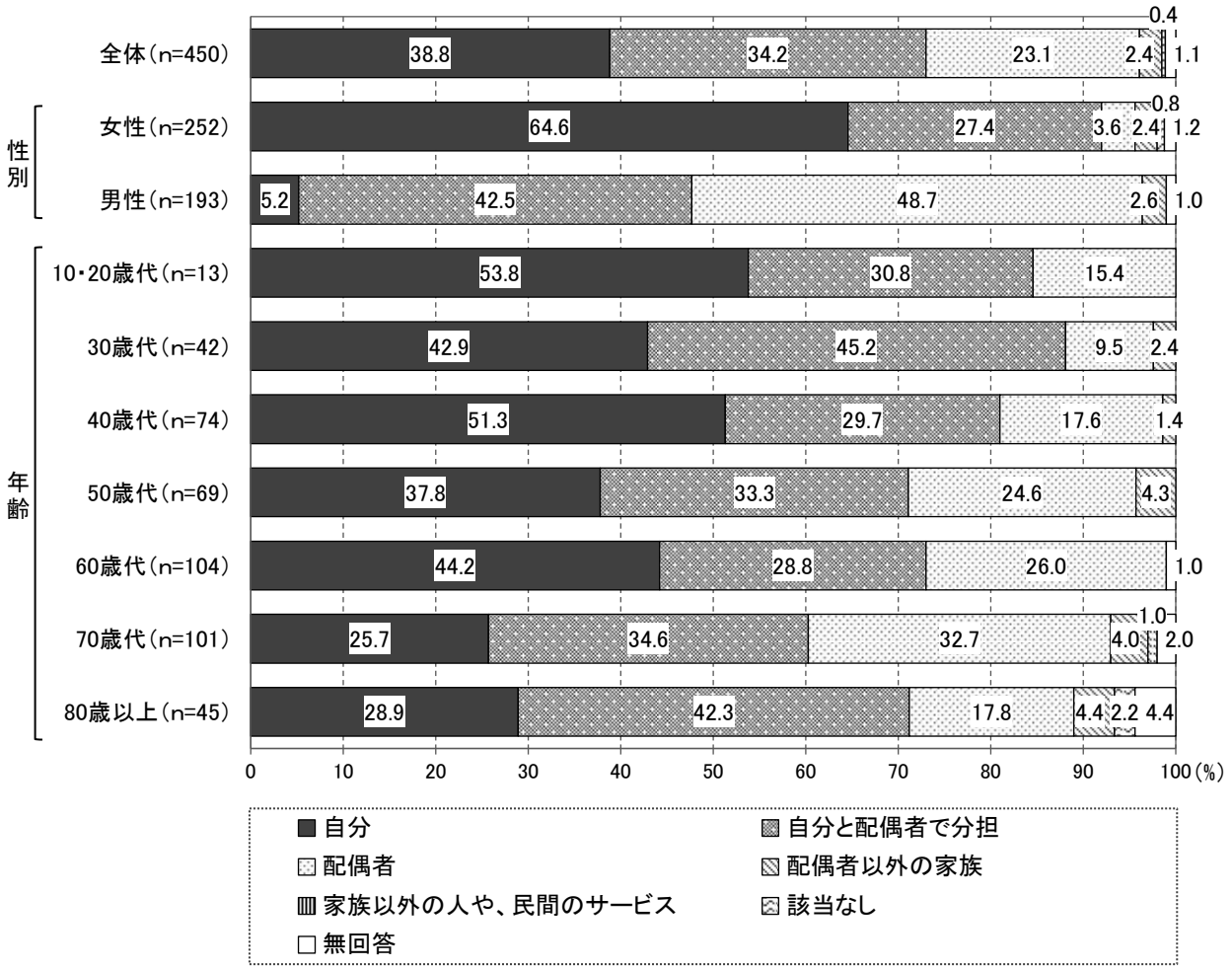
前回調査と比べると、「自分」と回答した割合が女性で 4.5 ポイント低く、男性で 2.2 ポイント高い一方、「自分と配偶者で分担」は女性で 7.9 ポイント、男性で 3.8 ポイントと、いずれも高くなっています。



（3）日常の買い物

全体では、「自分」が 38.8％と最も高く、次いで、「自分と配偶者で分担」（34.2％）、「配偶者」（23.1％）の順となっています。

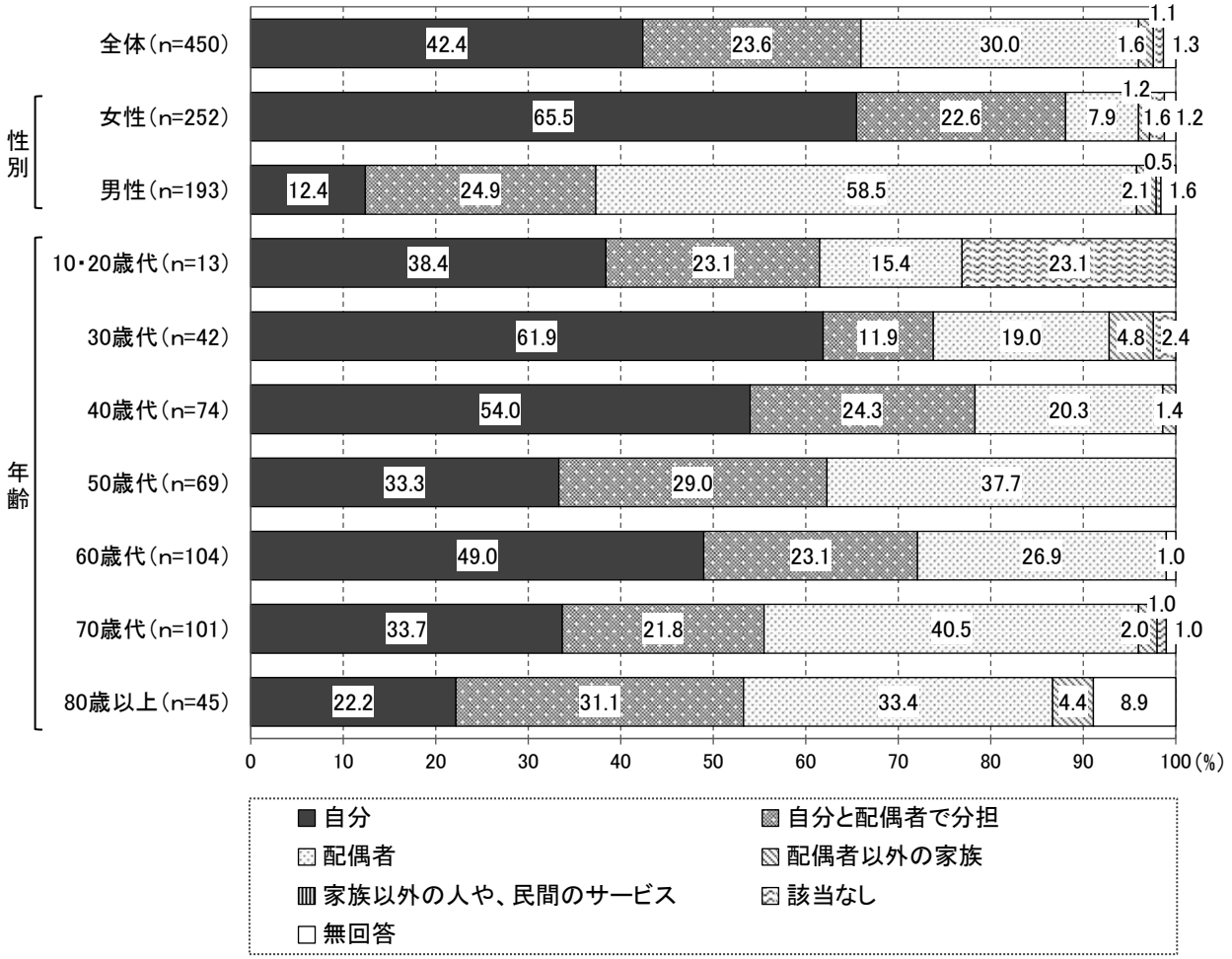
前回調査と比べると、「自分」と回答した割合が女性で 5.2 ポイント、男性で 1.4 ポイント低くなっています。一方、「自分と配偶者で分担」は女性で 7.0 ポイント、男性で 10.5 ポイントと、いずれも高くなっています。



（4）日々の家計管理

全体では、「自分」が 42.4%と最も高く、次いで、「配偶者」（30.0%）、「自分と配偶者で分担」（23.6%）の順となっています。

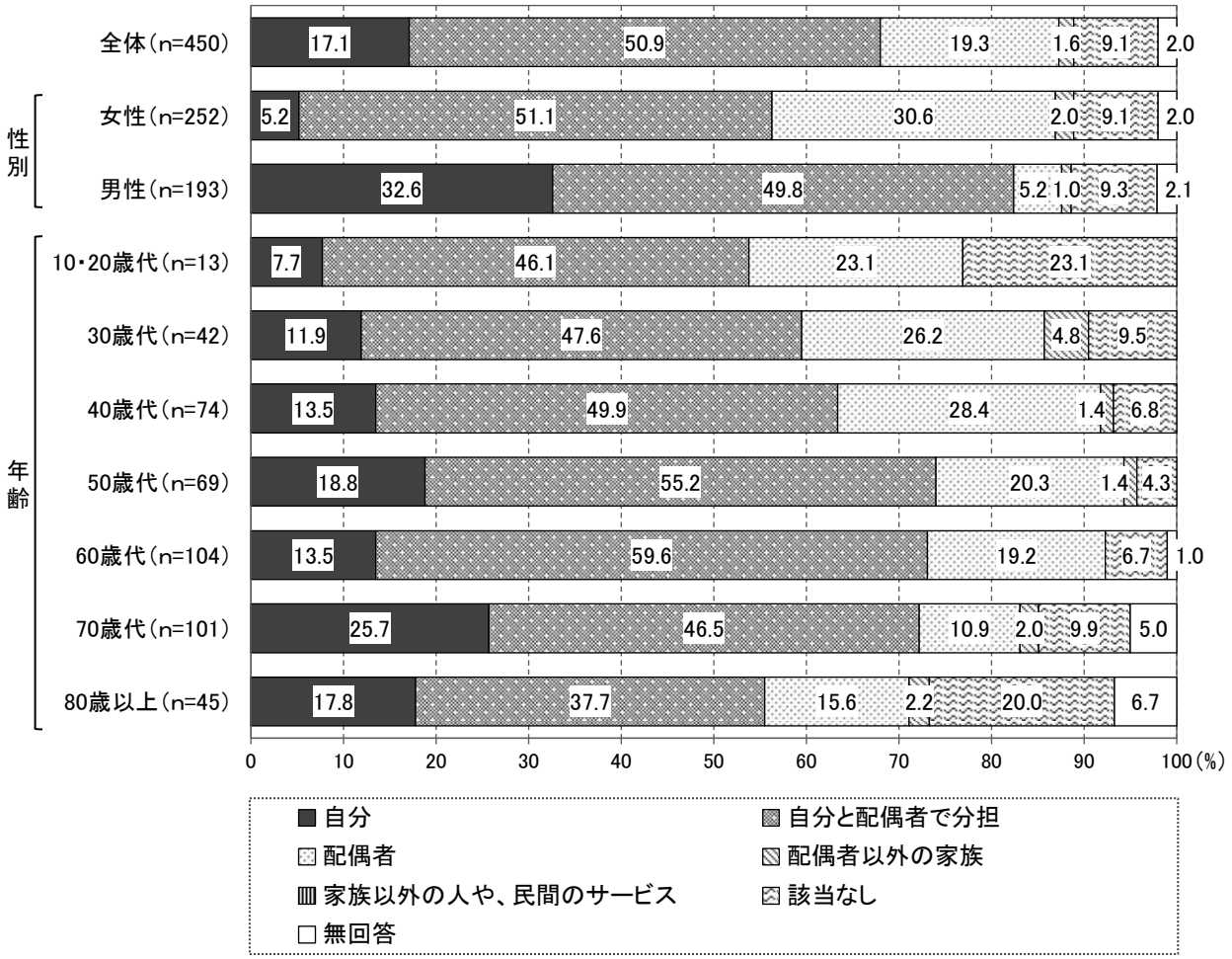
前回調査と比べると、「自分」と回答した割合が女性で 10.7 ポイント低く、男性で 4.3 ポイント高い一方、「自分と配偶者で分担」は女性で 6.4 ポイント、男性で 5.6 ポイントと、いずれも高くなっています。



（５）高額な商品や土地、家屋の購入

全体では、「自分と配偶者で分担」が 50.9％と最も高く、次いで、「配偶者」（19.3％）、「自分」（17.1％）の順となっています。

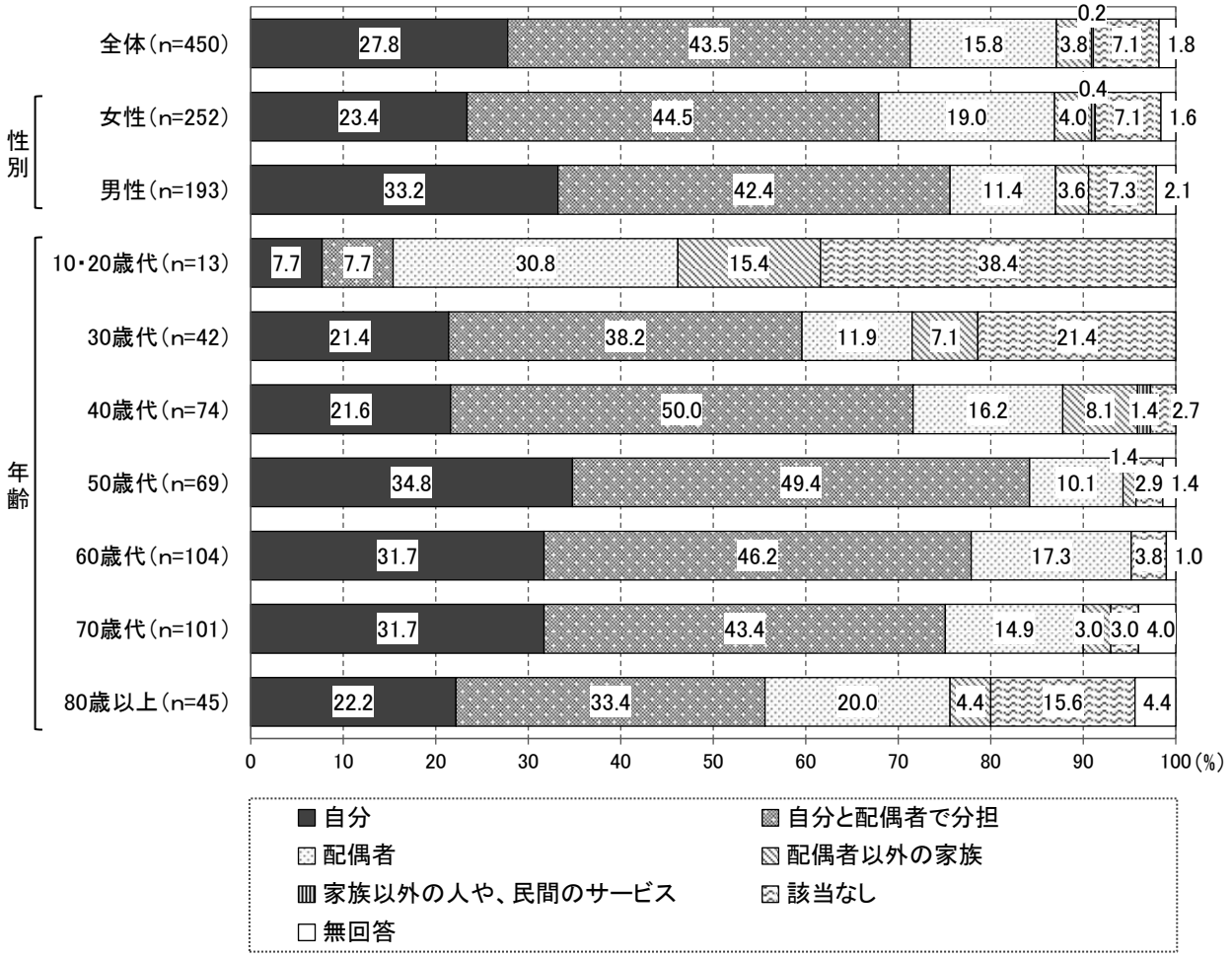
前回調査とは変わりありません。



（６）町内会などの地域活動への参加

全体では、「自分と配偶者で分担」が 43.5%と最も高く、次いで、「自分」（27.8%）、「配偶者」（15.8%）の順となっています。

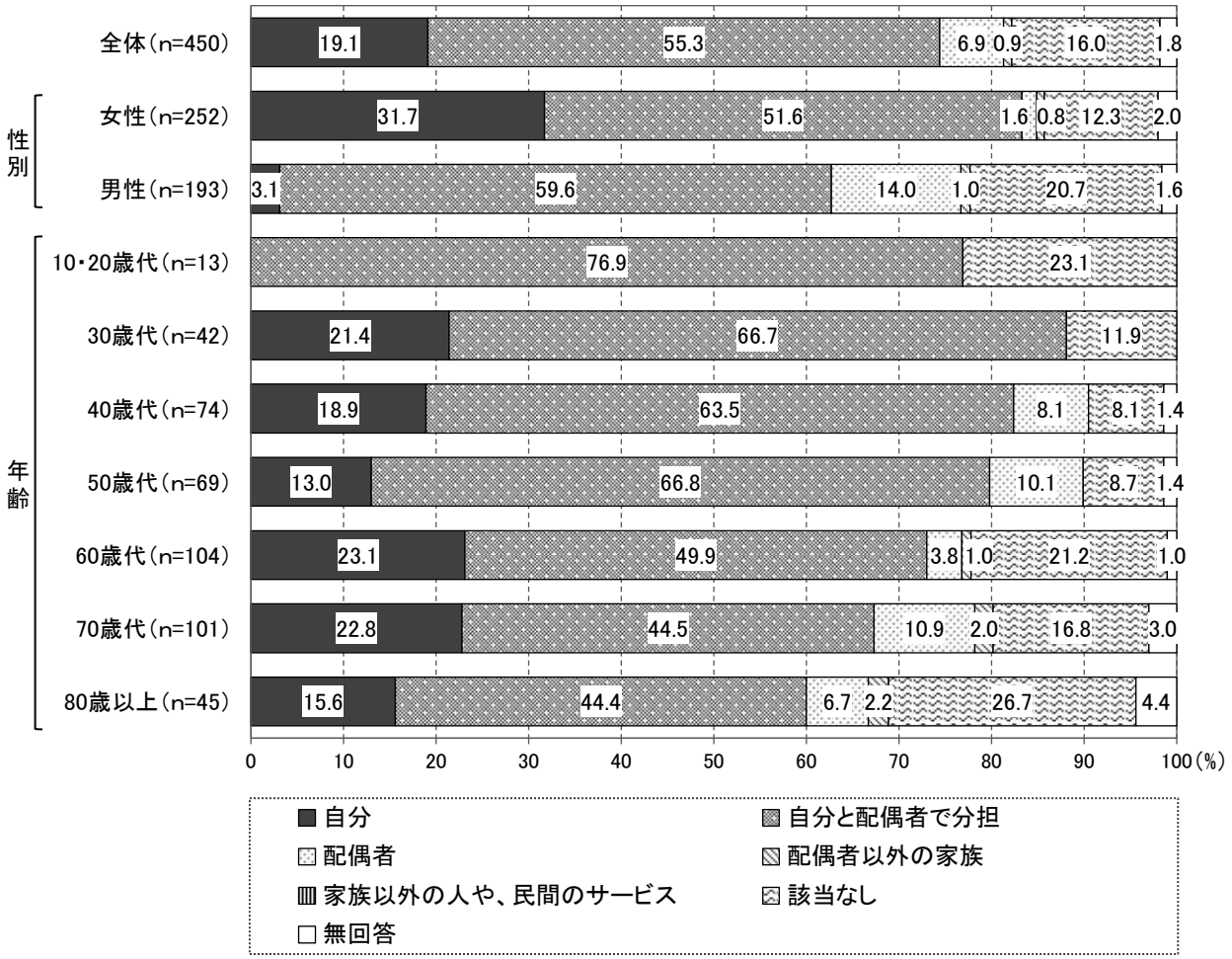
前回調査と比べると、「自分」と回答した割合が女性で 5.5 ポイント低く、男性で 1.2 ポイント高い一方、「自分と配偶者で分担」は女性で 4.9 ポイント高く、男性で 2.8 ポイント低くなっています。



（7）子どもの世話・しつけ

全体では、「自分と配偶者で分担」が55.3%と最も高く、次いで、「自分」(19.1%)、「該当なし」(16.0%）の順となっています。

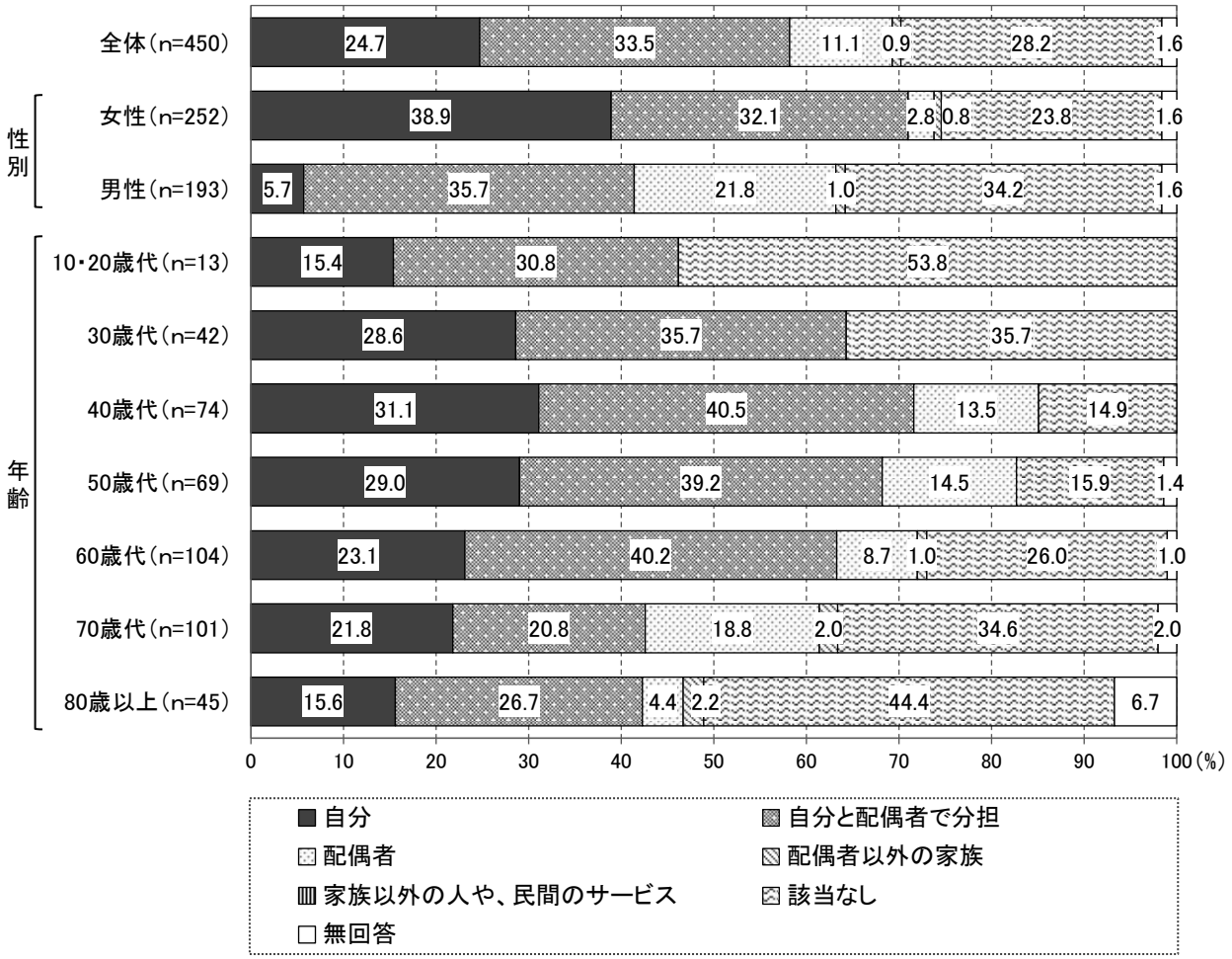
前回調査と比べると、男女とも「自分と配偶者で分担」の割合がわずかながら高くなっています。



（8）ＰＴＡ・子どもクラブ活動への参加

全体では、「自分と配偶者で分担」が33.5%と最も高く、次いで、「該当なし」(28.2%)、「自分」(24.7%）の順となっています。

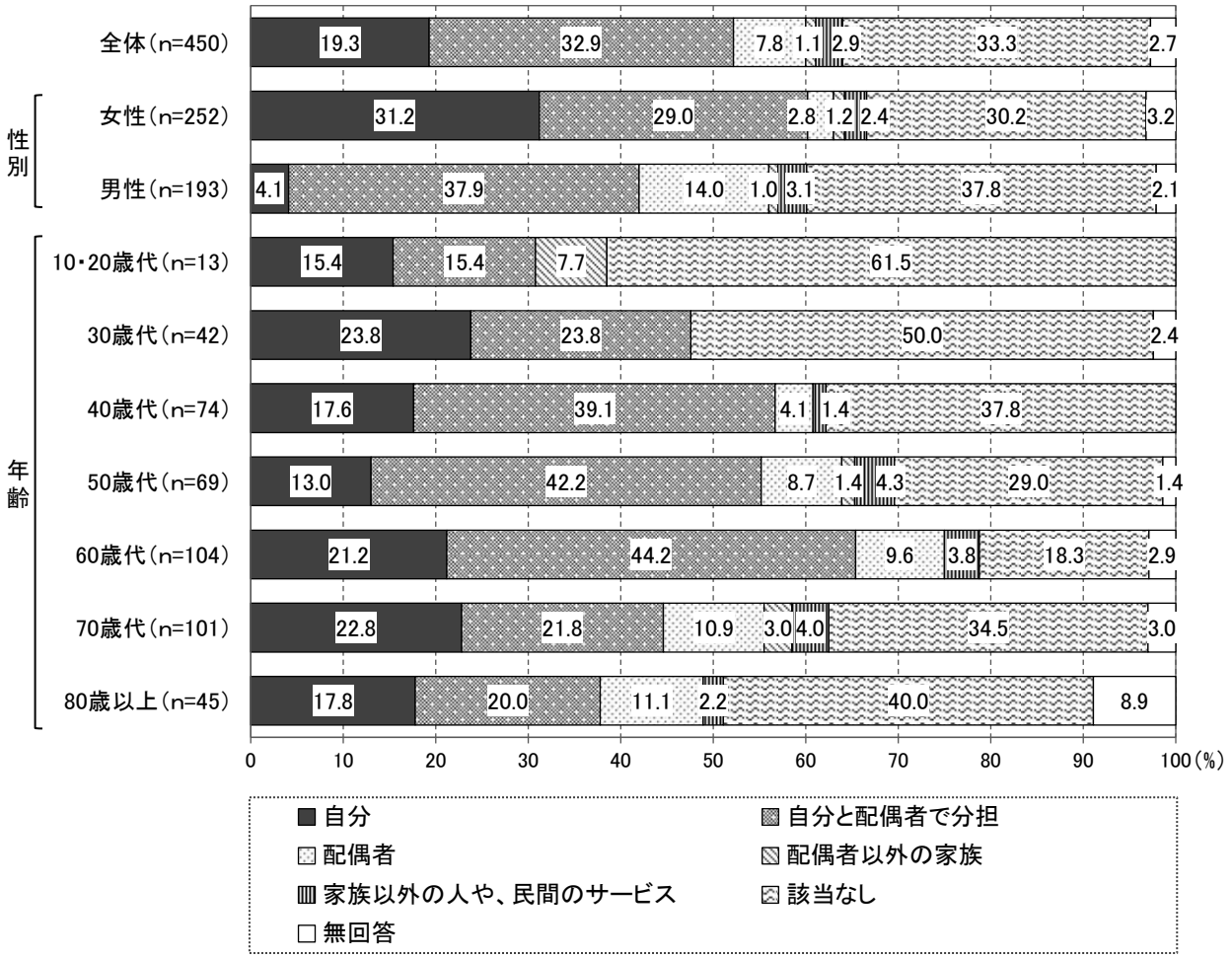
前回調査とは変わりありません。



（９）家族の世話（介護・看護）

全体では、「該当なし」が 33.3%と最も高く、次いで、「自分と配偶者で分担」（32.9%）、「自分」（19.3%）の順となっています。

前回調査と比べると、男女とも「自分と配偶者で分担」が女性で 6.4 ポイント、男性で 8.5 ポイント高くなっています。



3．教育・子育てについて

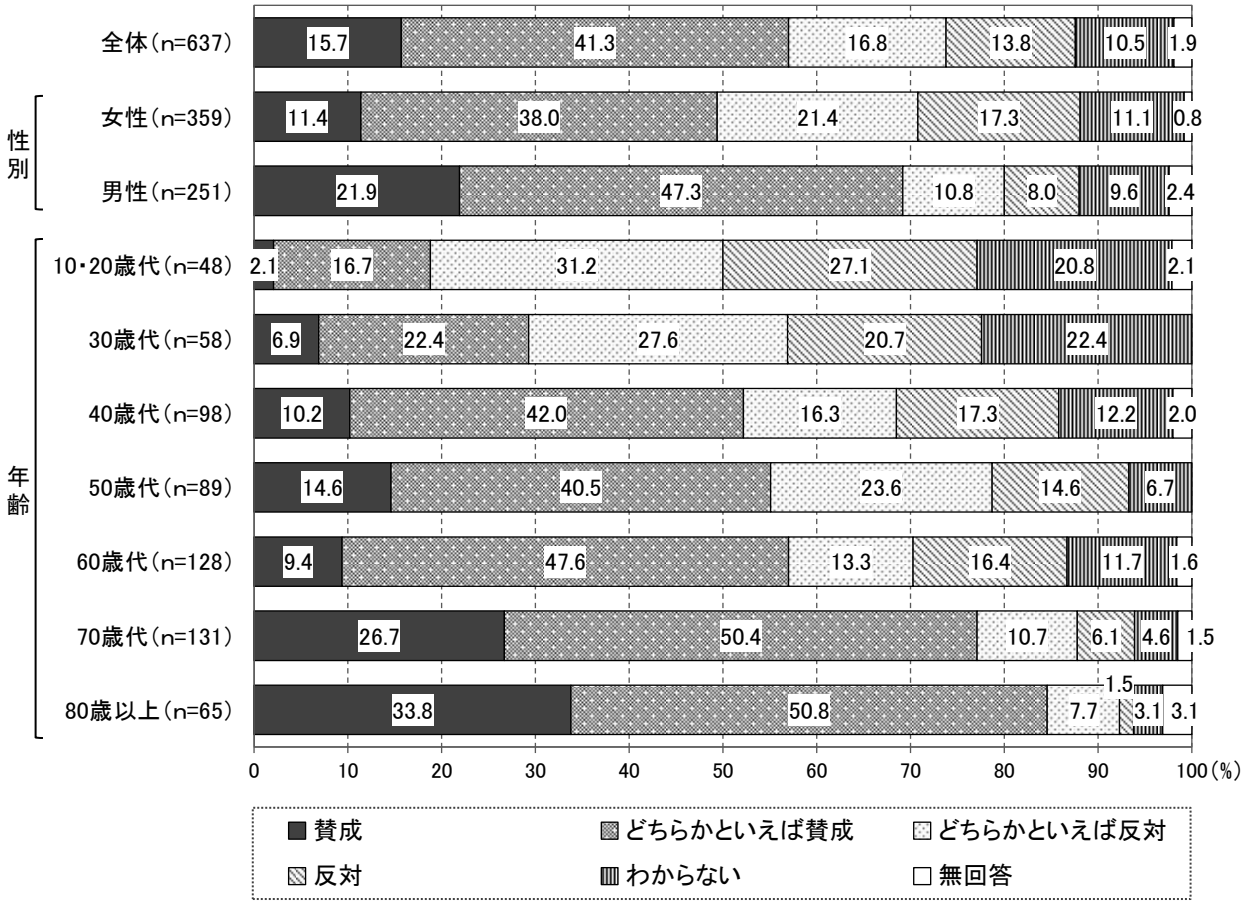
問3　子どもの育て方について、あなたの考えに近いものは何ですか。子どもがいない人も、あなたの考え方をお答えください。

（1）女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる

全体では、「どちらかといえば賛成」が41.3%と最も高く、次いで、「どちらかといえば反対」（16.8%）、「賛成」（15.7%）の順となっています。

性年齢別では、10・20歳代女性で「反対」が40.8%で最も高く、30歳代女性で「どちらかといえば反対」が37.9%で最も高くなっています。

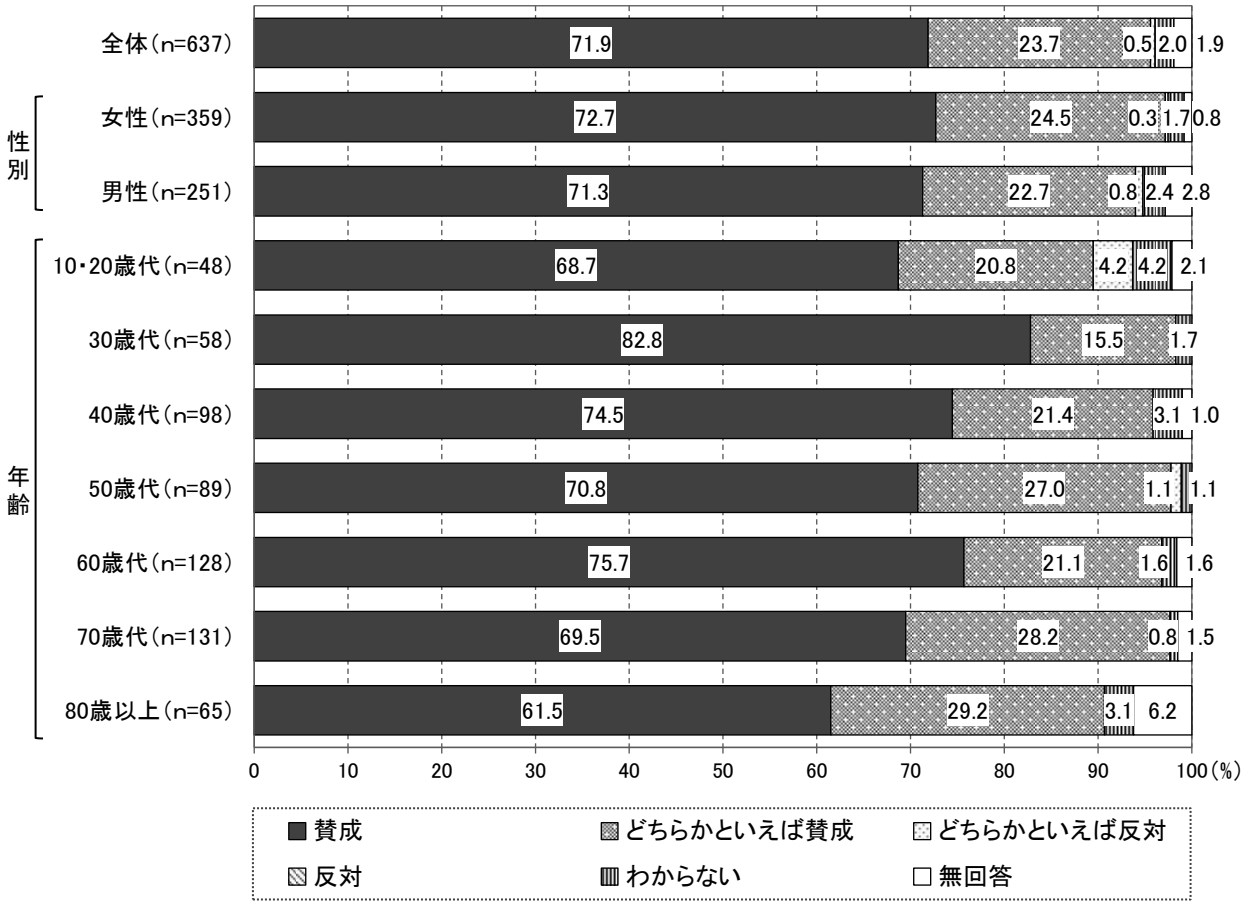
前回調査と比べると、「賛成」が女性で12.8ポイント、男性で19.6ポイントと大幅に低くなっています。



（２）女の子も男の子も、経済的に自立できるよう育てる

全体では、「賛成」が71.9％と最も高く、次いで、「どちらかといえば賛成」(23.7％)、「わからない」(2.0％）の順となっています。

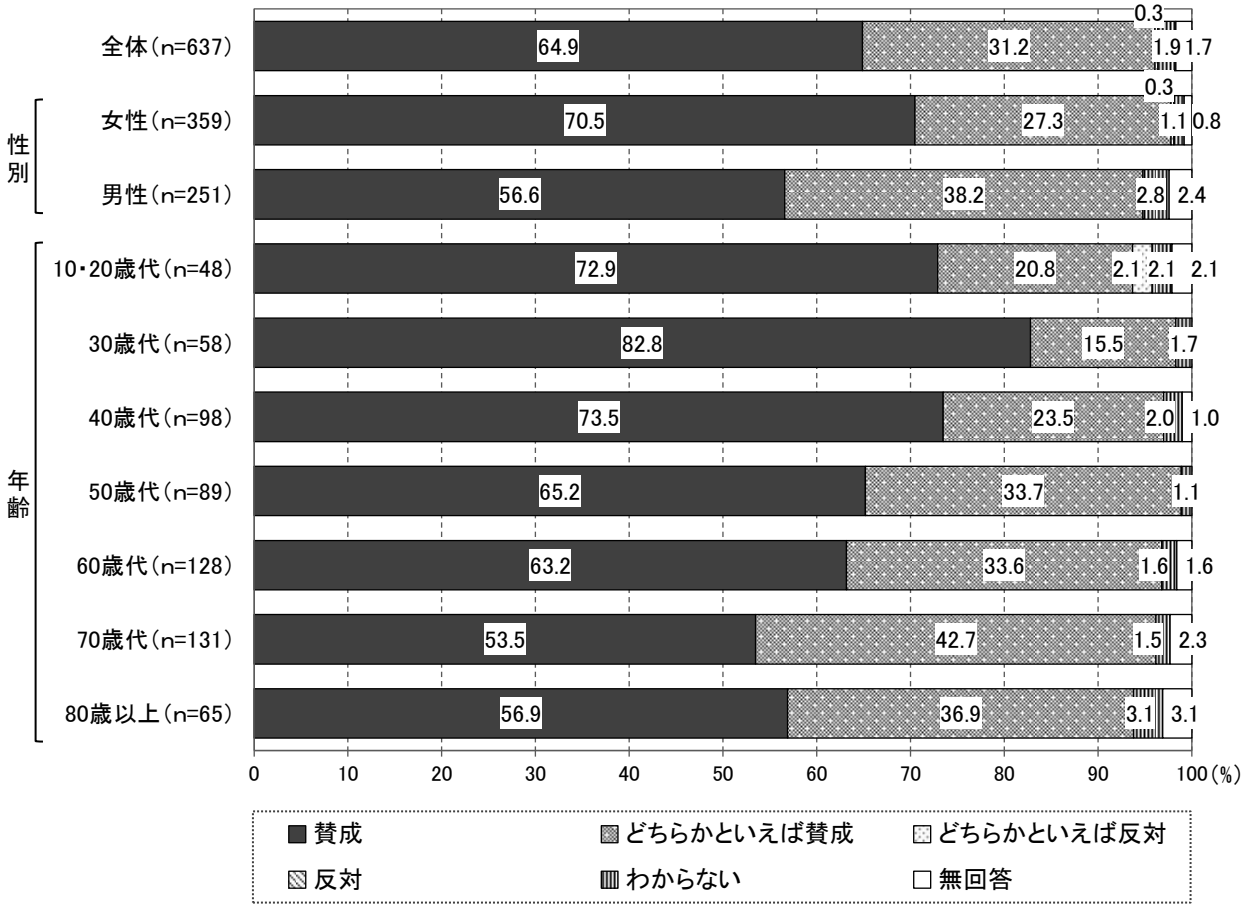
前回調査とは変わりありません。



（3）女の子も男の子も、炊事･洗濯･掃除など生活に必要な技術が身につくよう育てる

全体では、「賛成」が64.9%と最も高く、次いで、「どちらかといえば賛成」(31.2%)、「わからない」(1.9%) の順となっています。

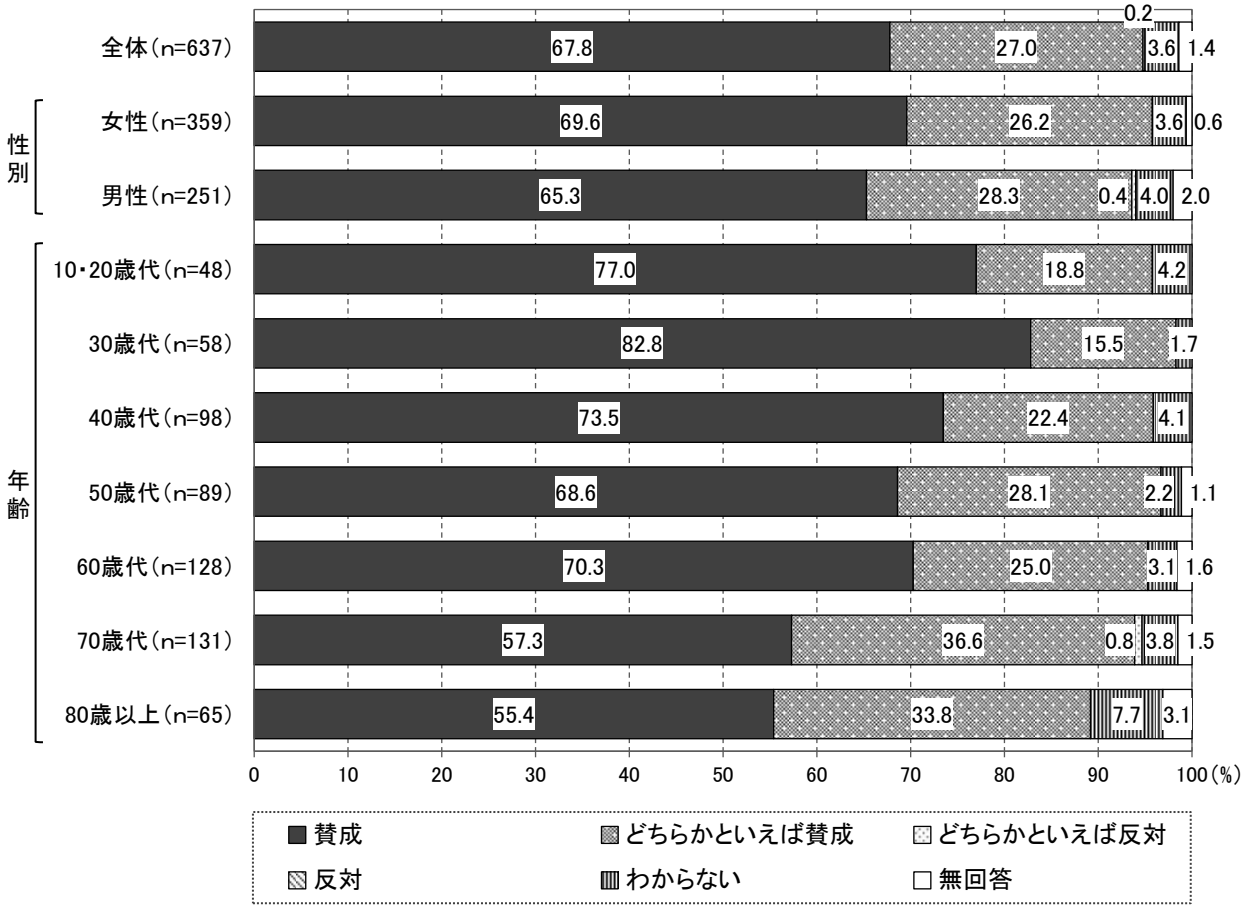
前回調査とは変わりありません。



（４）女の子も男の子も、生まれ持った個性･才能を可能な限り活かして育てる

全体では、「賛成」が 67.8％と最も高く、次いで、「どちらかといえば賛成」（27.0％）、「わからない」（3.6％）の順となっています。

前回調査とは変わりありません。

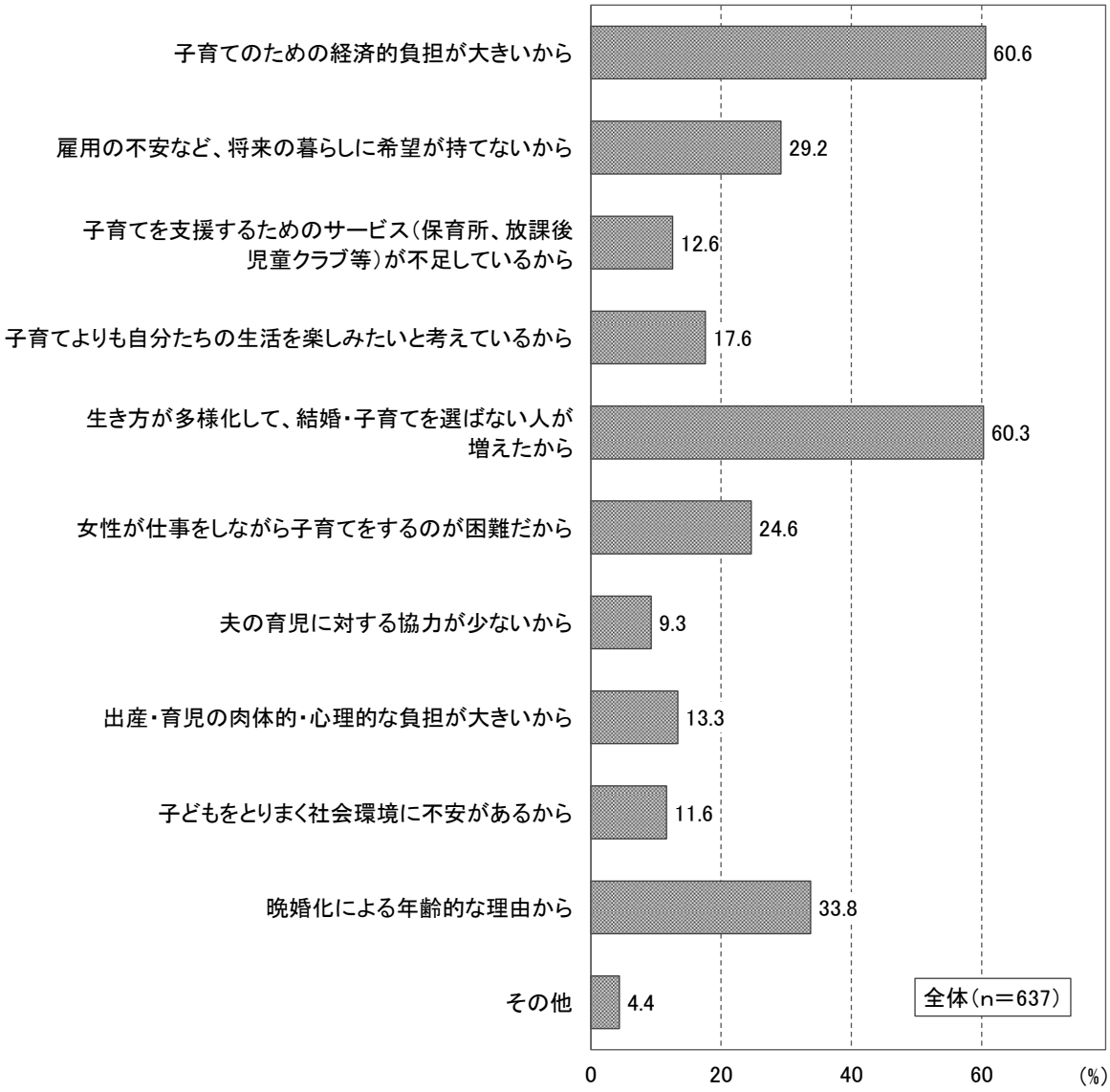


問４　少子化が問題になっていますが、その理由は何だと思いますか。【複数回答可】

「子育てのための経済的負担が大きいから」が 60.6％と最も高く、次いで、「生き方が多様化して、結婚・子育てを選ばない人が増えたから」（60.3％）、「晩婚化による年齢的な理由から」（33.8％）の順となっています。

性年齢別では、10～30 歳代男女で「子育てのための経済的負担が大きいから」が最も高い一方、50～60 歳代男女で「生き方が多様化して、結婚・子育てを選ばない人が増えたから」が最も高くなっています。

前回調査とくらべると、「生き方が多様化して、結婚・子育てを選ばない人が増えたから」が男女ともにわずかながら高くなっています。



		（n＝）	子育てのための経済的負担が大きいから	雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから	子育てを支援するためのサービス（保育所、放課後児童クラブ等）が不足しているから	子育てよりも自分たちの生活を楽しみたいと考えているから	生き方が多様化して、結婚・子育てを選ばない人が増えたから	女性が仕事をしながら子育てをするのが困難だから	夫の育児に対する協力が少ないから	出産・育児の肉体的・心理的な負担が大きいから	子どもをとりまく社会環境に不安があるから	晩婚化による年齢的な理由から	その他
全体		637	386 60.6%	186 29.2%	80 12.6%	112 17.6%	384 60.3%	157 24.6%	59 9.3%	85 13.3%	74 11.6%	215 33.8%	28 4.4%
性別	女性	359	212 59.1%	94 26.2%	51 14.2%	55 15.3%	216 60.2%	101 28.1%	42 11.7%	54 15.0%	45 12.5%	133 37.0%	11 3.1%
	男性	251	161 64.1%	85 33.9%	28 11.2%	52 20.7%	152 60.6%	53 21.1%	15 6.0%	25 10.0%	26 10.4%	76 30.3%	13 5.2%
年齢	10･20歳代	48	35 72.9%	12 25.0%	6 12.5%	7 14.6%	26 54.2%	15 31.3%	3 6.3%	7 14.6%	11 22.9%	8 16.7%	1 2.1%
	30歳代	58	37 63.8%	23 39.7%	10 17.2%	11 19.0%	25 43.1%	14 24.1%	6 10.3%	10 17.2%	3 5.2%	14 24.1%	6 10.3%
	40歳代	98	59 60.2%	25 25.5%	12 12.2%	18 18.4%	63 64.3%	18 18.4%	11 11.2%	17 17.3%	14 14.3%	34 34.7%	5 5.1%
	50歳代	89	50 56.2%	29 32.6%	12 13.5%	22 24.7%	54 60.7%	22 24.7%	7 7.9%	10 11.2%	8 9.0%	40 44.9%	3 3.4%
	60歳代	128	70 54.7%	35 27.3%	15 11.7%	17 13.3%	86 67.2%	37 28.9%	15 11.7%	19 14.8%	11 8.6%	48 37.5%	4 3.1%
	70歳代	131	86 65.6%	48 36.6%	18 13.7%	22 16.8%	77 58.8%	34 26.0%	11 8.4%	12 9.2%	15 11.5%	43 32.8%	4 3.1%
	80歳以上	65	40 61.5%	10 15.4%	7 10.8%	10 15.4%	40 61.5%	15 23.1%	5 7.7%	8 12.3%	9 13.8%	24 36.9%	3 4.6%

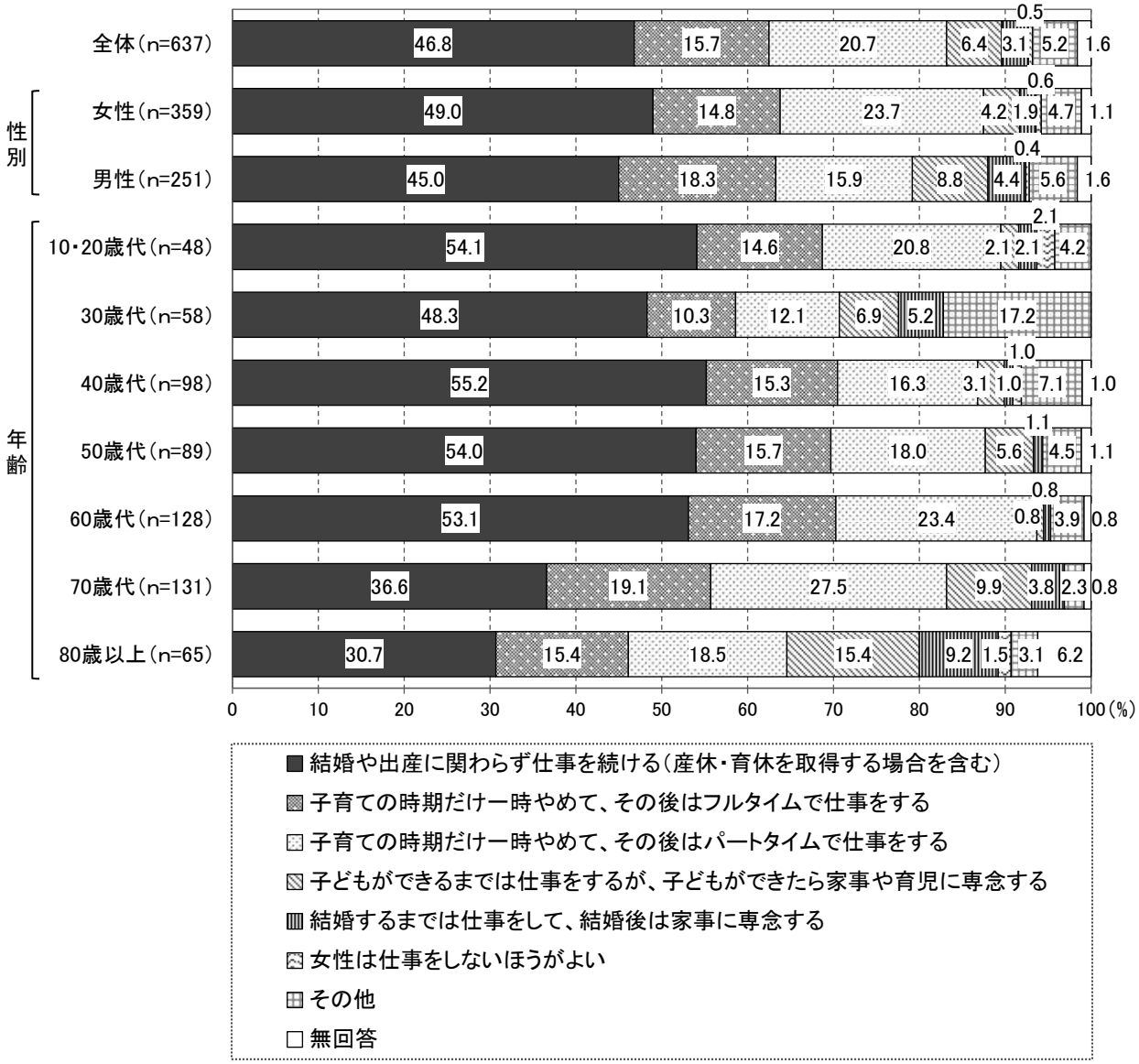
4．仕事と生活について

問5　女性の働き方についておたずねします。あなたが、女性の働き方として「望ましい」と思うのはどれですか。

全体では、「結婚や出産に関わらず仕事を続ける（産休・育休を取得する場合を含む）」が46.8%と最も高く、次いで、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする」（20.7%）、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする」（15.7%）の順となっています。

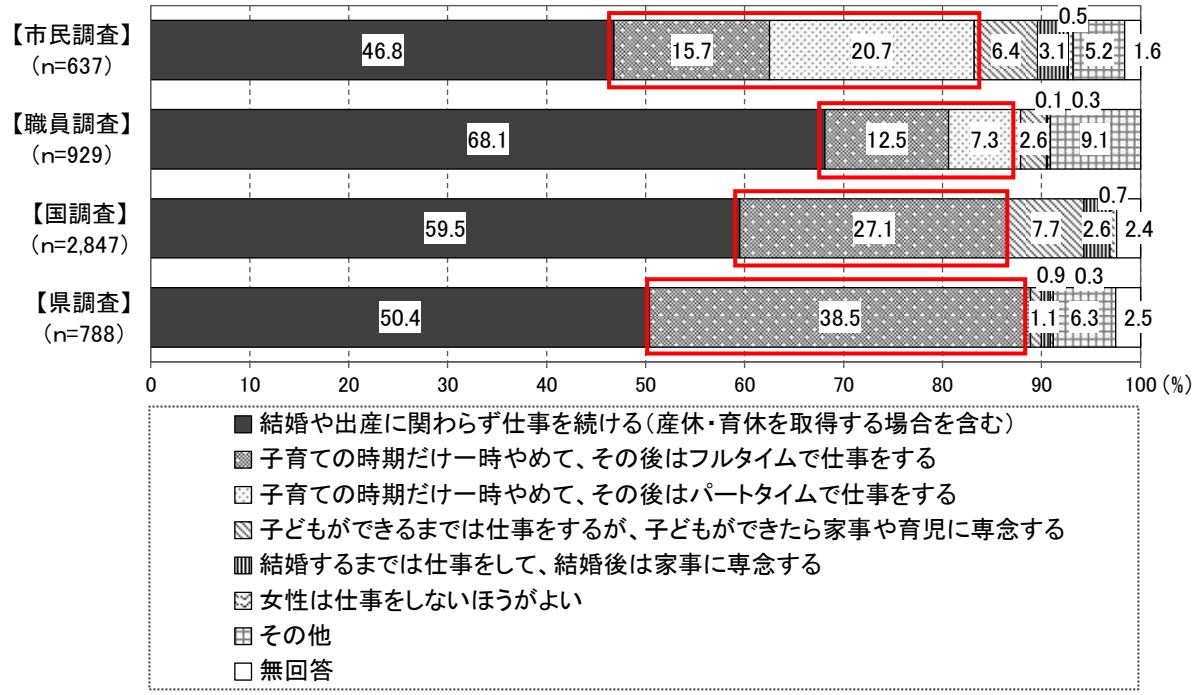
前回調査と比べると、選択肢が異なりますが「結婚や出産に関わらず仕事を続ける（産休・育休を取得する場合を含む）」（前回は「ずっと仕事を持っているほうがよい」）の割合は男女とも変わりありません。

国・県調査と比べても同じ順に高くなっています。



◆国・県との比較（参考）

【国】男女共同参画社会に関する世論調査（令和４年度）
【県】令和元年度男女共同参画社会づくりのための県民意識調査結果



※国調査での選択肢は「こどもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっているため、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする」の凡例に当てはめています。

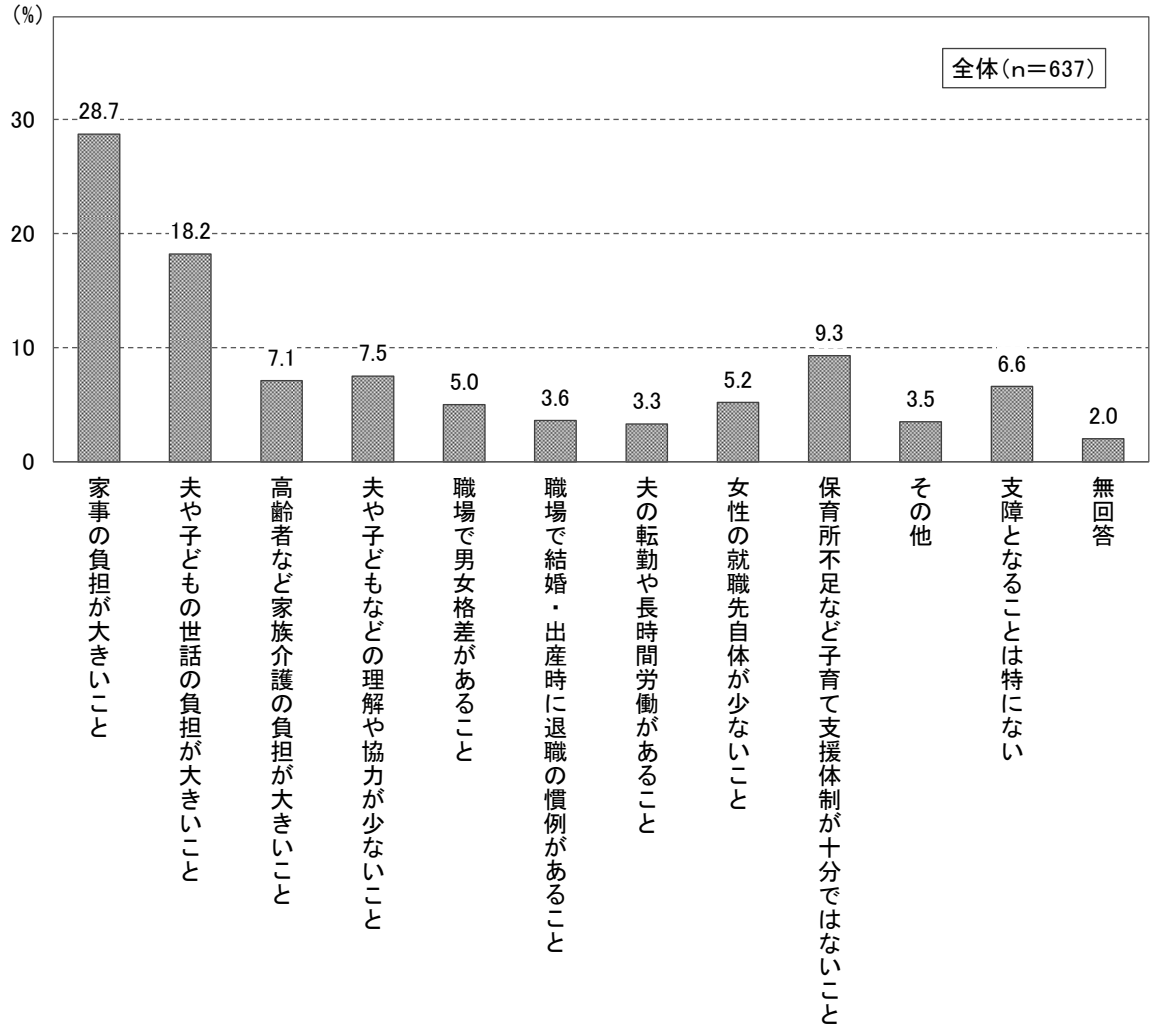
※県調査での選択肢は「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」となっているため、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする」の凡例に当てはめています。

※「その他」については、国調査には選択肢がありません。

問６　あなたは、女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。

全体では、「家事の負担が大きいこと」が 28.7％と最も高く、次いで、「夫や子どもの世話の負担が大きいこと」（18.2％）、「保育所不足など子育て支援体制が十分ではないこと」（9.3％）の順となっています。

前回調査と比べると、選択肢が異なりますが、男女ともに同じく「家事の負担が大きいこと」、「夫や子どもの世話の負担が大きいこと」が高くなっています。



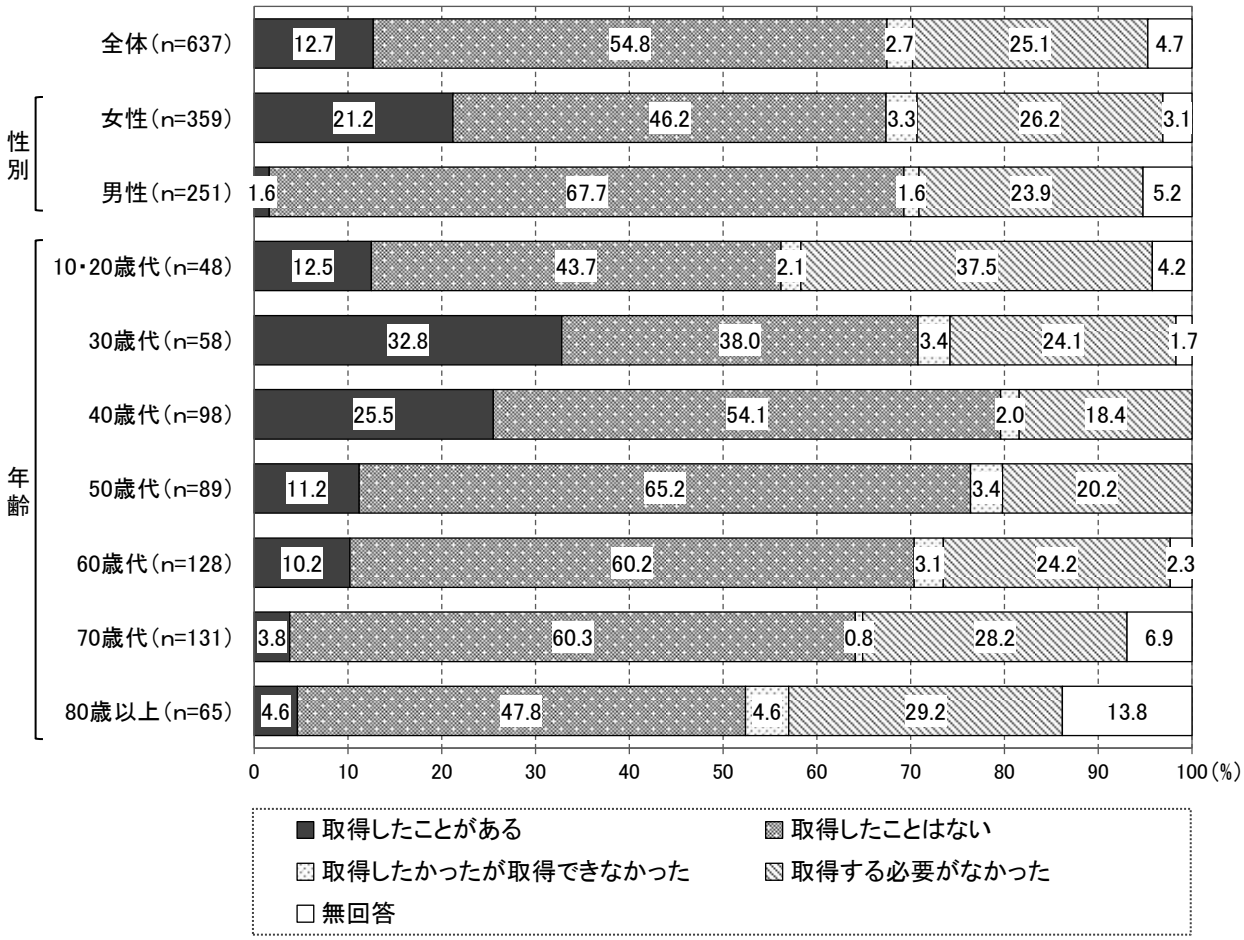
		(n=)	家事の負担が大きいこと	夫や子どもの世話の負担が大きいこと	高齢者など家族介護の負担が大きいこと	夫や子どもなどの理解や協力が少ないこと	職場で男女格差があること	職場で結婚・出産時に退職の慣例があること	夫の転勤や長時間労働があること	女性の就職先自体が少ないこと	保育所不足など子育て支援体制が十分ではないこと	その他	支障となることは特にない	無回答
全体		637	183 28.7%	116 18.2%	45 7.1%	48 7.5%	32 5.0%	23 3.6%	21 3.3%	33 5.2%	59 9.3%	22 3.5%	42 6.6%	13 2.0%
性別	女性	359	118 32.9%	51 14.2%	30 8.4%	34 9.5%	20 5.6%	13 3.6%	10 2.8%	19 5.3%	28 7.8%	12 3.3%	17 4.7%	7 1.9%
	男性	251	63 24.9%	61 24.3%	14 5.6%	11 4.4%	10 4.0%	9 3.6%	10 4.0%	13 5.2%	27 10.8%	7 2.8%	23 9.2%	3 1.2%
年齢	10・20歳代	48	15 31.1%	12 25.0%	2 4.2%	2 4.2%	3 6.3%	1 2.1%	2 4.2%	1 2.1%	6 12.5%	0 0.0%	4 8.3%	0 0.0%
	30歳代	58	14 24.1%	16 27.7%	0 0.0%	1 1.7%	3 5.2%	3 5.2%	1 1.7%	4 6.9%	9 15.5%	5 8.6%	2 3.4%	0 0.0%
	40歳代	98	36 36.8%	17 17.3%	4 4.1%	9 9.2%	5 5.1%	4 4.1%	3 3.1%	2 2.0%	5 5.1%	7 7.1%	6 6.1%	0 0.0%
	50歳代	89	30 33.7%	15 16.9%	7 7.9%	8 9.0%	4 4.5%	0 0.0%	3 3.4%	6 6.7%	9 10.1%	2 2.2%	5 5.6%	0 0.0%
	60歳代	128	33 25.7%	29 22.7%	9 7.0%	9 7.0%	4 3.1%	8 6.3%	6 4.7%	6 4.7%	11 8.6%	5 3.9%	6 4.7%	2 1.6%
	70歳代	131	39 29.9%	18 13.7%	16 12.2%	11 8.4%	10 7.6%	5 3.8%	3 2.3%	7 5.3%	8 6.1%	1 0.8%	10 7.6%	3 2.3%
	80歳以上	65	16 24.6%	6 9.2%	6 9.2%	6 9.2%	2 3.1%	1 1.5%	2 3.1%	7 10.8%	7 10.8%	0 0.0%	7 10.8%	5 7.7%

問７　あなたは、これまでに育児休業（産休を除く）や介護休業を取得したことがありますか。

①　育児休業　※産休を除く

全体では、「取得したことはない」が 54.8％と最も高く、次いで、「取得する必要がなかった」（25.1％）、「取得したことがある」（12.7％）の順となっています。

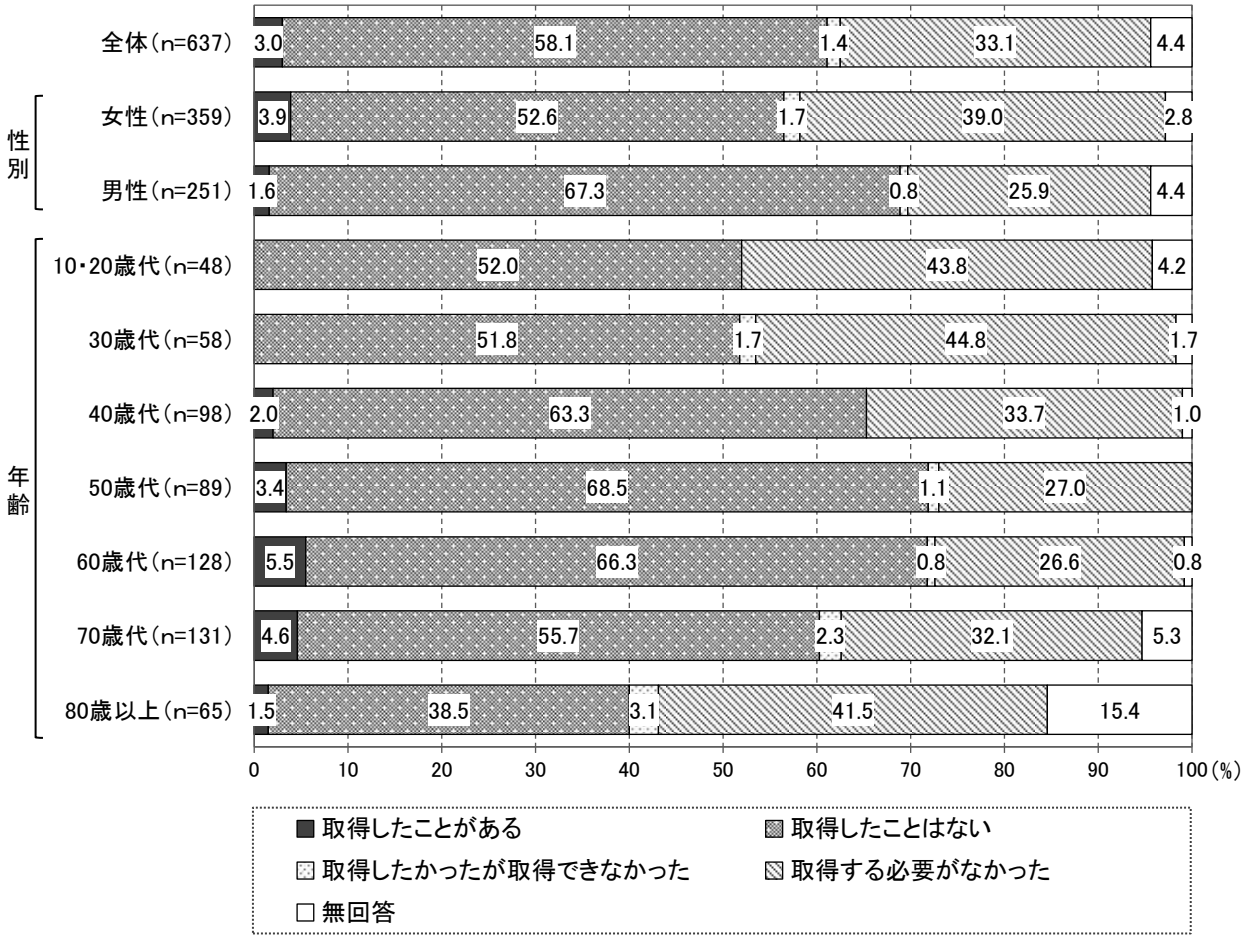
性年齢別では、30 歳代女性で取得割合が 51.4％と最も高くなっています。



② 介護休業

全体では、「取得したことはない」が 58.1％と最も高く、次いで、「取得する必要がなかった」（33.1％）、「取得したことがある」（3.0％）の順となっています。

年齢別では、60 歳代と 70 歳代の取得割合が他の年代と比べるとわずかながら高くなっています。



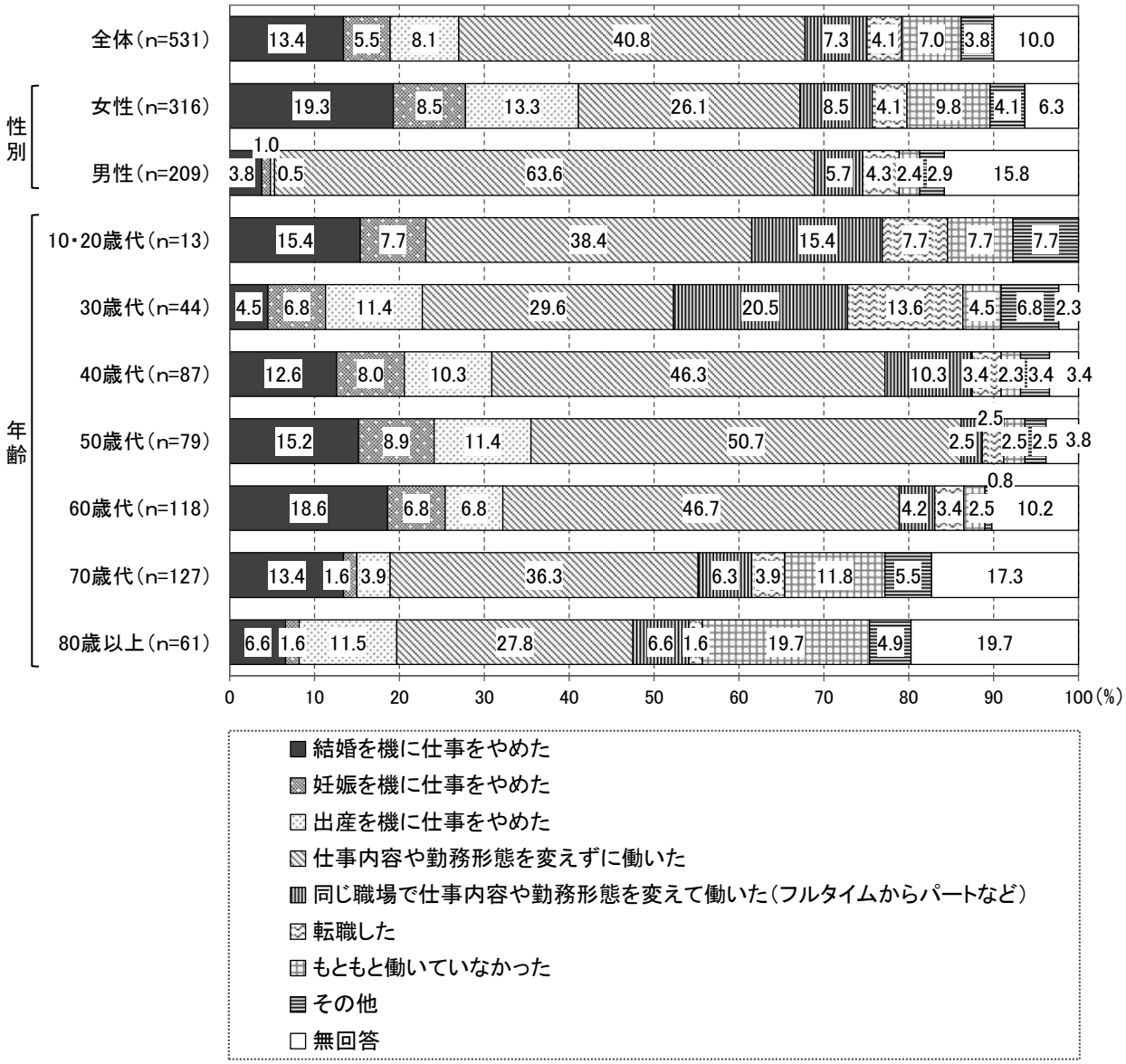
問８

◆結婚している人（していた人や事実婚を含む）のみ。

あなたは、これまでに結婚や妊娠・出産の際、働き方に変化がありましたか。

全体では、「仕事内容や勤務形態を変えずに働いた」が 40.8％と最も高く、次いで、「結婚を機に仕事をやめた」（13.4％）、「出産を機に仕事をやめた」（8.1％）の順となっています。

性別では、女性で「結婚を機に仕事をやめた」が2割近くとなっています。

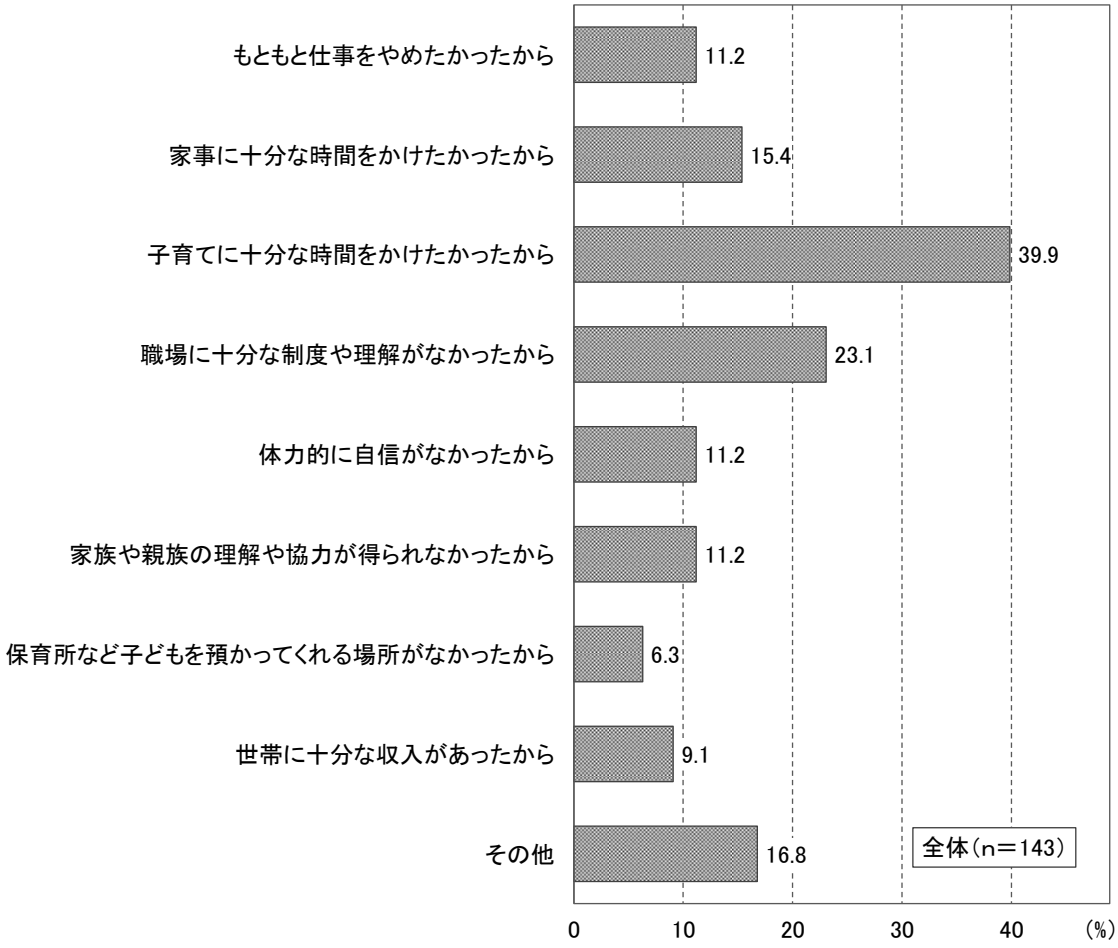


問８-1

◆問８で「1. 」～「３.」（結婚・妊娠・出産を機に仕事をやめた）と回答した方。
仕事をやめた理由は何ですか。【複数回答可】

「子育てに十分な時間をかけたかったから」が 39.9％と最も高く、次いで、「職場に十分な制度や理解がなかったから」（23.1％）、「その他」（16.8％）の順となっています。

性別、年齢別でも同じく「子育てに十分な時間をかけたかったから」が最も高くなっています。

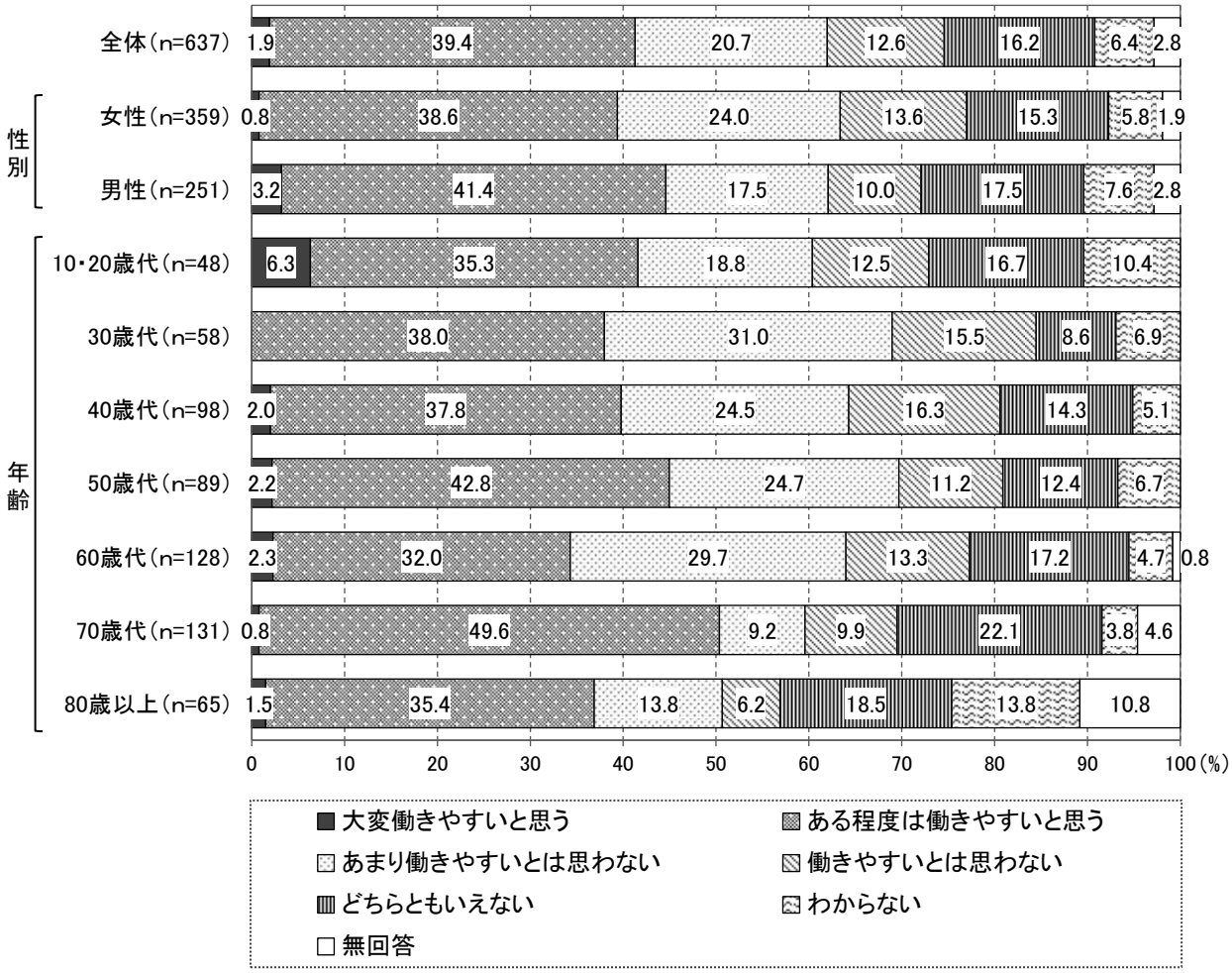


		(n=)	もともと仕事をやめたかったから	家事に十分な時間をかけたかったから	子育てに十分な時間をかけたかったから	職場に十分な制度や理解がなかったから	体力的に自信がなかったから	家族や親族の理解や協力が得られなかったから	保育所など子どもを預かってくれる場所がなかったから	世帯に十分な収入があったから	その他
全体		143	16 11.2%	22 15.4%	57 39.9%	33 23.1%	16 11.2%	16 11.2%	9 6.3%	13 9.1%	24 16.8%
性別	女性	130	15 11.5%	18 13.8%	50 38.5%	29 22.3%	16 12.3%	16 12.3%	9 6.9%	10 7.7%	24 18.5%
	男性	11	1 9.1%	4 36.4%	7 63.6%	4 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 27.3%	0 0.0%
年齢	10・20歳代	3	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%
	30歳代	10	0 0.0%	1 10.0%	3 30.0%	6 60.0%	3 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 20.0%
	40歳代	27	5 18.5%	3 11.1%	10 37.0%	5 18.5%	1 3.7%	3 11.1%	1 3.7%	1 3.7%	4 14.8%
	50歳代	28	2 7.1%	5 17.9%	9 32.1%	9 32.1%	2 7.1%	4 14.3%	3 10.7%	2 7.1%	3 10.7%
	60歳代	38	6 15.8%	6 15.8%	18 47.4%	7 18.4%	5 13.2%	4 10.5%	0 0.0%	7 18.4%	7 18.4%
	70歳代	24	2 8.3%	3 12.5%	8 33.3%	5 20.8%	4 16.7%	4 16.7%	2 8.3%	2 8.3%	5 20.8%
	80歳以上	12	0 0.0%	4 33.3%	8 66.7%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	3 25.0%	1 8.3%	1 8.3%

問９　あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。

全体では、「ある程度は働きやすいと思う」が 39.4%と最も高く、次いで、「あまり働きやすいとは思わない」（20.7%）、「どちらともいえない」（16.2%）の順となっています。

性別では、「大変働きやすい」と「ある程度は働きやすいと思う」を合わせた「働きやすい率」で女性が男性より 5.2 ポイント低くなっています。

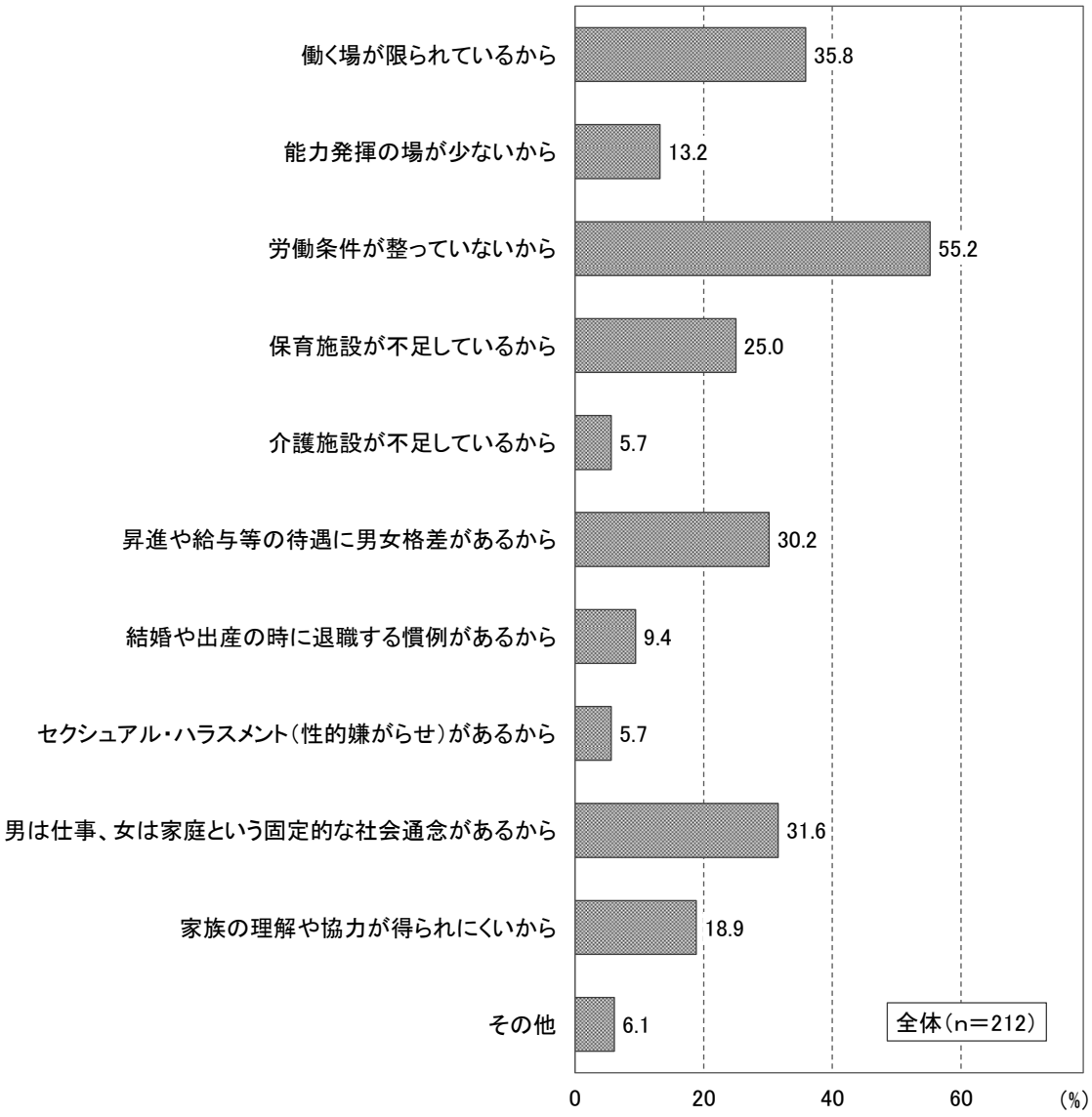


問９-1

◆問９で「３．あまり働きやすいとは思わない」または「４．働きやすいとは思わない」と回答した方。

そう思わない理由は何ですか。【複数回答可】

「労働条件が整っていないから」が 55.2%と最も高く、次いで、「働く場が限られているから」(35.8%)、「男は仕事、女は家庭という固定的な社会通念があるから」(31.6%) の順となっています。



		(n=)	働く場が限られているから	能力発揮の場が少ないから	労働条件が整っていないから	保育施設が不足しているから	介護施設が不足しているから	昇進や給与等の待遇に男女格差があるから	結婚や出産の時に退職する慣例があるから	セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）があるから	男は仕事、女は家庭という固定的な社会通念があるから	家族の理解や協力が得られにくいから	その他
全体		212	76 35.8%	28 13.2%	117 55.2%	53 25.0%	12 5.7%	64 30.2%	20 9.4%	12 5.7%	67 31.6%	40 18.9%	13 6.1%
性別	女性	135	43 31.9%	18 13.3%	74 54.8%	32 23.7%	7 5.2%	38 28.1%	9 6.7%	9 6.7%	46 34.1%	37 27.4%	11 8.1%
	男性	69	29 42.0%	9 13.0%	38 55.1%	19 27.5%	5 7.2%	22 31.9%	9 13.0%	2 2.9%	20 29.0%	3 4.3%	2 2.9%
年齢	10・20歳代	15	4 26.7%	3 20.0%	9 60.0%	4 26.7%	0 0.0%	6 40.0%	1 6.7%	2 13.3%	7 46.7%	1 6.7%	2 13.3%
	30歳代	27	14 51.9%	3 11.1%	14 51.9%	10 37.0%	0 0.0%	10 37.0%	1 3.7%	4 14.8%	9 33.3%	2 7.4%	3 11.1%
	40歳代	40	9 22.5%	1 2.5%	28 70.0%	13 32.5%	2 5.0%	8 20.0%	4 10.0%	3 7.5%	12 30.0%	9 22.5%	2 5.0%
	50歳代	32	16 50.0%	3 9.4%	18 56.3%	5 15.6%	1 3.1%	10 31.3%	3 9.4%	0 0.0%	11 34.4%	11 34.4%	2 6.3%
	60歳代	55	16 29.1%	9 16.4%	24 43.6%	16 29.1%	6 10.9%	16 29.1%	6 10.9%	2 3.6%	16 29.1%	12 21.8%	3 5.5%
	70歳代	25	9 36.0%	5 20.0%	17 68.0%	1 4.0%	2 8.0%	11 44.0%	2 8.0%	0 0.0%	6 24.0%	2 8.0%	0 0.0%
	80歳以上	13	6 46.2%	3 23.1%	5 38.5%	3 23.1%	1 7.7%	1 7.7%	1 7.7%	1 7.7%	5 38.5%	3 23.1%	1 7.7%

問 10

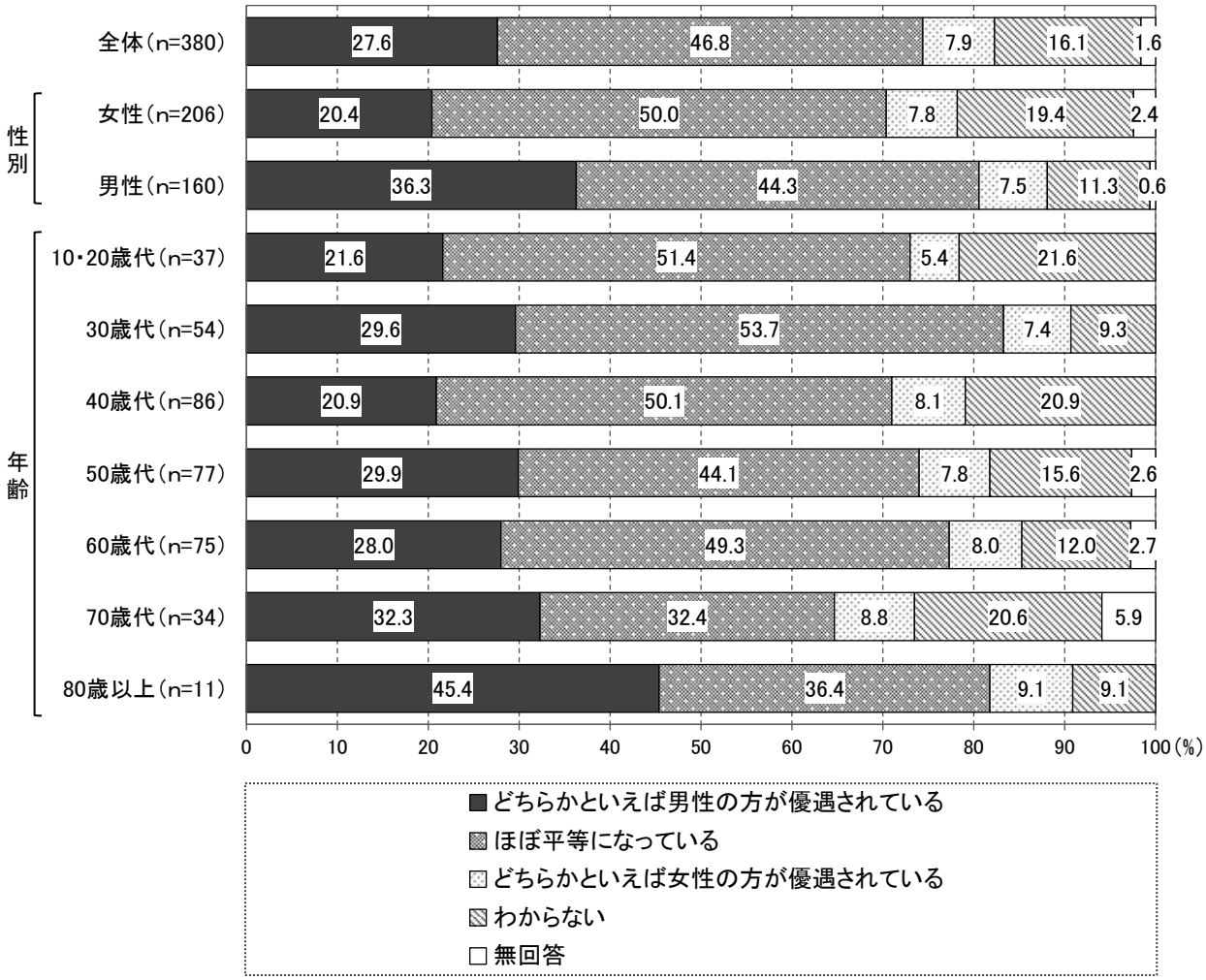
◆現在、就労されている方のみ。

現在、あなたの働く場では、女性と男性は平等だと思いますか。

（１）募集・採用

全体では、「ほぼ平等になっている」が 46.8％と最も高く、次いで、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（27.6％）、「わからない」（16.1％）の順となっています。

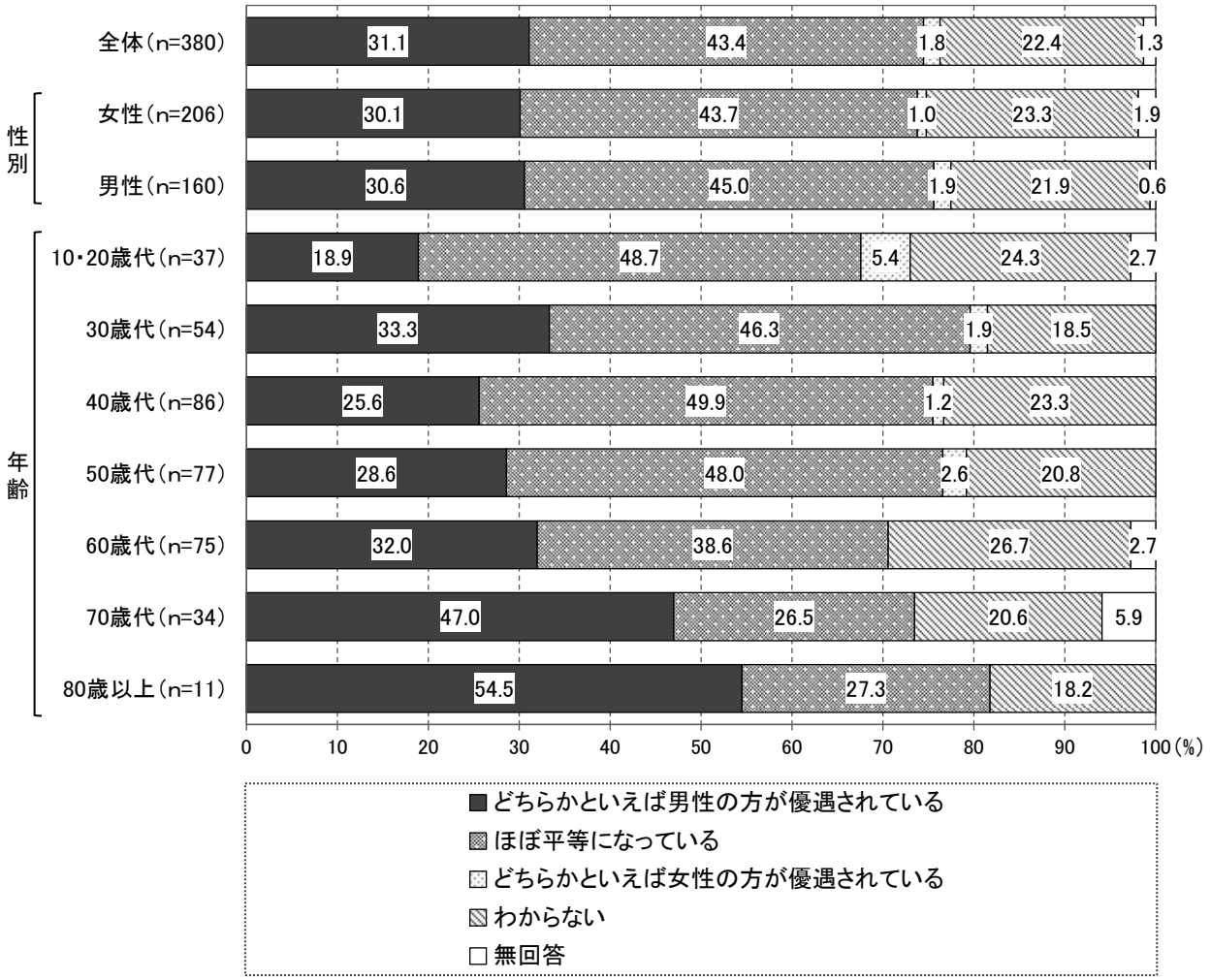
性別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が女性より男性で 15.9 ポイント高くなっていますが、なかでも 40～50 歳代男性で最も高くなっています。



（2）賃金・昇給

全体では、「ほぼ平等になっている」が 43.4％と最も高く、次いで、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（31.1％）、「わからない」（22.4％）の順となっています。

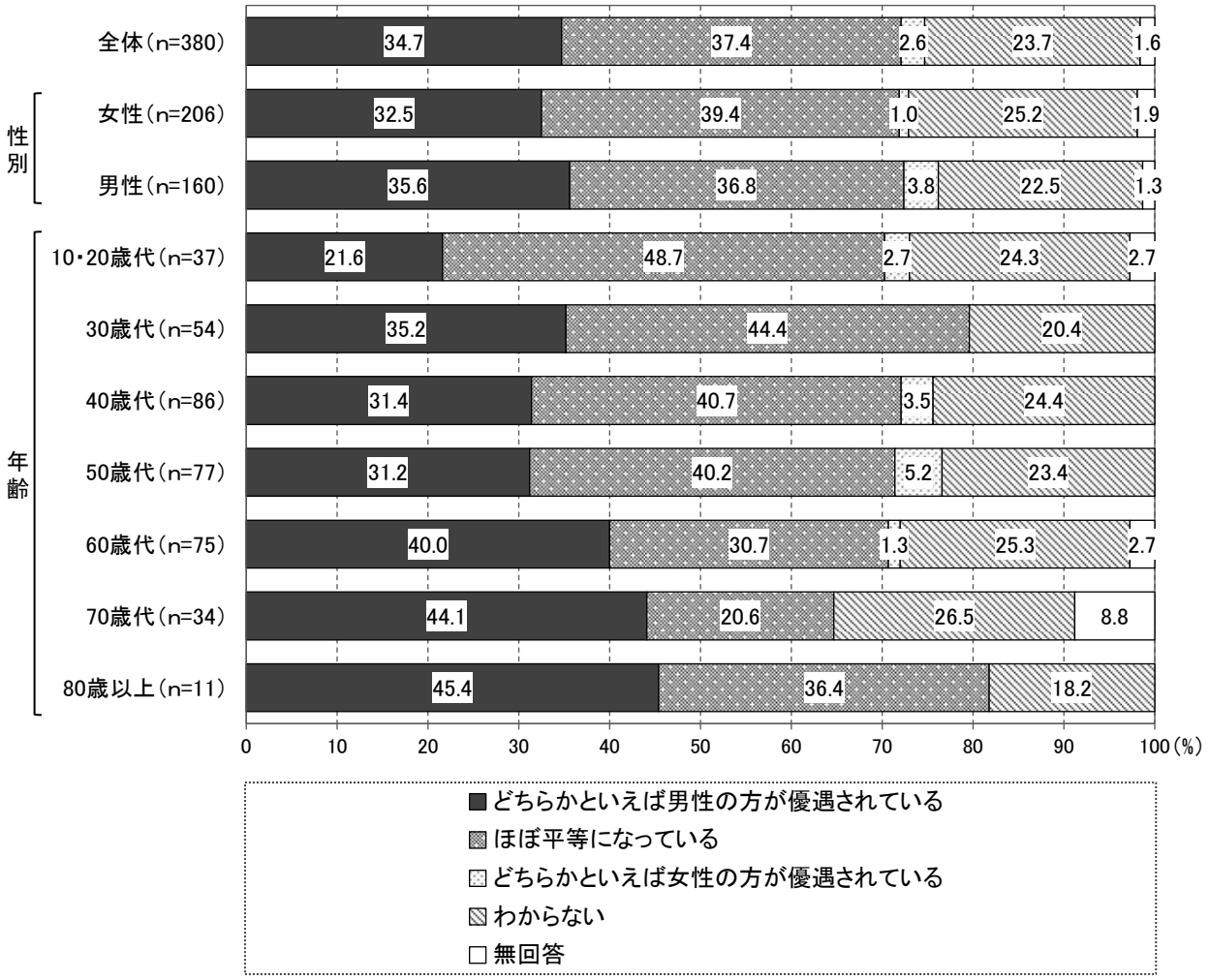
年齢別では、30 歳代を除き年代が上がるほど、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が高くなっています。



（3）昇進や昇格

全体では、「ほぼ平等になっている」が 37.4％と最も高く、次いで、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（34.7％）、「わからない」（23.7％）の順となっています。

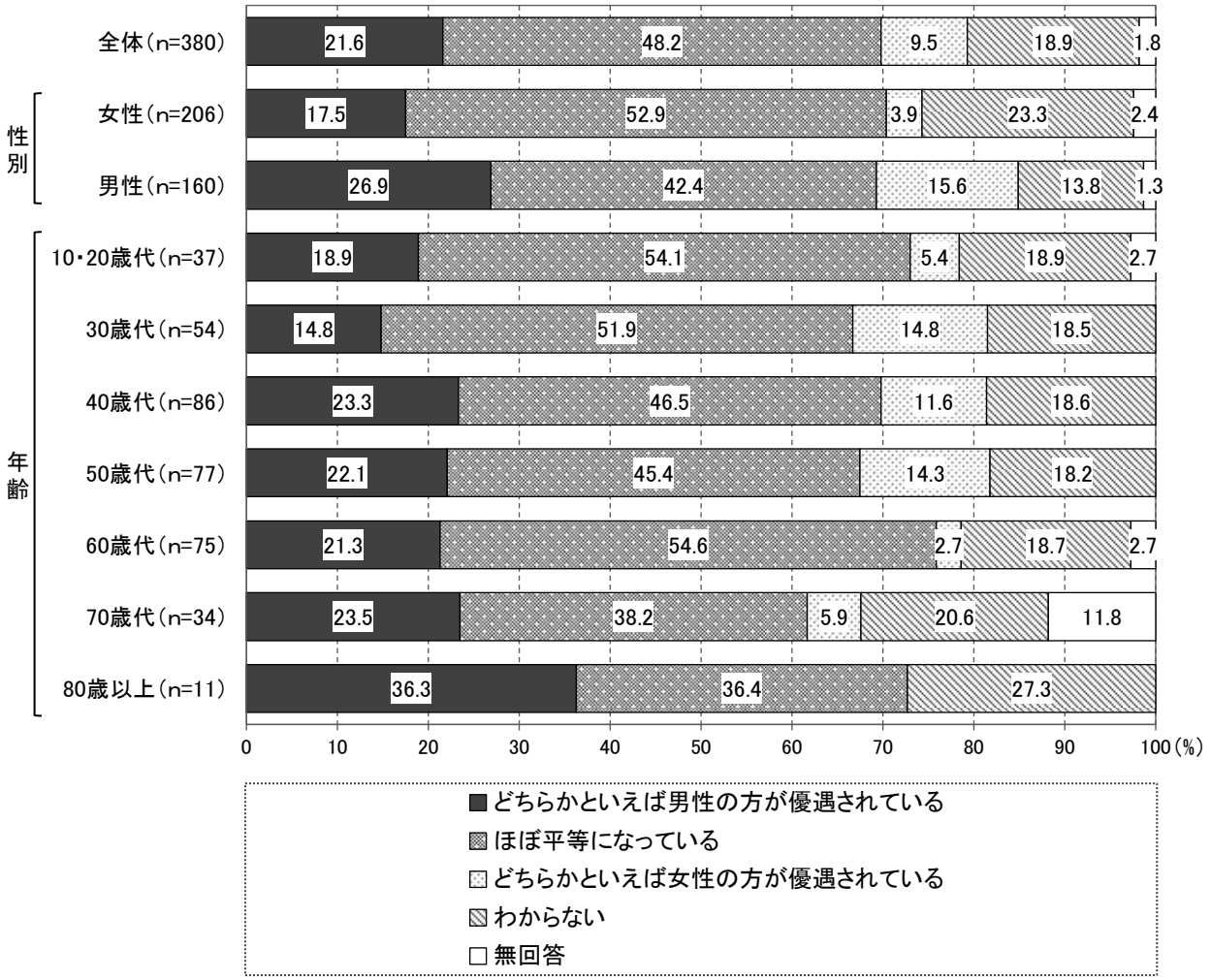
年齢別では、50 歳代以下で「ほぼ平等になっている」が４割を超えています。



（4）仕事の内容

全体では、「ほぼ平等になっている」が 48.2％と最も高く、次いで、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（21.6％）、「わからない」（18.9％）の順となっています。

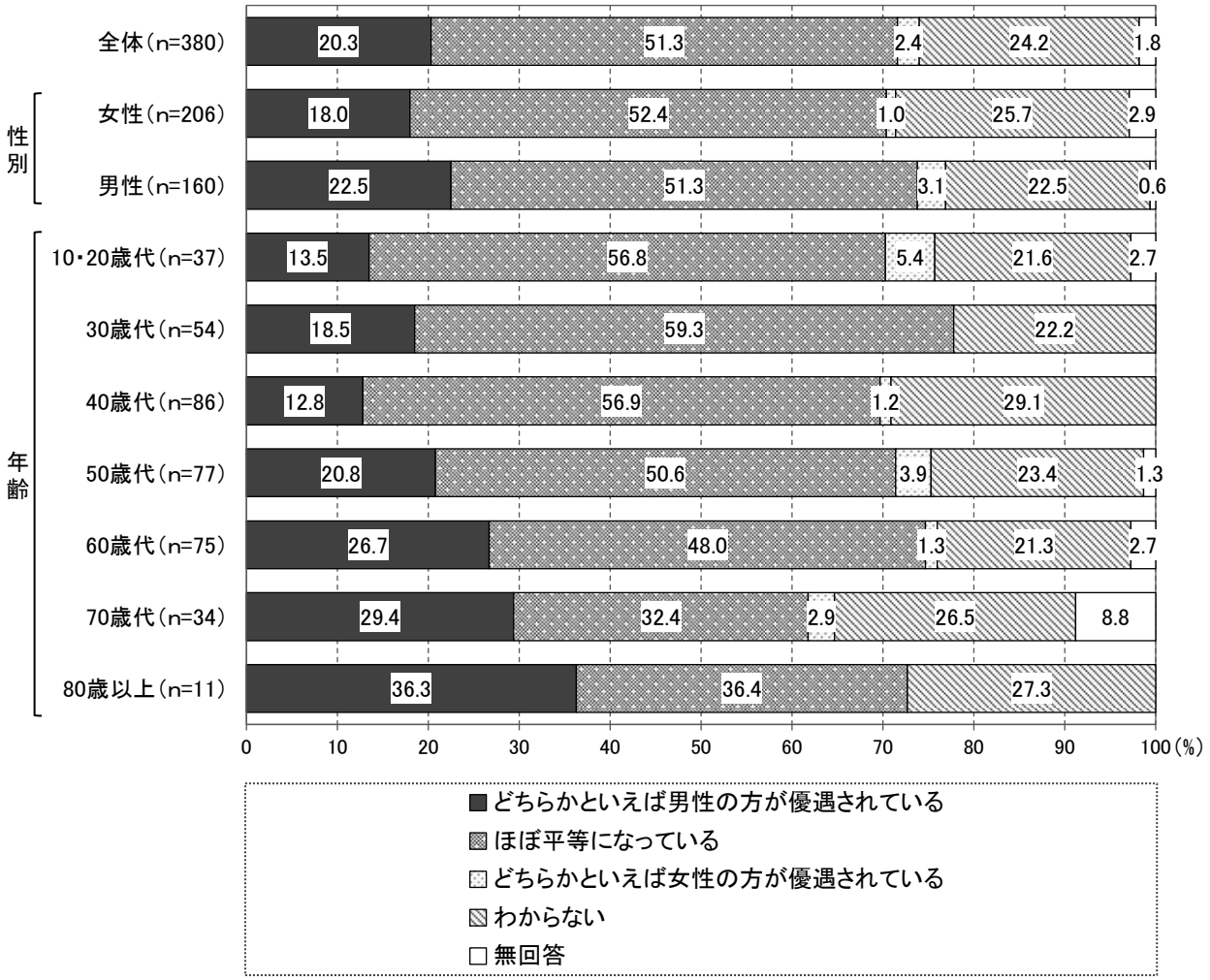
性別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が男性が女性より 9.4 ポイント高くなっています。



（５）能力評価・査定

全体では、「ほぼ平等になっている」が51.3％と最も高く、次いで、「わからない」(24.2％)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（20.3％）の順となっています。

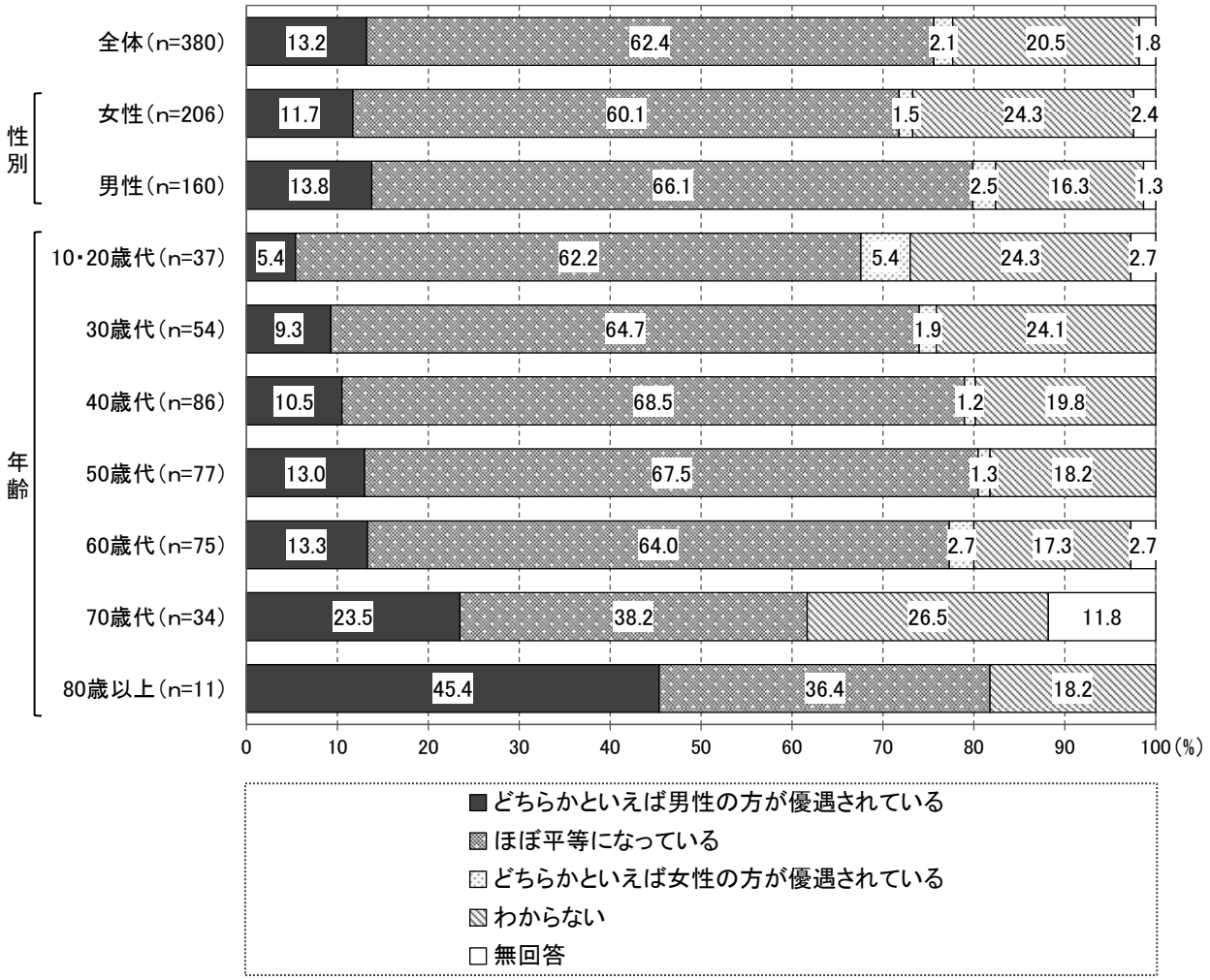
年齢別では、50歳代以下で「ほぼ平等になっている」が５割を超えています。



（６）教育訓練や研修

全体では、「ほぼ平等になっている」が 62.4％と最も高く、次いで、「わからない」(20.5％)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（13.2％）の順となっています。

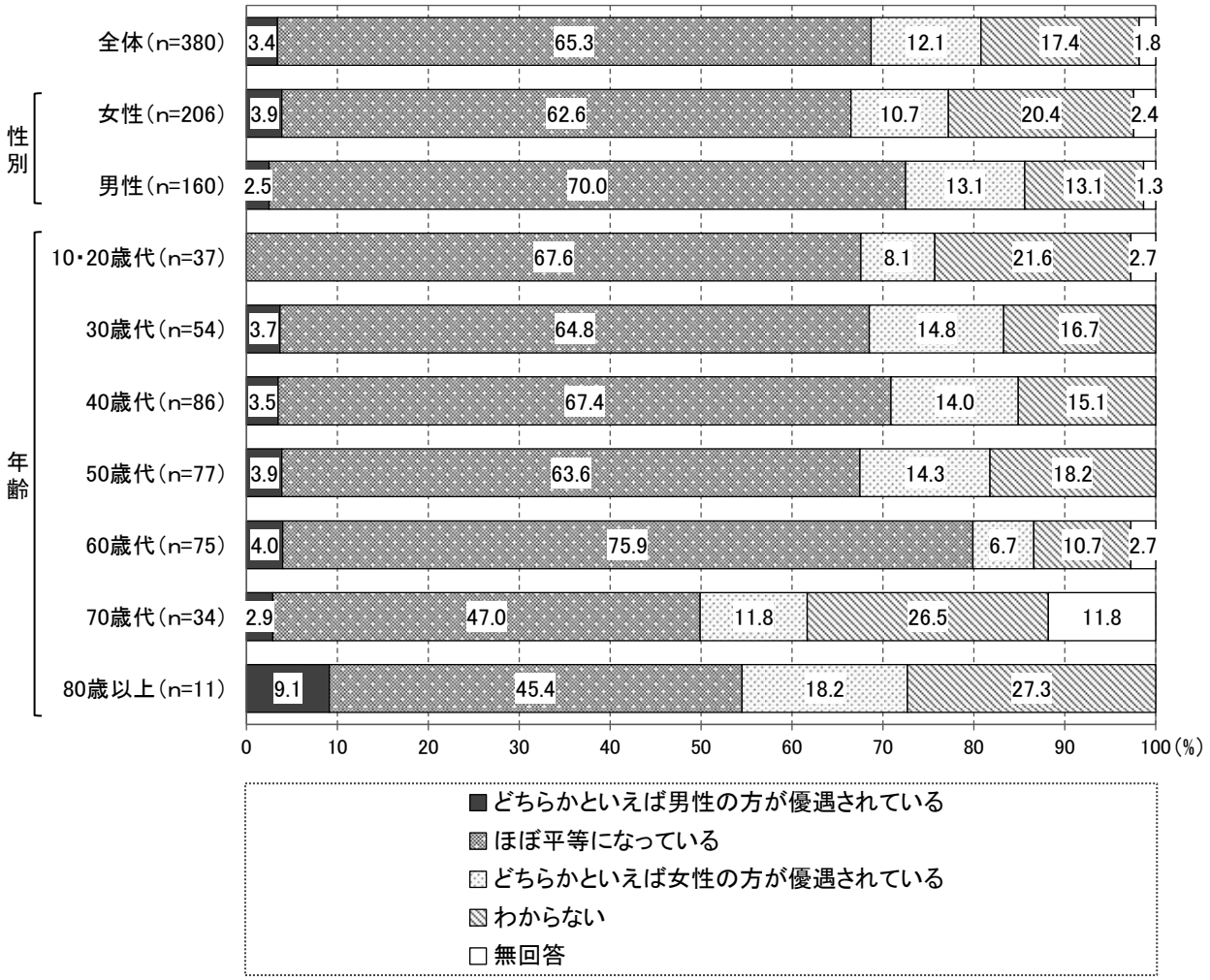
年齢別では、60 歳代以下で「ほぼ平等になっている」が６割を超えています。



（7）有給休暇の取得

全体では、「ほぼ平等になっている」が65.3%と最も高く、次いで、「わからない」(17.4%)、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」（12.1%）の順となっています。

年齢別では、50歳代以下で「ほぼ平等になっている」が６割を超えています。

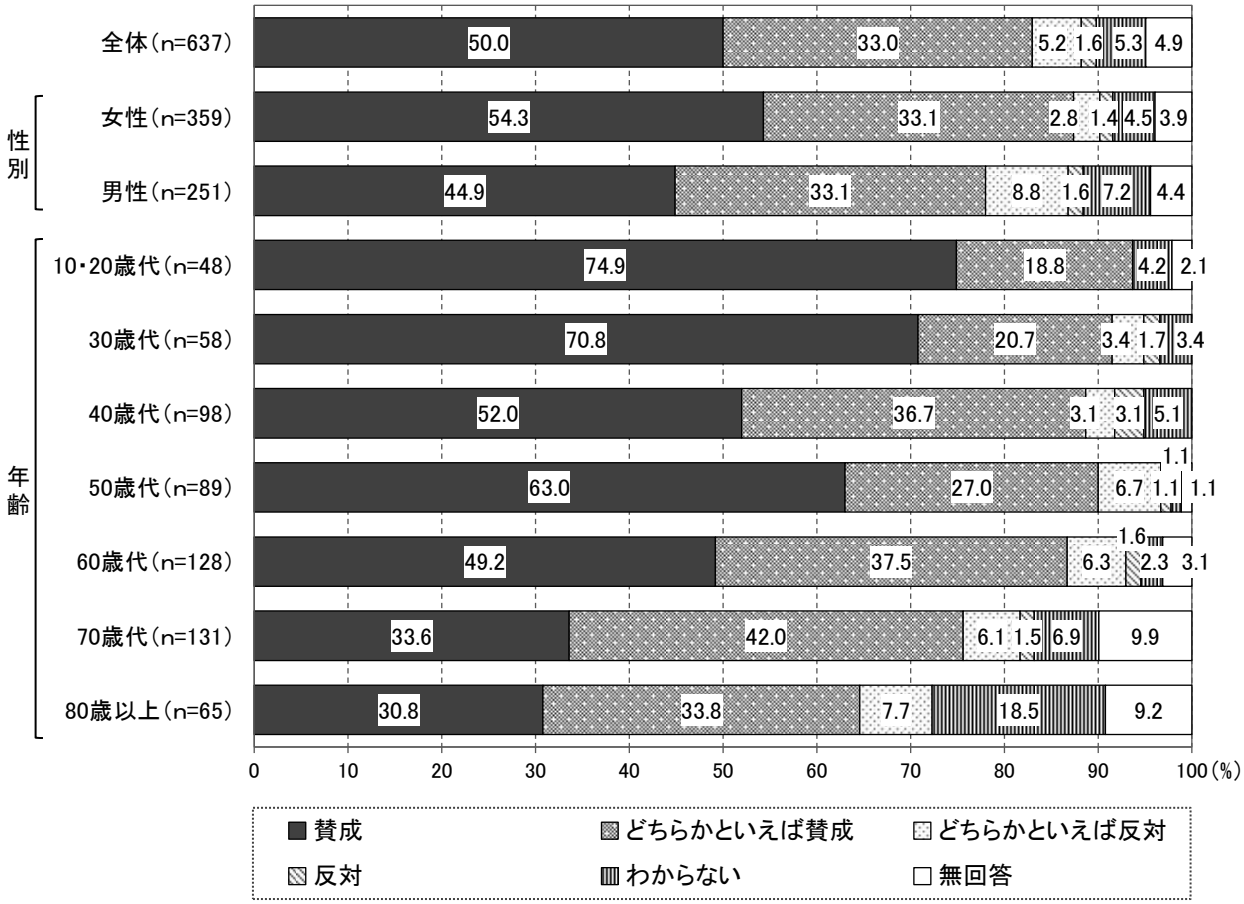


問 11　あなたは、男性が育児休業や介護休業を取ることをどう思いますか。

（１）男性が育児休業を取得すること

全体では、「賛成」が 50.0％と最も高く、次いで、「どちらかといえば賛成」（33.0％）、「わからない」（5.3％）の順となっています。

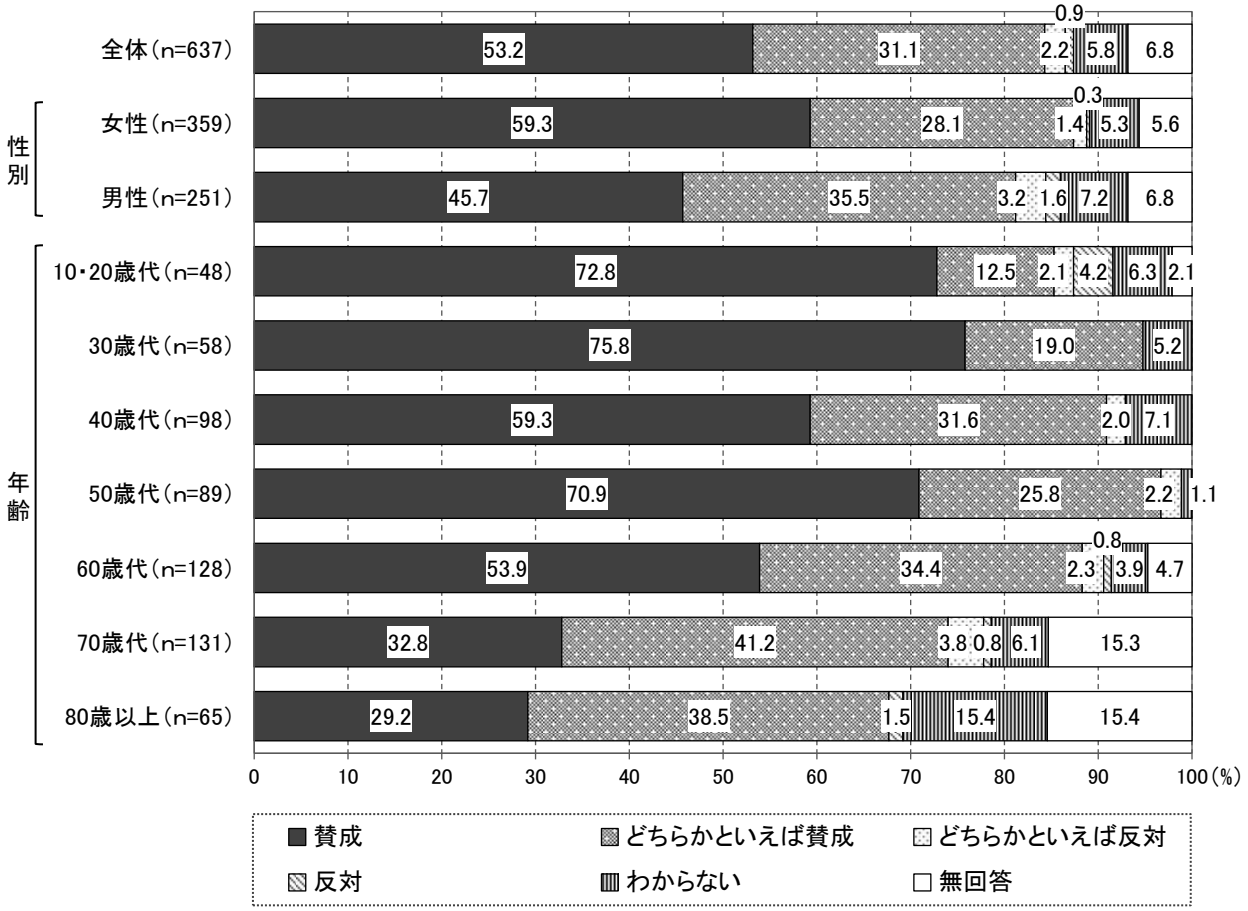
前回調査と比べると、男女ともに「賛成」がわずかながら高くなっています。



（２）男性が介護休業を取得すること

全体では、「賛成」が 53.2％と最も高く、次いで、「どちらかといえば賛成」(31.1％)、「わからない」(5.8％）の順となっています。

前回調査と比べると、性別では女性で「賛成」が 10.3 ポイント高くなっています。

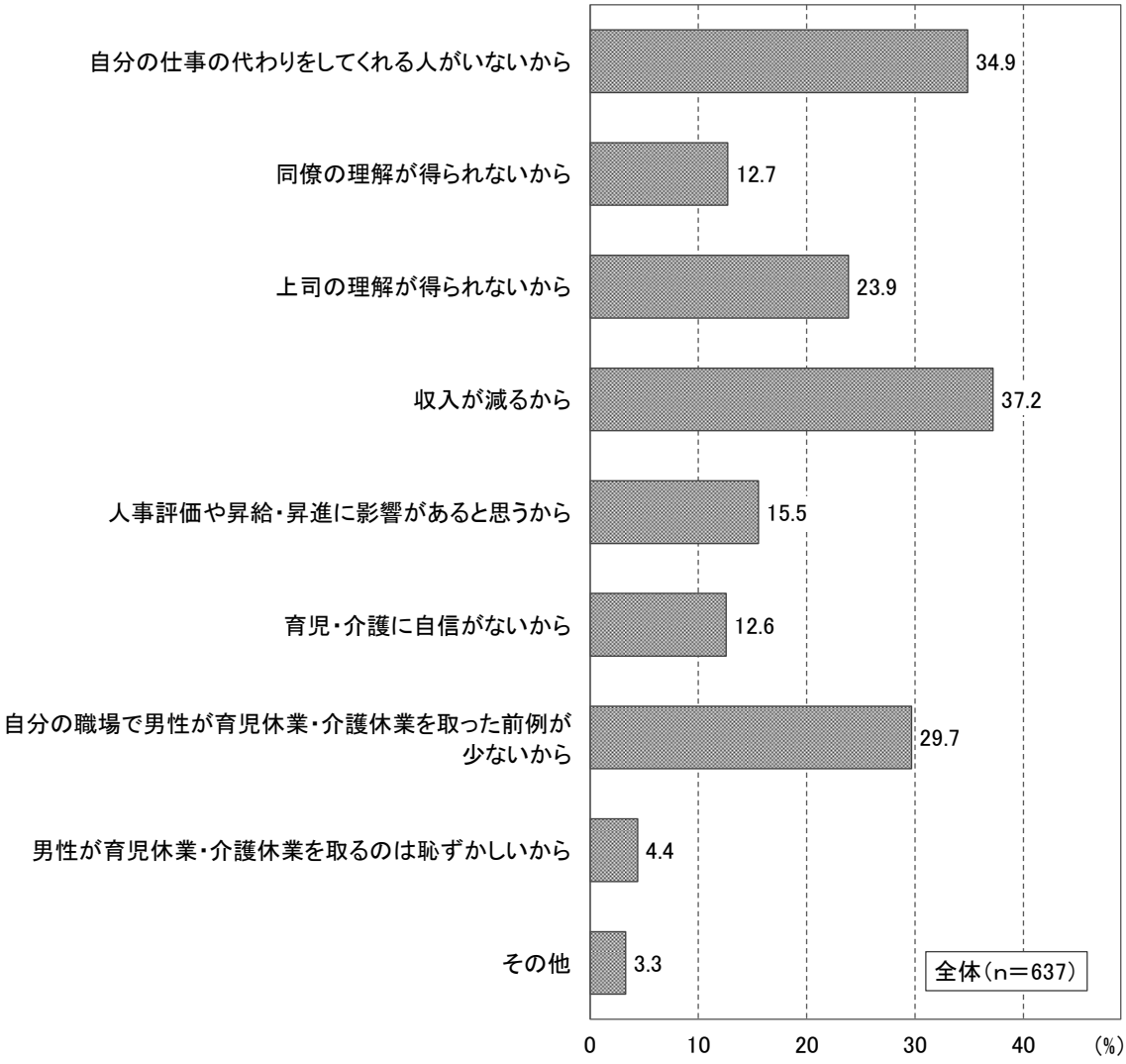


問 12　一般的に男性が育児休業・介護休業を取ることが進んでいないと言われていますが、その理由は何だと思いますか。【複数回答可】

「収入が減るから」が 37.2%と最も高く、次いで、「自分の仕事の代わりをしてくれる人がいないから」（34.9%）、「自分の職場で男性が育児休業・介護休業を取った前例が少ないから」（29.7%）の順となっています。

性年齢別では、30～50 歳代男性で「自分の仕事の代わりをしてくれる人がいないから」が最も高くなっています。

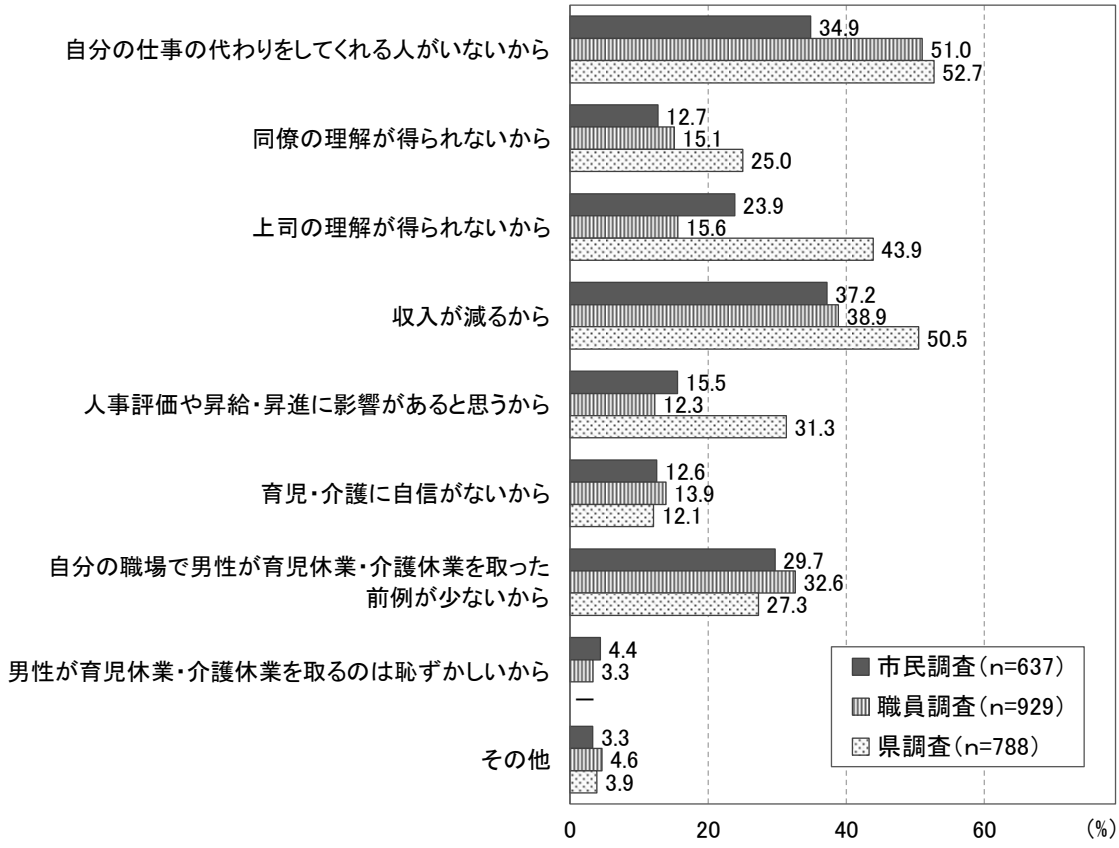
前回調査とは変わりありませんが、県調査と比べると、「上司の理解が得られないから」が低くなっています。



		(n=)	自分の仕事の代わりをしてくれる人がいないから	同僚の理解が得られないから	上司の理解が得られないから	収入が減るから	人事評価や昇給・昇進に影響があると思うから	育児・介護に自信がないから	自分の職場で男性が育児休業・介護休業を取った前例が少ないから	男性が育児休業・介護休業を取るのは恥ずかしいから	その他
全体		637	222 34.9%	81 12.7%	152 23.9%	237 37.2%	99 15.5%	80 12.6%	189 29.7%	28 4.4%	21 3.3%
性別	女性	359	105 29.2%	49 13.6%	91 25.3%	145 40.4%	63 17.5%	52 14.5%	110 30.6%	16 4.5%	12 3.3%
	男性	251	109 43.4%	27 10.8%	55 21.9%	86 34.3%	33 13.1%	26 10.4%	74 29.5%	10 4.0%	8 3.2%
年齢	10・20歳代	48	11 22.9%	8 16.7%	16 33.3%	16 33.3%	9 18.8%	6 12.5%	23 47.9%	0 0.0%	2 4.2%
	30歳代	58	21 36.2%	11 19.0%	9 15.5%	33 56.9%	9 15.5%	3 5.2%	16 27.6%	1 1.7%	3 5.2%
	40歳代	98	35 35.7%	16 16.3%	32 32.7%	33 33.7%	14 14.3%	12 12.2%	29 29.6%	5 5.1%	5 5.1%
	50歳代	89	39 43.8%	7 7.9%	17 19.1%	42 47.2%	19 21.3%	11 12.4%	25 28.1%	7 7.9%	3 3.4%
	60歳代	128	46 35.9%	18 14.1%	33 25.8%	52 40.6%	17 13.3%	19 14.8%	41 32.0%	5 3.9%	5 3.9%
	70歳代	131	42 32.1%	11 8.4%	30 22.9%	40 30.5%	18 13.7%	15 11.5%	39 29.8%	5 3.8%	1 0.8%
	80歳以上	65	22 33.8%	5 7.7%	12 18.5%	17 26.2%	12 18.5%	12 18.5%	13 20.0%	4 6.2%	2 3.1%

◆県との比較（参考）

【県】令和元年度男女共同参画社会づくりのための県民意識調査結果



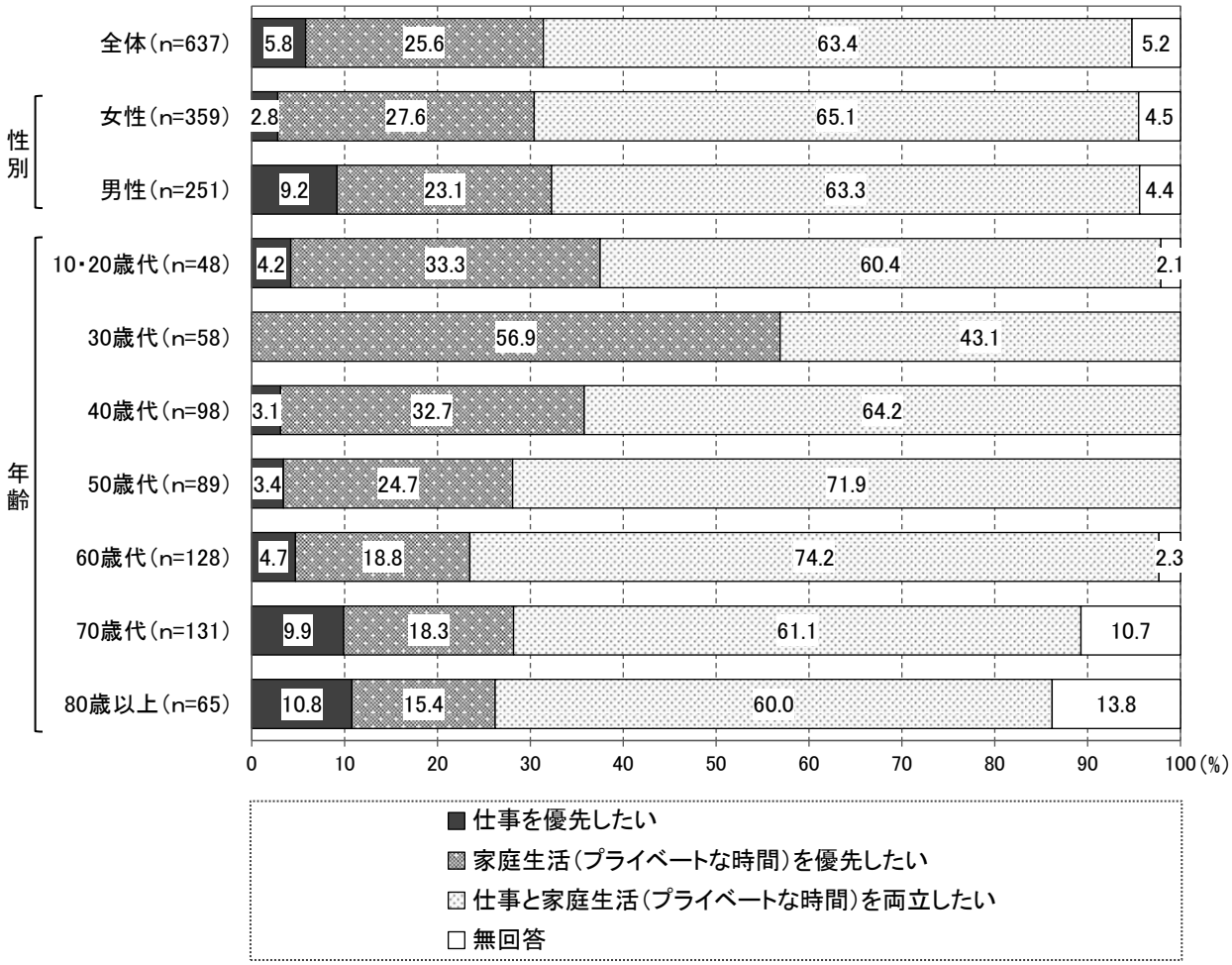
※「男性が育児休業・介護休業を取るのは恥ずかしいから」については、県調査には選択肢がありません。

問 13　日常生活における、「仕事」「家庭生活（プライベートな時間／趣味や学習・地域活動・付き合いなど）」のバランスについて、①あなたの希望する（理想とする）優先度と、②実際の（現実の）優先度をお答えください。

① あなたの希望する（理想とする）優先度

全体では、「仕事と家庭生活（プライベートな時間）を両立したい」が 63.4%と最も高く、次いで、「家庭生活（プライベートな時間）を優先したい」（25.6%）、「仕事を優先したい」（5.8%）の順となっています。

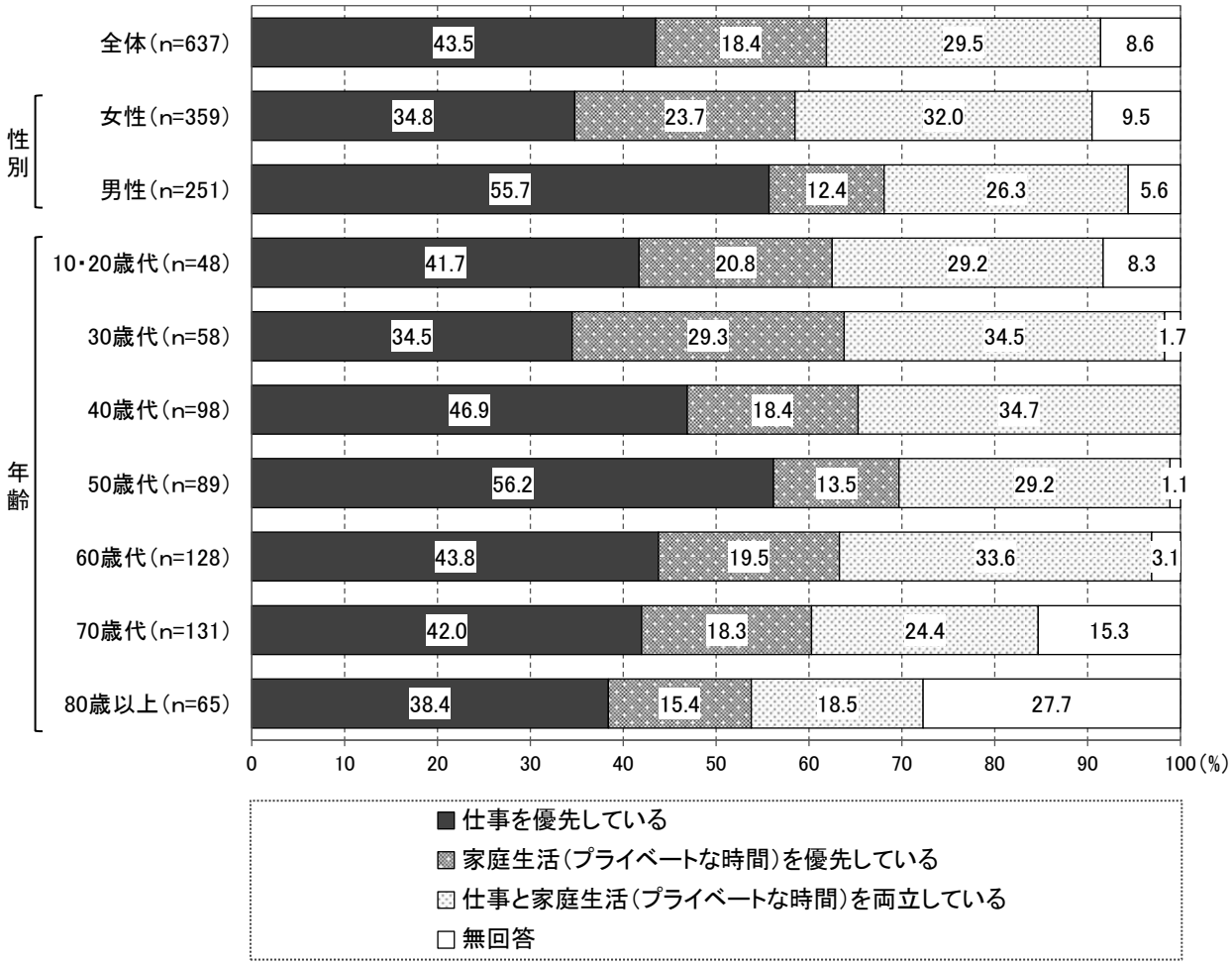
性年齢別では、30 歳代男女で「家庭生活（プライベートな時間）を優先したい」が最も高くなっています。



② 実際の（現実の）優先度

全体では、「仕事を優先している」が 43.5%と最も高く、次いで、「仕事と家庭生活（プライベートな時間）を両立している」(29.5%)、「家庭生活（プライベートな時間）を優先している」(18.4%）の順となっています。

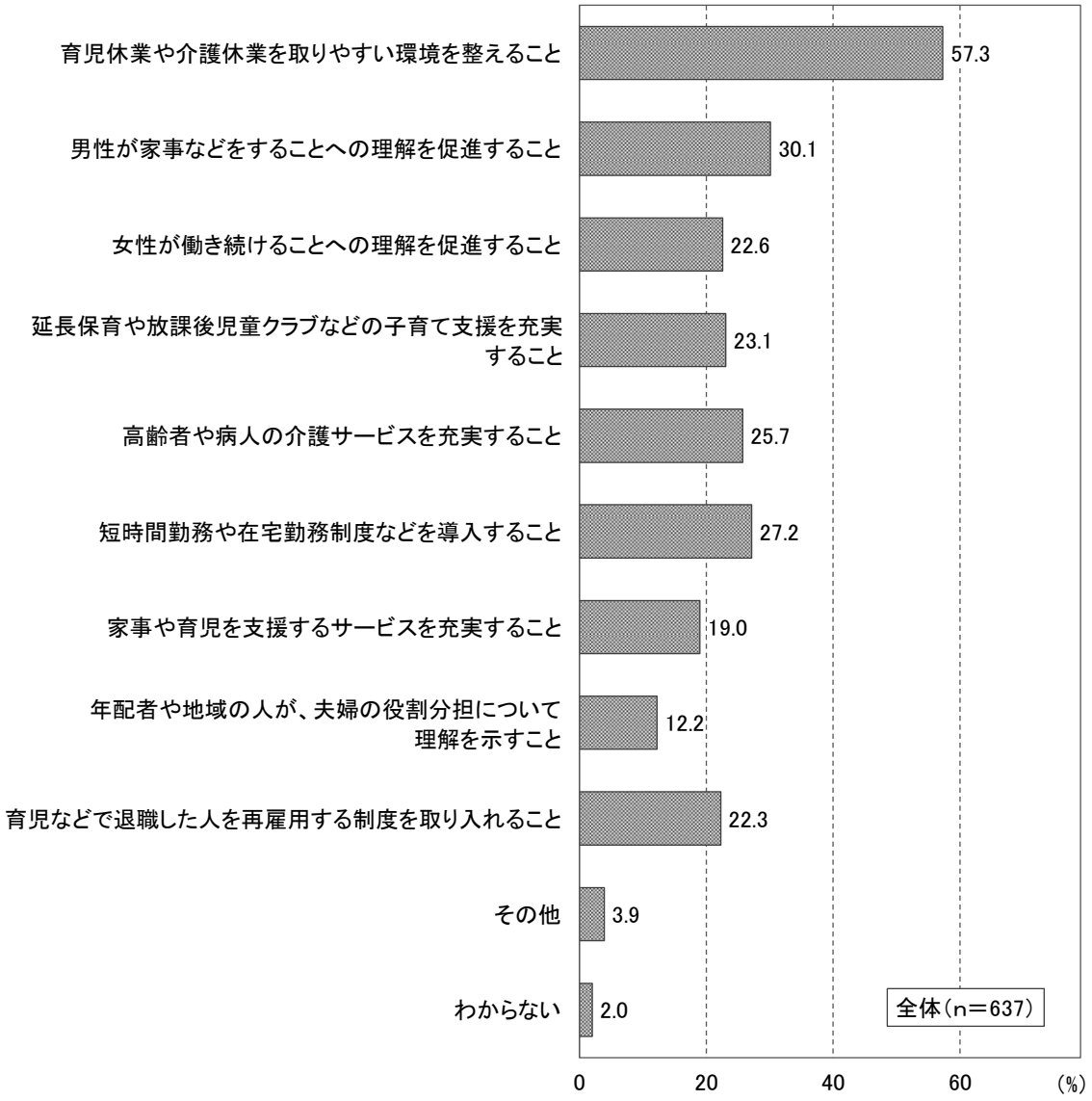
希望する優先度と比較すると、年齢別で 50 歳代が仕事で 56.2%となっており、50 ポイント以上の大きな差となっています。



問 14　男女がともに、「仕事」と「家庭生活（プライベートな時間／趣味や学習・地域活動・付き合いなど）」を両立させるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。【複数回答可】

「育児休業や介護休業を取りやすい環境を整えること」が 57.3％と最も高く、次いで、「男性が家事などをすることへの理解を促進すること」（30.1％）、「短時間勤務や在宅勤務制度などを導入すること」（27.2％）の順となっています。

前回調査と比べると、選択肢は異なりますが「育児休業や介護休業を取りやすい環境を整えること」（前回は「柔軟な休暇制度を設けること」）が最も高く、変わりありません。



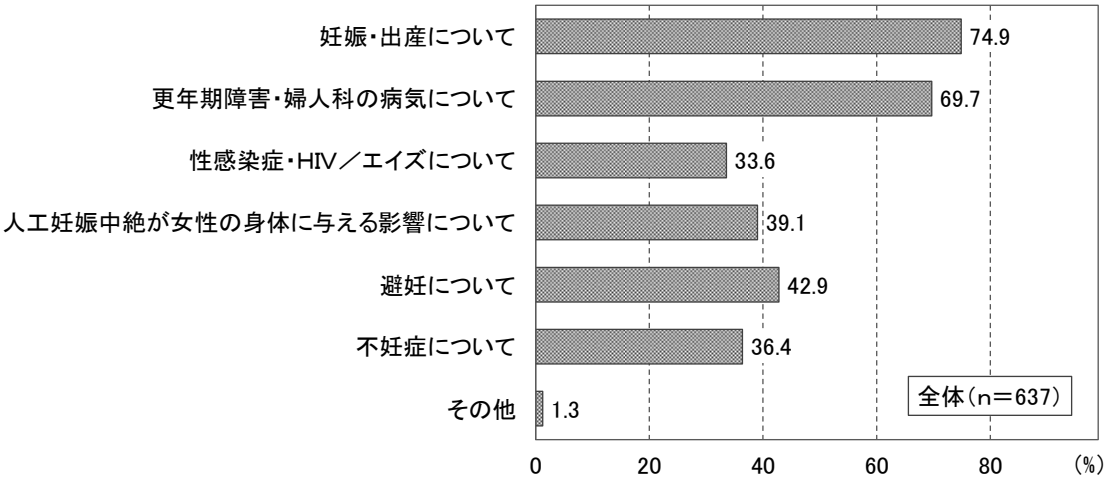
		(n=)	育児休業や介護休業を取りやすい環境を整えること	男性が家事などをすることへの理解を促進すること	女性が働き続けることへの理解を促進すること	延長保育や放課後児童クラブなどの子育て支援を充実すること	高齢者や病人の介護サービスを充実すること	短時間勤務や在宅勤務制度などを導入すること	家事や育児を支援するサービスを充実すること	年配者や地域の人が、夫婦の役割分担について理解を示すこと	育児などで退職した人を再雇用する制度を取り入れること	その他	わからない
全体		637	365 57.3%	192 30.1%	144 22.6%	147 23.1%	164 25.7%	173 27.2%	121 19.0%	78 12.2%	142 22.3%	25 3.9%	13 2.0%
性別	女性	359	201 56.0%	134 37.3%	84 23.4%	77 21.4%	92 25.6%	102 28.4%	69 19.2%	52 14.5%	87 24.2%	11 3.1%	5 1.4%
	男性	251	153 61.0%	51 20.3%	56 22.3%	66 26.3%	67 26.7%	65 25.9%	50 19.9%	23 9.2%	50 19.9%	11 4.4%	6 2.4%
年齢	10・20歳代	48	32 66.7%	17 35.4%	8 16.7%	13 27.1%	4 8.3%	11 22.9%	17 35.4%	8 16.7%	5 10.4%	4 8.3%	1 2.1%
	30歳代	58	29 50.0%	23 39.7%	10 17.2%	16 27.6%	9 15.5%	27 46.6%	21 36.2%	3 5.2%	11 19.0%	5 8.6%	0 0.0%
	40歳代	98	52 53.1%	39 39.8%	27 27.6%	21 21.4%	23 23.5%	25 25.5%	22 22.4%	11 11.2%	21 21.4%	7 7.1%	2 2.0%
	50歳代	89	54 60.7%	26 29.2%	18 20.2%	22 24.7%	21 23.6%	22 24.7%	17 19.1%	17 19.1%	24 27.0%	5 5.6%	1 1.1%
	60歳代	128	75 58.6%	38 29.7%	32 25.0%	31 24.2%	34 26.6%	38 29.7%	23 18.0%	16 12.5%	26 20.3%	2 1.6%	2 1.6%
	70歳代	131	80 61.1%	27 20.6%	30 22.9%	29 22.1%	50 38.2%	30 22.9%	14 10.7%	12 9.2%	35 26.7%	1 0.8%	3 2.3%
	80歳以上	65	34 52.3%	19 29.2%	16 24.6%	11 16.9%	18 27.7%	16 24.6%	5 7.7%	9 13.8%	18 27.7%	1 1.5%	2 3.1%

5．心と身体の健康について

問 15　女性の身体を守るために、男女ともに知っておいた方がよいことはどんなことだと思いますか。【複数回答可】

「妊娠・出産について」が 74.9%と最も高く、次いで、「更年期障害・婦人科の病気について」(69.7%)、「避妊について」(42.9%) の順となっています。

前回調査とは変わりありません。



		(n=)	妊娠・出産について	更年期障害・婦人科の病気について	性感染症・HIV／エイズについて	人工妊娠中絶が女性の身体に与える影響について	避妊について	不妊症について	その他
全体		637	477 74.9%	444 69.7%	214 33.6%	249 39.1%	273 42.9%	232 36.4%	8 1.3%
性別	女性	359	274 76.3%	275 76.6%	138 38.4%	161 44.8%	174 48.5%	150 41.8%	5 1.4%
	男性	251	187 74.5%	155 61.8%	67 26.7%	80 31.9%	92 36.7%	76 30.3%	1 0.4%
年齢	10・20歳代	48	38 79.2%	23 47.9%	17 35.4%	19 39.6%	30 62.5%	20 41.7%	1 2.1%
	30歳代	58	46 79.3%	39 67.2%	23 39.7%	26 44.8%	31 53.4%	35 60.3%	1 1.7%
	40歳代	98	80 81.6%	71 72.4%	41 41.8%	44 44.9%	52 53.1%	48 49.0%	5 5.1%
	50歳代	89	68 76.4%	73 82.0%	38 42.7%	44 49.4%	48 53.9%	46 51.7%	0 0.0%
	60歳代	128	101 78.9%	94 73.4%	34 26.6%	48 37.5%	51 39.8%	46 35.9%	0 0.0%
	70歳代	131	88 67.2%	86 65.6%	28 21.4%	39 29.8%	36 27.5%	22 16.8%	0 0.0%
	80歳以上	65	43 66.2%	47 72.3%	26 40.0%	24 36.9%	21 32.3%	12 18.5%	0 0.0%

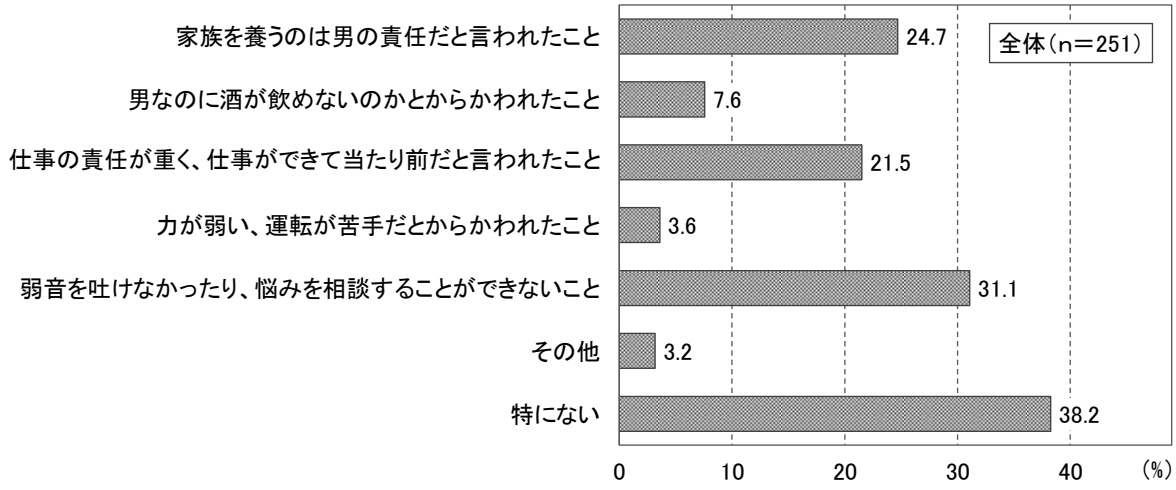
問 16

◆男性のみ。

「男もつらい」と感じたことがありますか。【複数回答可】

「特にない」が 38.2%と最も高く、次いで、「弱音を吐けなかったり、悩みを相談することができないこと」(31.1%)、「家族を養うのは男の責任だと言われたこと」(24.7%)の順となっています。40～50 歳代で、「弱音を吐けなかったり、悩みを相談することができないこと」が最も高くなっています。

前回調査とは変わりありません。

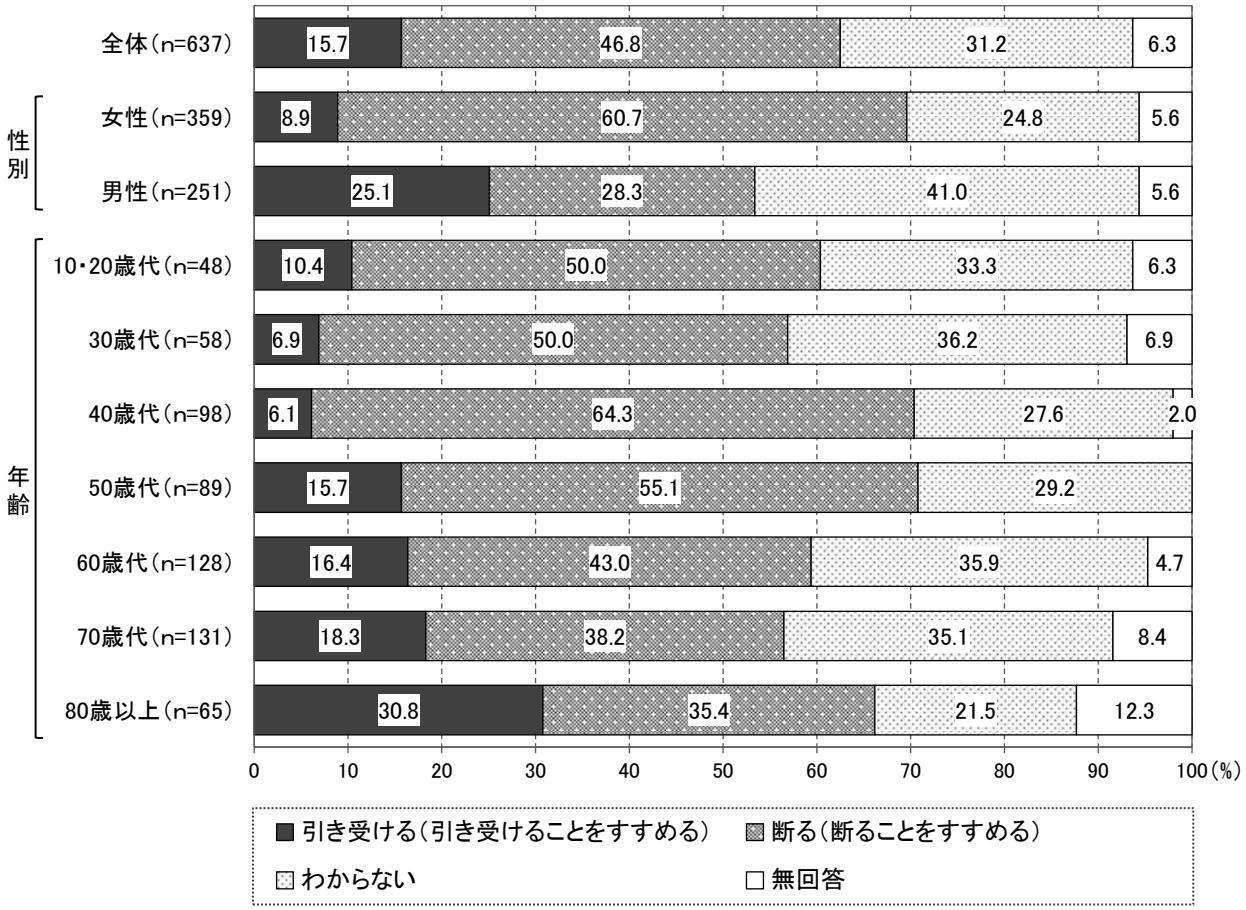


		(n=)	家族を養うのは男の責任だと言われたこと	男なのに酒が飲めないのかとからかわれたこと	仕事の責任が重く、仕事ができて当たり前だと言われたこと	力が弱い、運転が苦手だとからかわれたこと	弱音を吐けなかったり、悩みを相談することができないこと	その他	特にない
男性全体		251	62 24.7%	19 7.6%	54 21.5%	9 3.6%	78 31.1%	8 3.2%	96 38.2%
年齢	10・20歳代	21	4 19.0%	2 9.5%	6 28.6%	4 19.0%	7 33.3%	1 4.8%	7 33.3%
	30歳代	20	4 20.0%	3 15.0%	4 20.0%	1 5.0%	4 20.0%	1 5.0%	8 40.0%
	40歳代	37	11 29.7%	4 10.8%	8 21.6%	2 5.4%	15 40.5%	4 10.8%	10 27.0%
	50歳代	38	9 23.7%	2 5.3%	12 31.6%	0 0.0%	16 42.1%	1 2.6%	14 36.8%
	60歳代	52	12 23.1%	3 5.8%	12 23.1%	0 0.0%	16 30.8%	0 0.0%	22 42.3%
	70歳代	56	14 25.0%	3 5.4%	7 12.5%	1 1.8%	16 28.6%	1 1.8%	26 46.4%
	80歳以上	27	8 29.6%	2 7.4%	5 18.5%	1 3.7%	4 14.8%	0 0.0%	9 33.3%

6．社会活動について

問 17　自治会長や区長、ＰＴＡ会長などの地域の役職についておたずねします。
【女性の方】あなたが長に推薦されたらどうしますか。
【男性の方】配偶者などの身近な女性が長に推薦されたらどうしますか。

全体では、「断る（断ることをすすめる）」が 46.8％と最も高く、次いで、「わからない」（31.2％）、「引き受ける（引き受けることをすすめる）」（15.7％）の順となっています。
前回調査とは変わりありません。



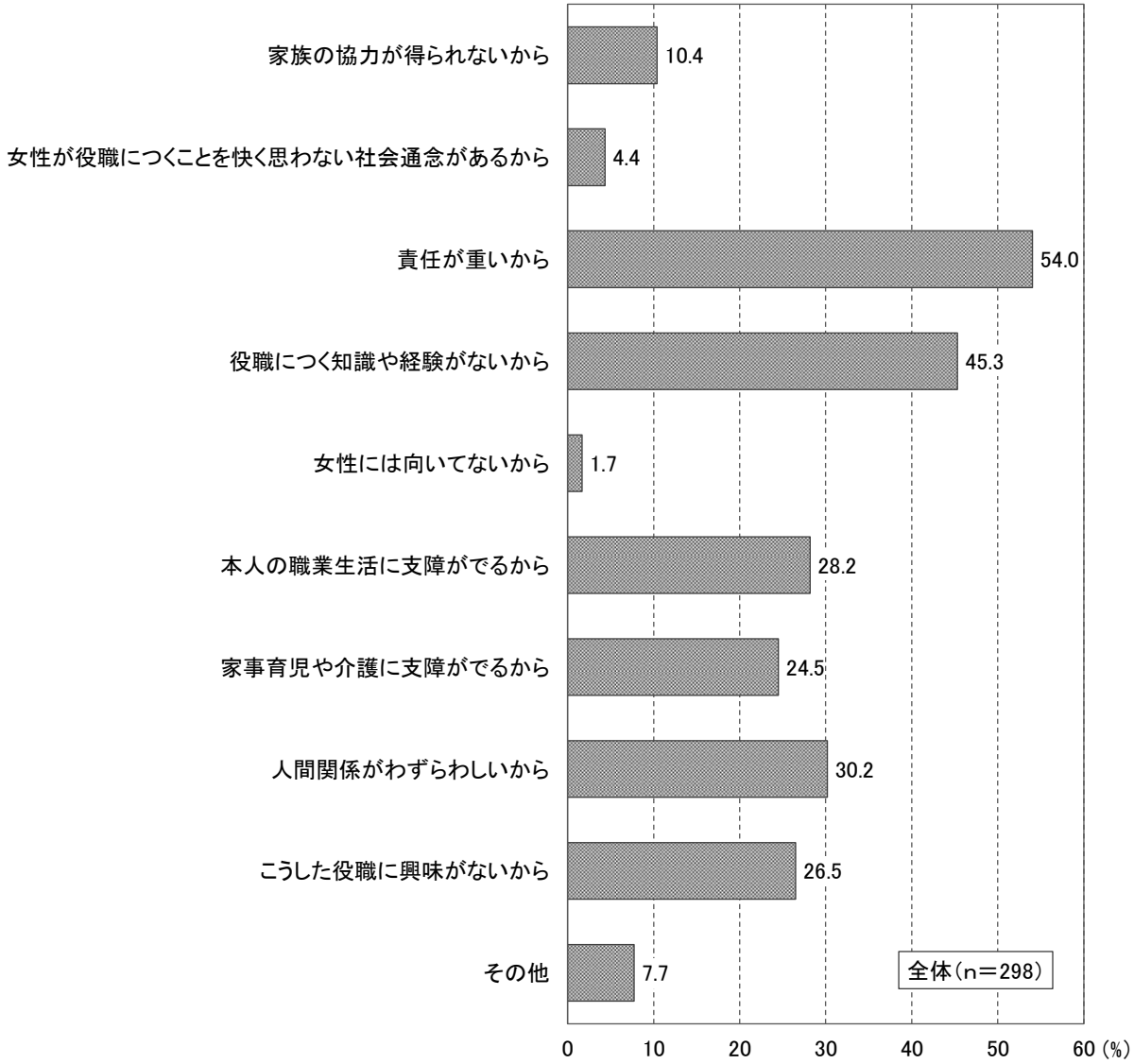
問 17-1

◆問 17 で「２．断る（断ることをすすめる)」と回答した方。
主な理由を次の中から選んでください。【複数回答可】

「責任が重いから」が 54.0%と最も高く、次いで、「役職につく知識や経験がないから」（45.3%)、「人間関係がわずらわしいから」（30.2%）の順となっています。

性年齢別では、30～60 歳代・80 歳以上女性で「責任が重いから」が最も高くなっています。

前回調査とは変わりありません。



		（n＝）	家族の協力が得られないから	女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから	責任が重いから	役職につく知識や経験がないから	女性には向いてないから	本人の職業生活に支障がでるから	家事育児や介護に支障がでるから	人間関係がわずらわしいから	こうした役職に興味がないから	その他
全体		298	31 10.4%	13 4.4%	161 54.0%	135 45.3%	5 1.7%	84 28.2%	73 24.5%	90 30.2%	79 26.5%	23 7.7%
性別	女性	218	24 11.0%	10 4.6%	125 57.3%	108 49.5%	2 0.9%	54 24.8%	55 25.2%	62 28.4%	62 28.4%	17 7.8%
	男性	71	6 8.5%	2 2.8%	32 45.1%	25 35.2%	3 4.2%	27 38.0%	17 23.9%	25 35.2%	14 19.7%	6 8.5%
年齢	10・20歳代	24	0 0.0%	0 0.0%	11 45.8%	10 41.7%	0 0.0%	6 25.0%	10 41.7%	9 37.5%	11 45.8%	0 0.0%
	30歳代	29	2 6.9%	0 0.0%	13 44.8%	8 27.6%	0 0.0%	9 31.0%	11 37.9%	11 37.9%	11 37.9%	2 6.9%
	40歳代	63	6 9.5%	2 3.2%	29 46.0%	20 31.7%	1 1.6%	27 42.9%	25 39.7%	23 36.5%	21 33.3%	6 9.5%
	50歳代	49	6 12.2%	5 10.2%	23 46.9%	23 46.9%	0 0.0%	22 44.9%	8 16.3%	10 20.4%	12 24.5%	4 8.2%
	60歳代	55	5 9.1%	3 5.5%	36 65.5%	27 49.1%	0 0.0%	10 18.2%	8 14.5%	15 27.3%	10 18.2%	5 9.1%
	70歳代	50	9 18.0%	1 2.0%	29 58.0%	30 60.0%	2 4.0%	8 16.0%	8 16.0%	16 32.0%	12 24.0%	2 4.0%
	80歳以上	23	3 13.0%	2 8.7%	16 69.6%	16 69.6%	2 8.7%	1 4.3%	3 13.0%	5 21.7%	1 4.3%	4 17.4%

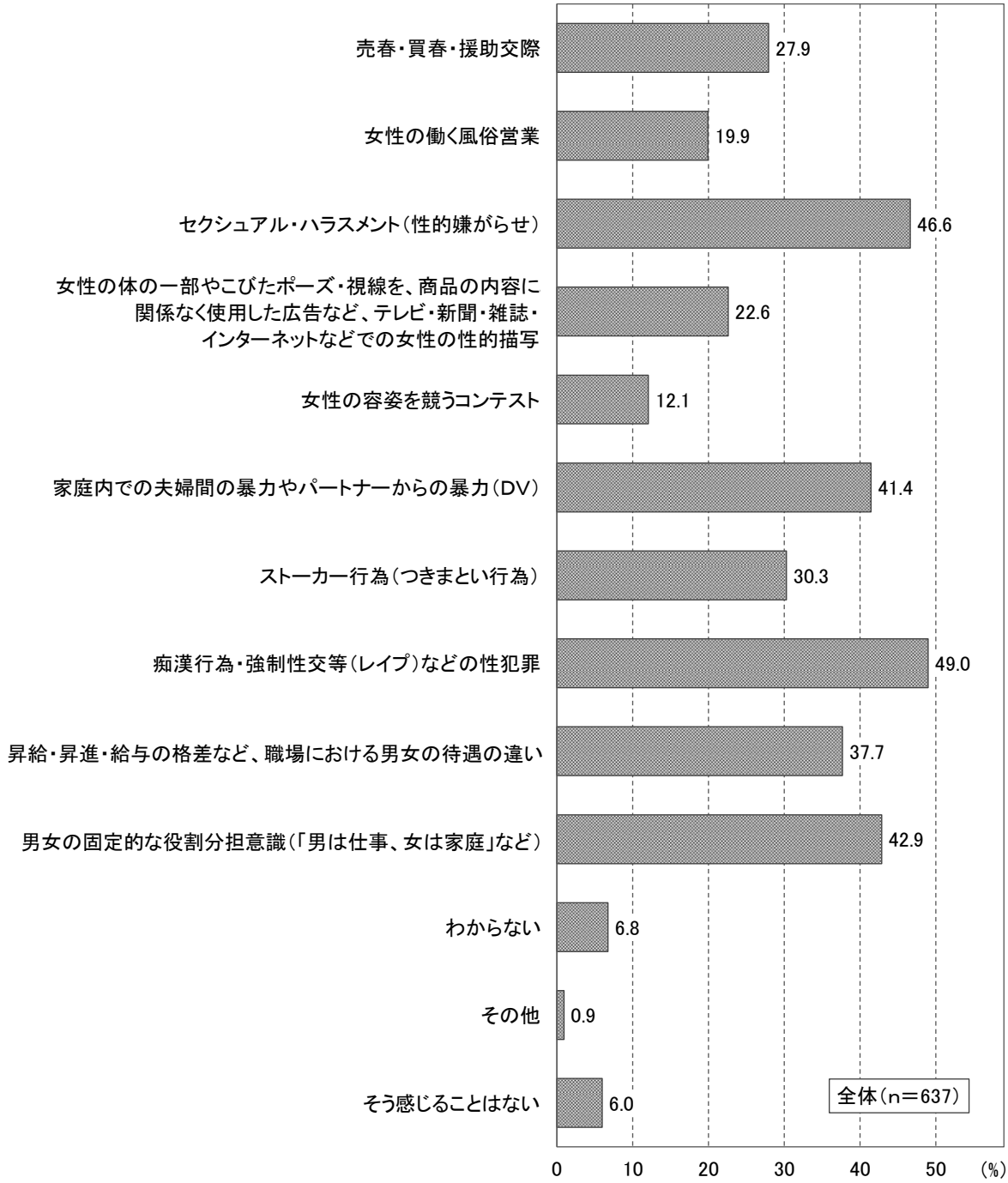
7．人権尊重について

問 18　女性の人権が尊重されていないと感じることはどのようなことですか。【複数回答可】

「痴漢行為・強制性交等（レイプ）などの性犯罪」が 49.0％と最も高く、次いで、「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」（46.6％）、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」（42.9％）の順となっています。

性年齢別では、10～50 歳代女性で「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」が最も高くなっています。

前回調査とは変わりありません。



		(n=)	売春・買春・援助交際	女性の働く風俗営業	セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	女性の体の一部やこびたポーズ・視線を、商品の内容に関係なく使用した広告など、テレビ・新聞・雑誌・インターネットなどでの女性の性的描写	女性の容姿を競うコンテスト	家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力（ＤＶ）	ストーカー行為（つきまとい行為）	痴漢行為・強制性交等（レイプ）などの性犯罪	昇給・昇進・給与の格差など、職場における男女の待遇の違い	男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）	わからない	その他	そう感じることはない
全体		637	178 27.9%	127 19.9%	297 46.6%	144 22.6%	77 12.1%	264 41.4%	193 30.3%	312 49.0%	240 37.7%	273 42.9%	43 6.8%	6 0.9%	38 6.0%
性別	女性	359	116 32.3%	87 24.2%	180 50.1%	102 28.4%	52 14.5%	162 45.1%	99 27.6%	183 51.0%	144 40.1%	175 48.7%	26 7.2%	3 0.8%	16 4.5%
	男性	251	54 21.5%	34 13.5%	107 42.6%	37 14.7%	21 8.4%	95 37.8%	86 34.3%	118 47.0%	86 34.3%	91 36.3%	15 6.0%	3 1.2%	21 8.4%
年齢	10･20歳代	48	11 22.9%	7 14.6%	25 52.1%	10 20.8%	6 12.5%	19 39.6%	16 33.3%	28 58.3%	19 39.6%	26 54.2%	3 6.3%	1 2.1%	2 4.2%
	30歳代	58	11 19.0%	7 12.1%	29 50.0%	10 17.2%	8 13.8%	25 43.1%	21 36.2%	28 48.3%	20 34.5%	22 37.9%	5 8.6%	1 1.7%	5 8.6%
	40歳代	98	25 25.5%	18 18.4%	48 49.0%	15 15.3%	12 12.2%	44 44.9%	36 36.7%	59 60.2%	35 35.7%	53 54.1%	6 6.1%	2 2.0%	4 4.1%
	50歳代	89	27 30.3%	20 22.5%	44 49.4%	21 23.6%	18 20.2%	46 51.7%	24 27.0%	52 58.4%	39 43.8%	47 52.8%	5 5.6%	0 0.0%	5 5.6%
	60歳代	128	35 27.3%	26 20.3%	63 49.2%	36 28.1%	14 10.9%	59 46.1%	41 32.0%	59 46.1%	51 39.8%	57 44.5%	6 4.7%	0 0.0%	10 7.8%
	70歳代	131	36 27.5%	28 21.4%	51 38.9%	33 25.2%	15 11.5%	44 33.6%	35 26.7%	56 42.7%	49 37.4%	46 35.1%	8 6.1%	2 1.5%	9 6.9%
	80歳以上	65	29 44.6%	19 29.2%	31 47.7%	16 24.6%	2 3.1%	24 36.9%	17 26.2%	25 38.5%	21 32.3%	19 29.2%	9 13.8%	0 0.0%	2 3.1%

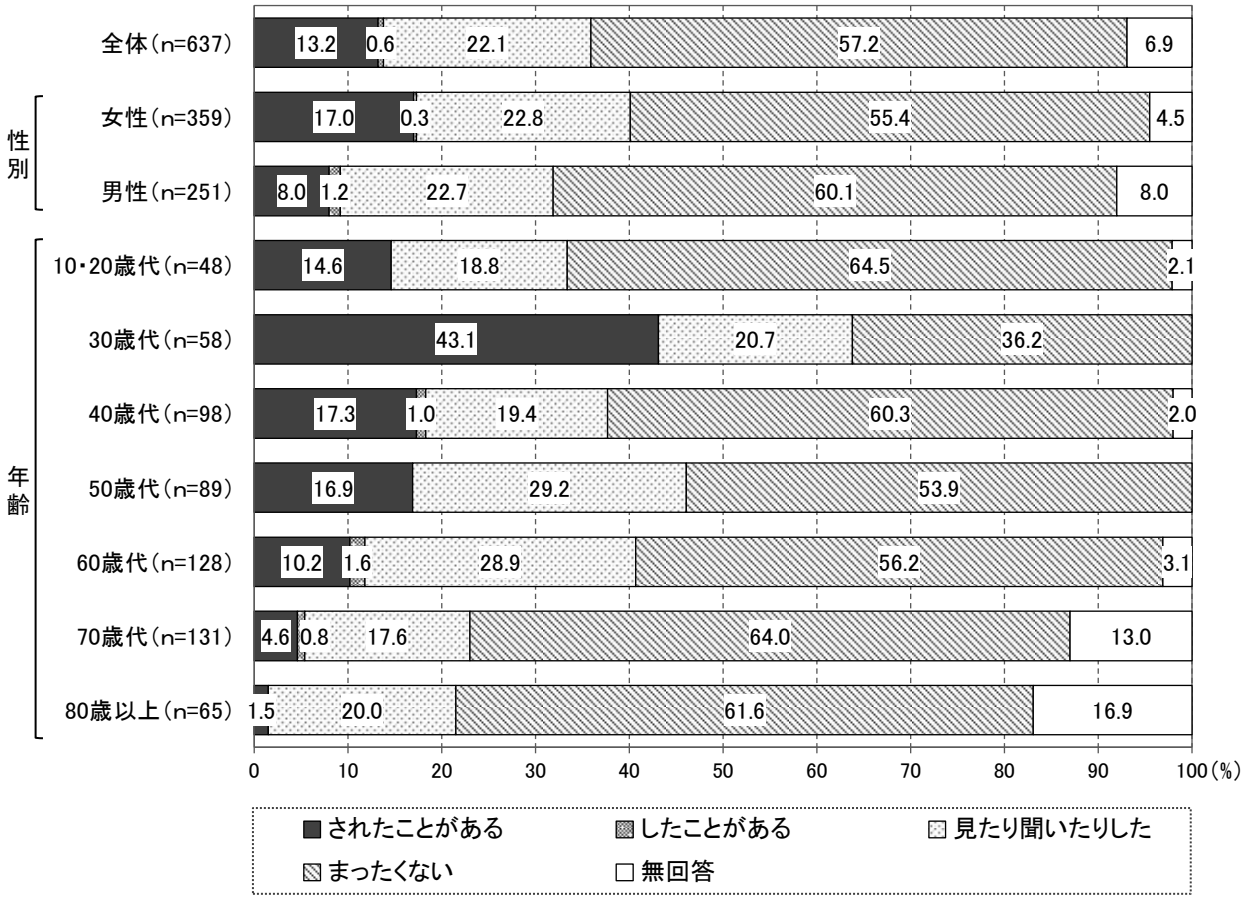
問 19　これまでにセクシュアル・ハラスメント行為(性的嫌がらせ)をしたり、されたり、見聞きしたことがありますか。

（１）恋愛や結婚についてしつこく聞かれた

全体では、「まったくない」が 57.2％と最も高く、次いで、「見たり聞いたりした」(22.1％)、「されたことがある」（13.2％）の順となっています。

性年齢別では、30 歳代男女で「されたことがある」が最も高くなっています。

前回調査と比べると、男女とも「されたことがある」がわずかながら高くなっています。

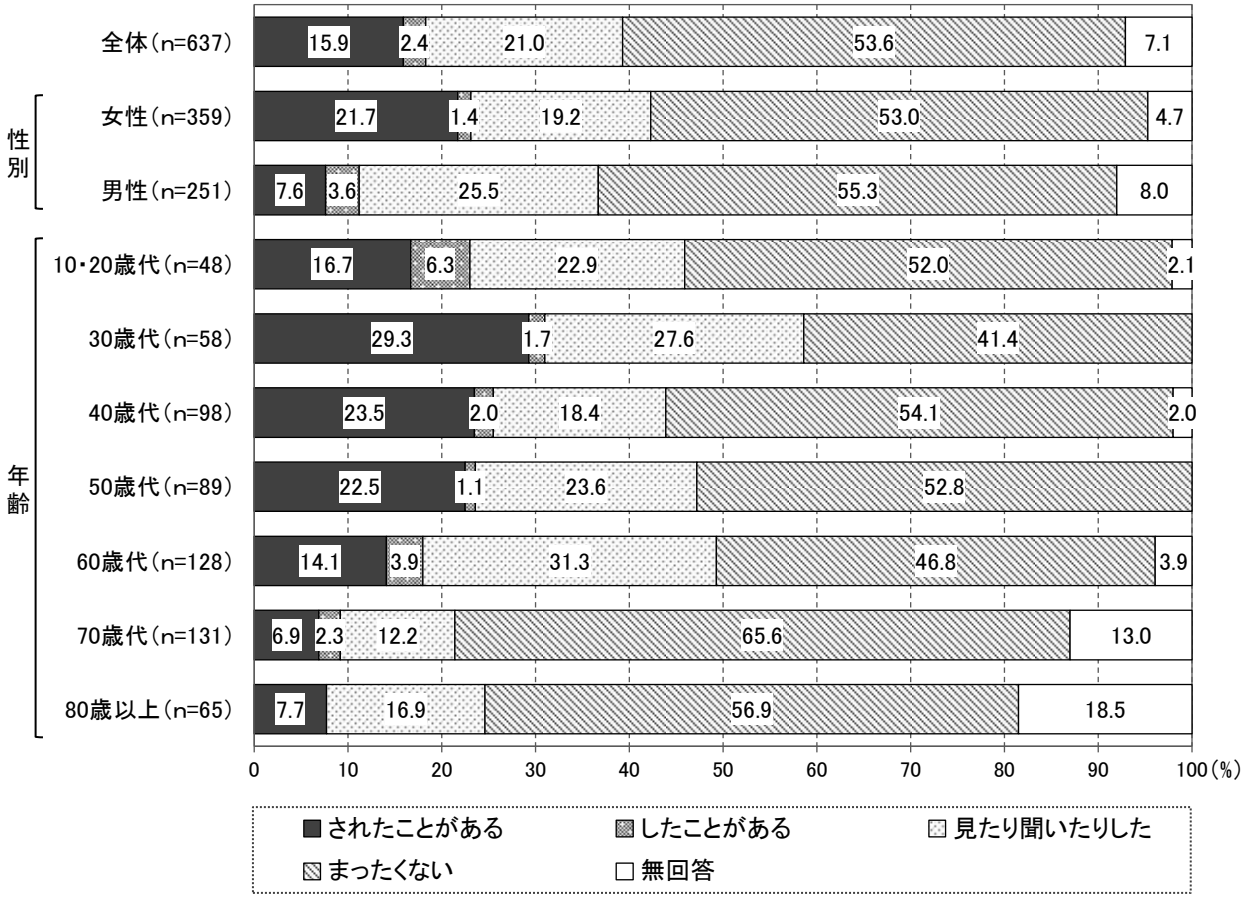


（２）年齢や容姿のことでからかわれた

全体では、「まったくない」が 53.6％と最も高く、次いで、「見たり聞いたりした」(21.0％)、「されたことがある」（15.9％）の順となっています。

性年齢別では、30 歳代女性で「されたことがある」が最も高くなっています。

前回調査と比べると、男女とも「されたことがある」がわずかながら高くなっています。

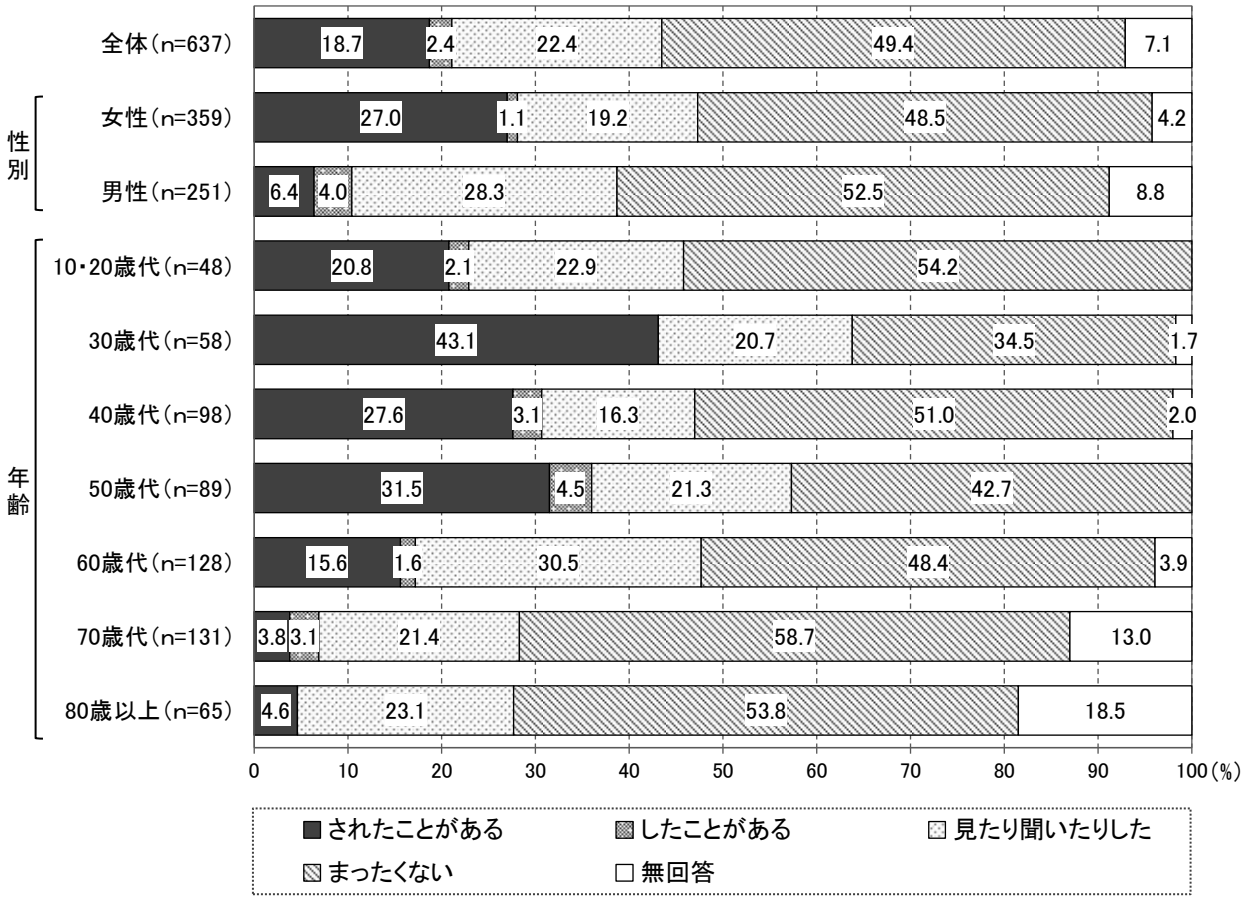


（３）性的な冗談を言われたり、質問をされたりした

全体では、「まったくない」が 49.4％と最も高く、次いで、「見たり聞いたりした」(22.4％)、「されたことがある」（18.7％）の順となっています。

性年齢別では、30・50 歳代女性で「されたことがある」が最も高くなっています。

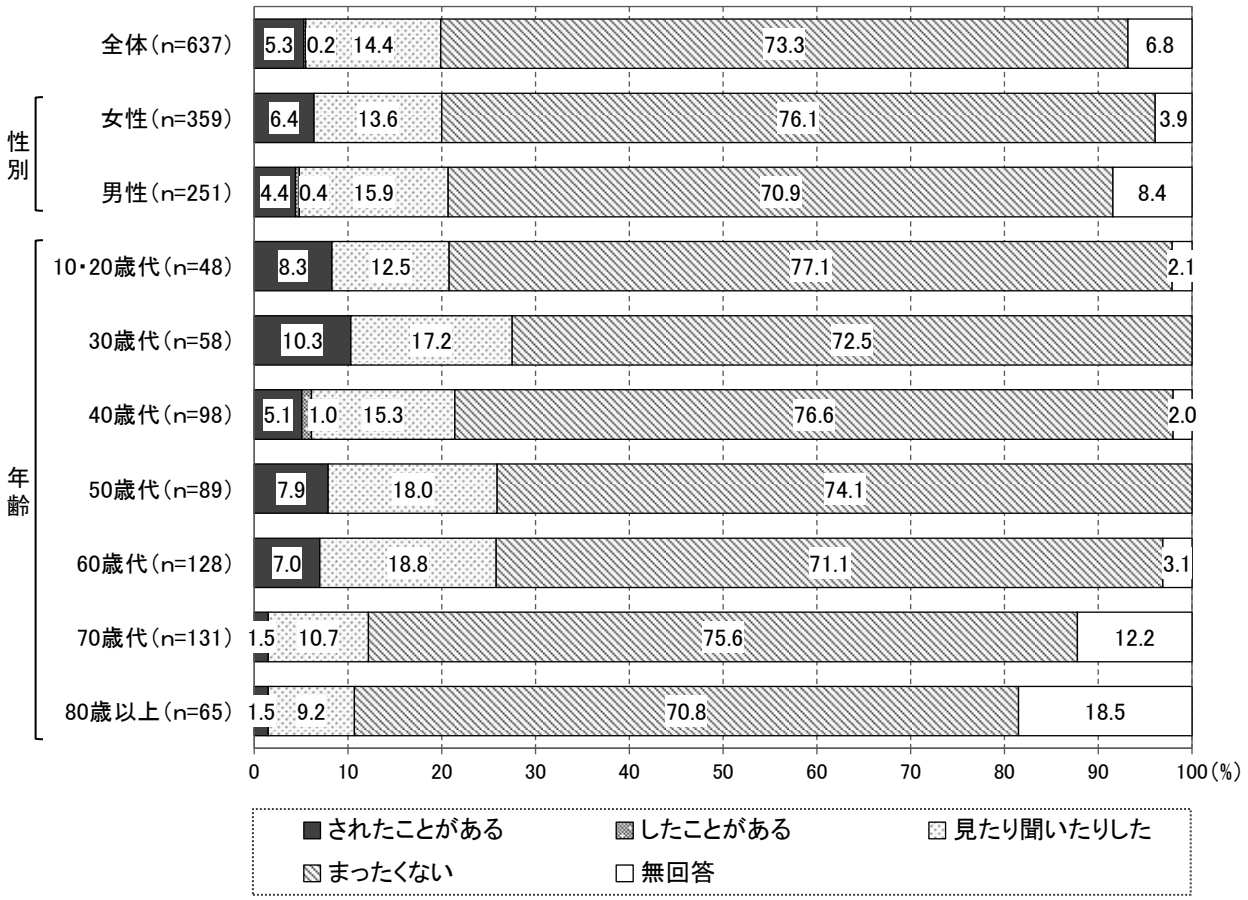
前回調査と比べると、男女とも「されたことがある」がわずかながら高くなっています。



（４）異性関係が派手など、性的な噂を流された

全体では、「まったくない」が 73.3％と最も高く、次いで、「見たり聞いたりした」(14.4％)、「されたことがある」（5.3％）の順となっています。

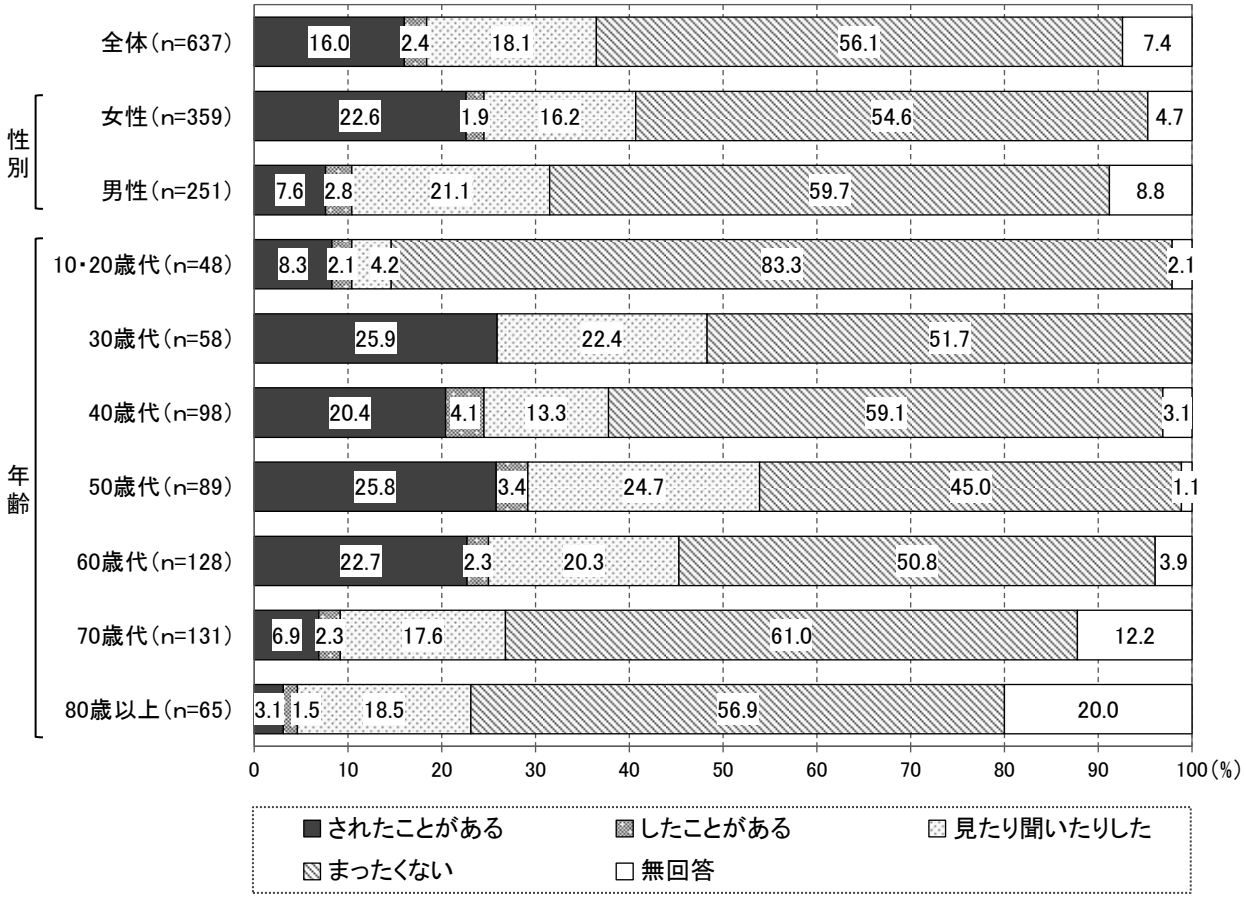
前回調査と比べると、男女とも「されたことがある」がわずかながら高くなっています。



（５）宴会でお酌やデュエットを強要された

全体では、「まったくない」が 56.1％と最も高く、次いで、「見たり聞いたりした」(18.1％)、「されたことがある」（16.0％）の順となっています。

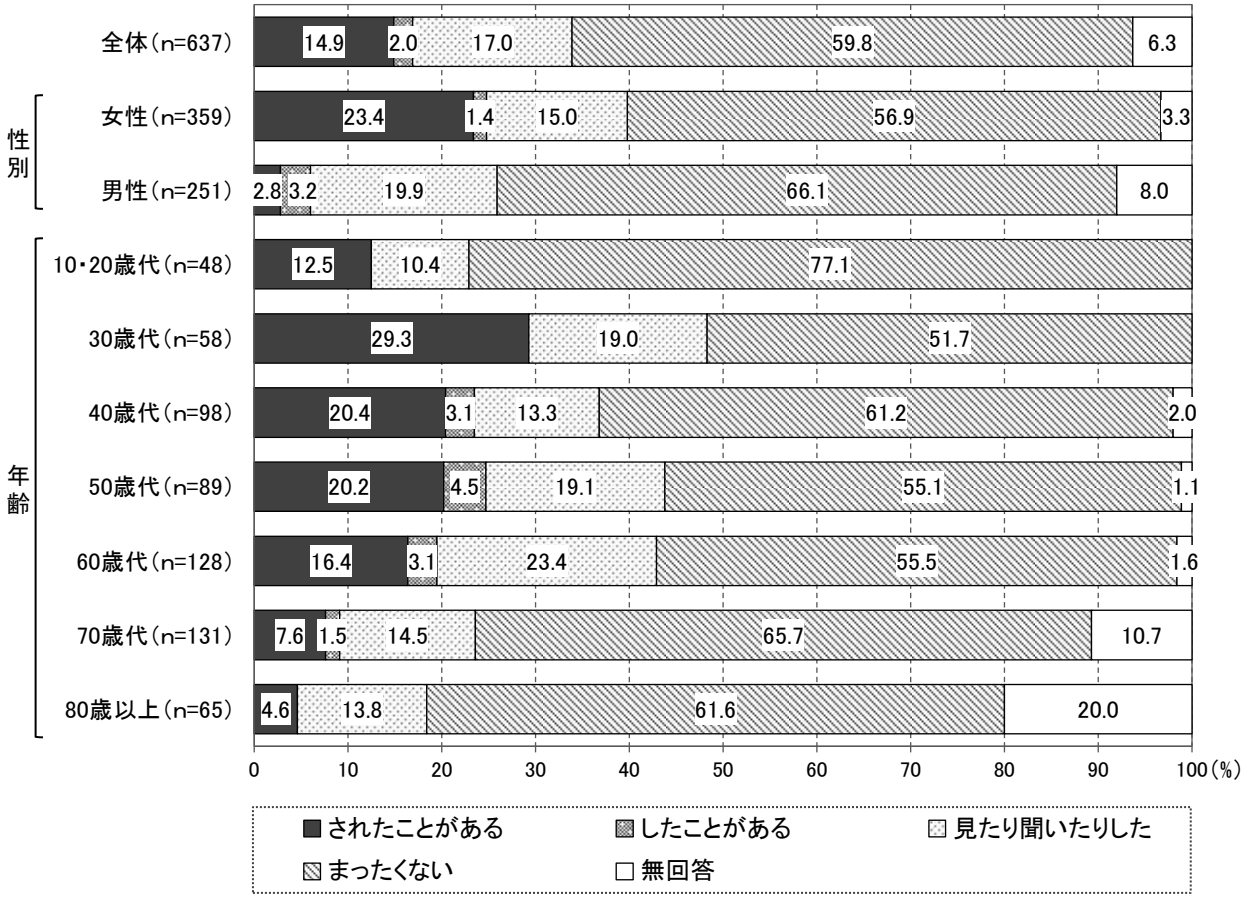
前回調査と比べると、男女とも「されたことがある」がわずかながら高くなっています。



（６）不必要に身体を触られたり、抱きつかれたりした

全体では、「まったくない」が 59.8％と最も高く、次いで、「見たり聞いたりした」(17.0％)、「されたことがある」（14.9％）の順となっています。

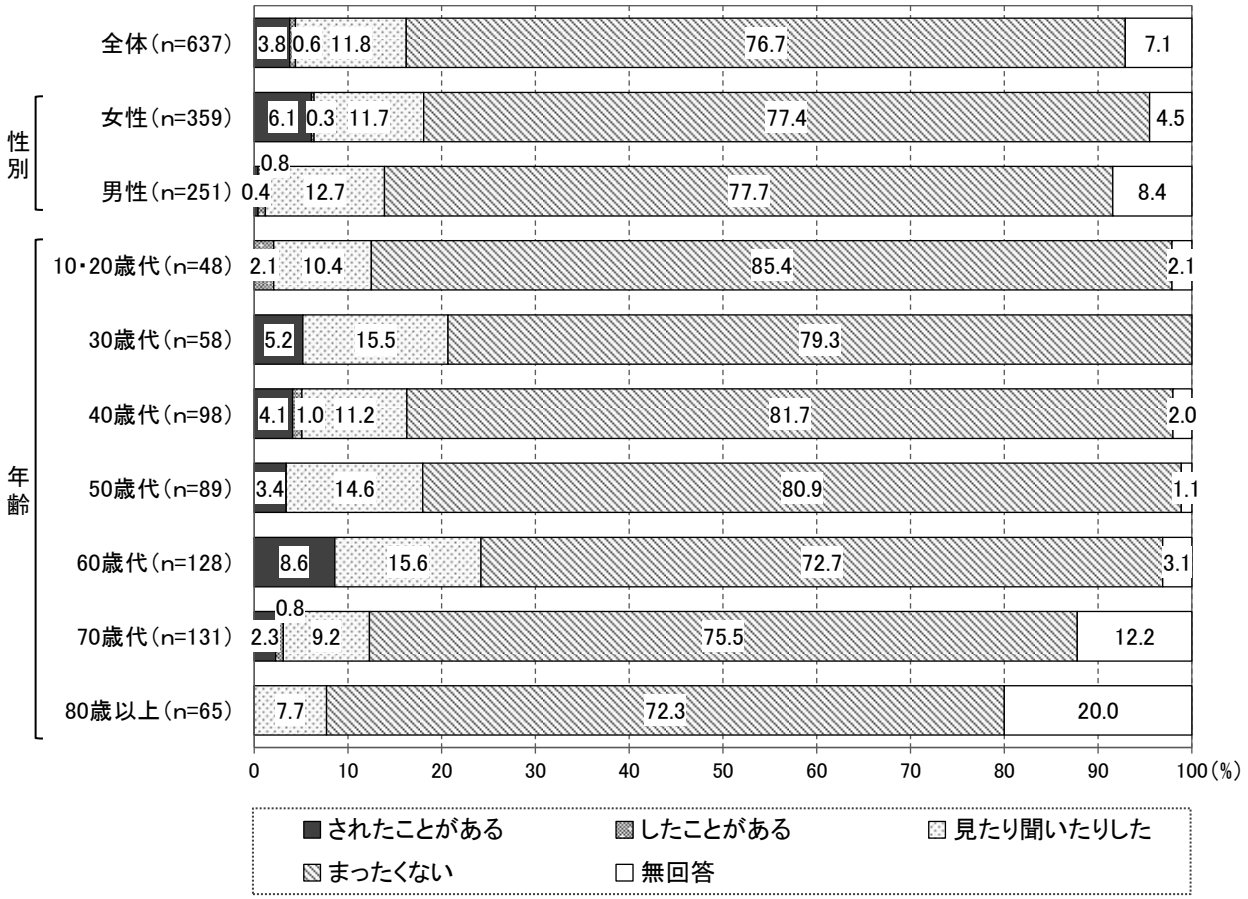
前回調査と比べると、男女とも「されたことがある」がわずかながら高くなっています。



（7）地位や権限を利用して、しつこく誘ったり性的な関係を迫られたりした

全体では、「まったくない」が76.7%と最も高く、次いで、「見たり聞いたりした」(11.8%)、「されたことがある」（3.8%）の順となっています。

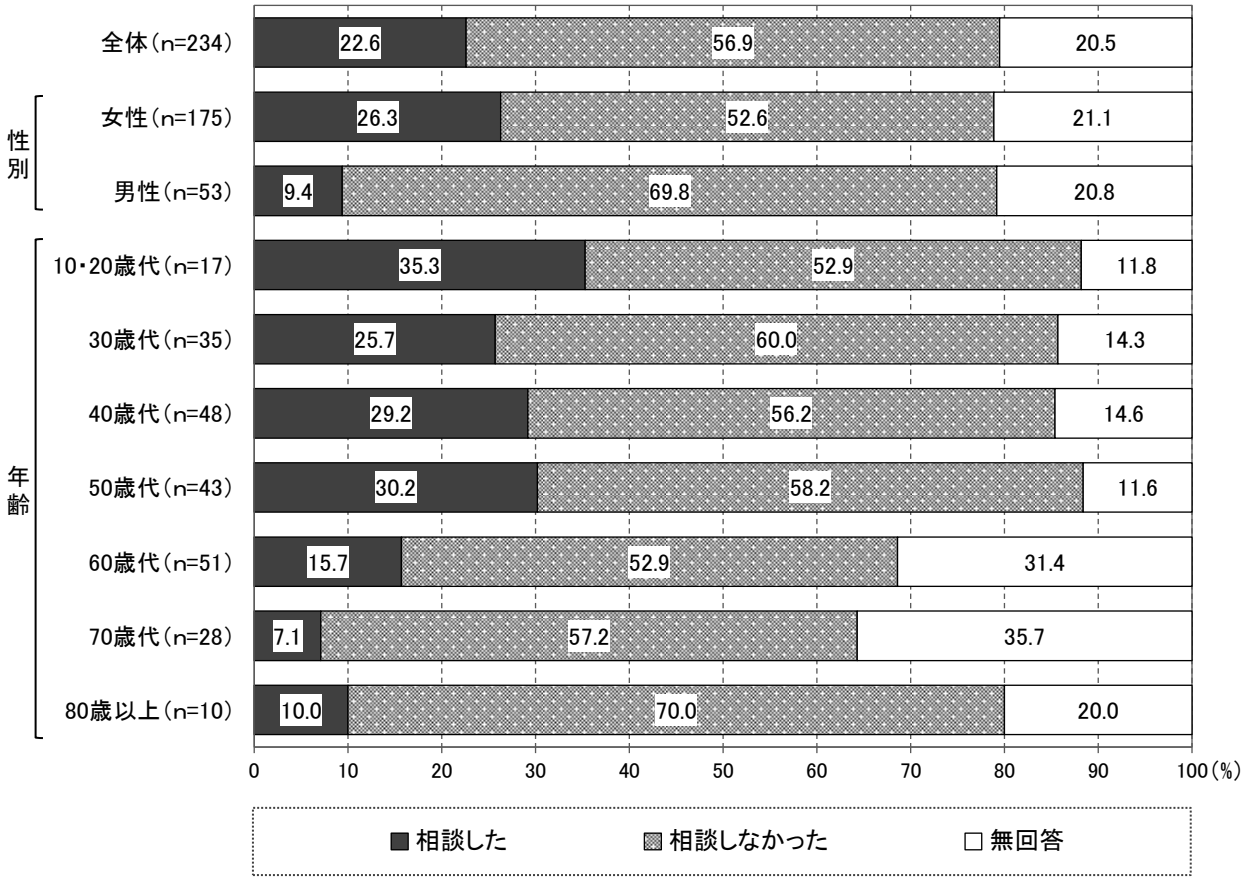
前回調査と比べると、女性で「されたことがある」がわずかながら高くなっています。



問 19-1

◆問 19 で 1 つでも「されたことがある」と回答した方。
そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

全体では、「相談しなかった」が 56.9%と高く、「相談した」が 22.6%となっています。
前回調査と比べると、女性で「相談した」が 7.9 ポイント高くなっています。

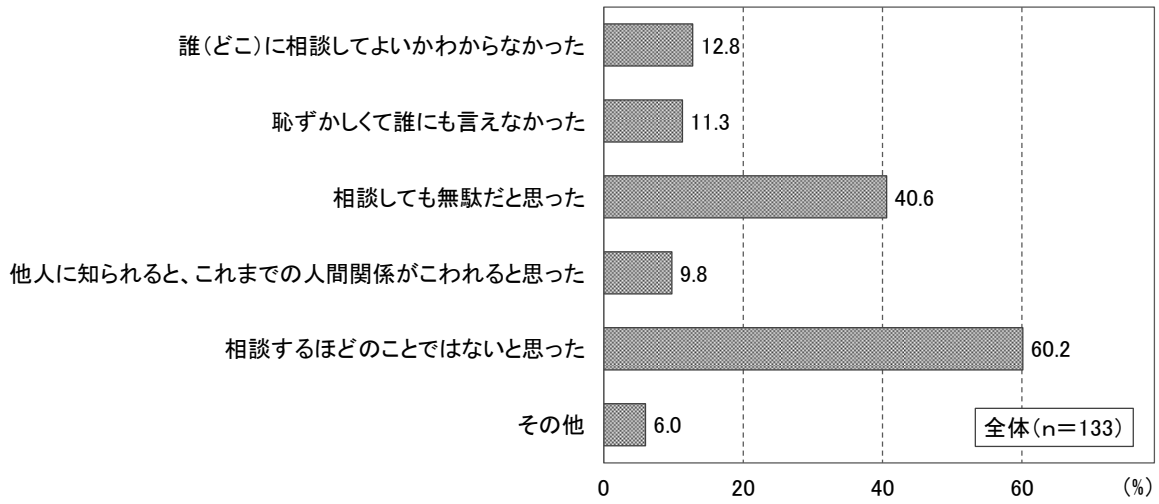


問 19-2

◆問 19-1 で、「２．相談しなかった」と回答した方。
相談しなかった理由は何ですか。【複数回答可】

「相談するほどのことではないと思った」が 60.2%と最も高く、次いで、「相談しても無駄だと思った」（40.6%）、「誰（どこ）に相談してよいかわからなかった」（12.8%）の順となっています。

前回調査と比べると、女性で「相談しても無駄だと思った」が 11.0 ポイント（前回 35.7%）高くなっています。

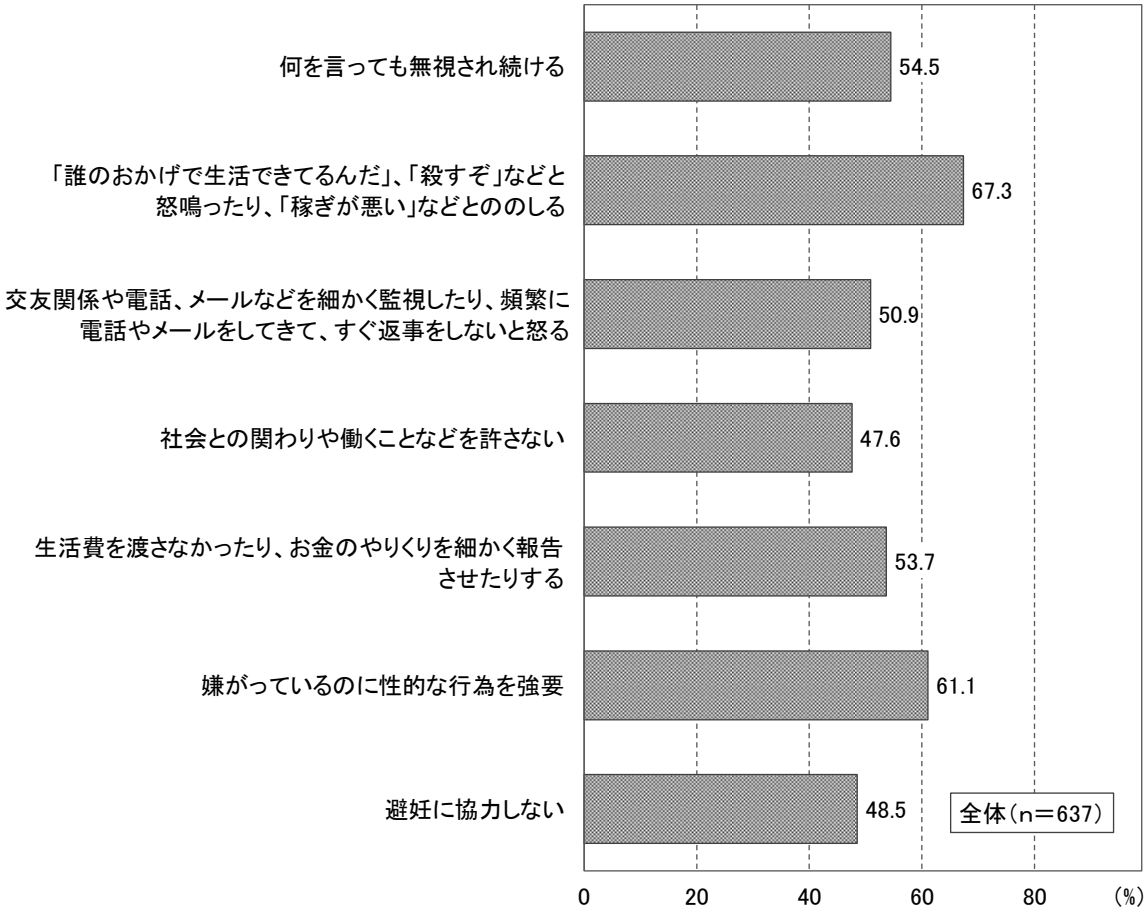


		（n＝）	誰（どこ）に相談してよいかわからなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかった	相談しても無駄だと思った	他人に知られると、これまでの人間関係がこわれると思った	相談するほどのことではないと思った	その他
全体		133	17 12.8%	15 11.3%	54 40.6%	13 9.8%	80 60.2%	8 6.0%
性別	女性	92	12 13.0%	13 14.1%	43 46.7%	9 9.8%	52 56.5%	6 6.5%
	男性	37	4 10.8%	1 2.7%	9 24.3%	3 8.1%	27 73.0%	2 5.4%
年齢	10・20歳代	9	1 11.1%	2 22.2%	5 55.6%	0 0.0%	3 33.3%	1 11.1%
	30歳代	21	5 23.8%	1 4.8%	7 33.3%	3 14.3%	15 71.4%	2 9.5%
	40歳代	27	3 11.1%	1 3.7%	15 55.6%	2 7.4%	14 51.9%	1 3.7%
	50歳代	25	3 12.0%	1 4.0%	8 32.0%	2 8.0%	17 68.0%	2 8.0%
	60歳代	27	2 7.4%	7 25.9%	10 37.0%	5 18.5%	15 55.6%	1 3.7%
	70歳代	16	3 18.8%	0 0.0%	5 31.3%	1 6.3%	12 75.0%	0 0.0%
	80歳以上	7	0 0.0%	3 42.9%	4 57.1%	0 0.0%	4 57.1%	1 14.3%

問 20　夫婦や恋人同士などの親しい間柄で、暴力だと感じるのは次のどのような行為ですか。【複数回答可】

「「誰のおかげで生活できてるんだ」、「殺すぞ」などと怒鳴ったり、「稼ぎが悪い」などとののしる」が 67.3%と最も高く、次いで、「嫌がっているのに性的な行為を強要」(61.1%)、「何を言っても無視され続ける」(54.5%) の順となっています。

性別では、「生活費を渡さなかったり、お金のやりくりを細かく報告させたりする」、「嫌がっているのに性的な行為を強要」、「避妊に協力しない」で男性が女性より 10 ポイント以上低くなっています。



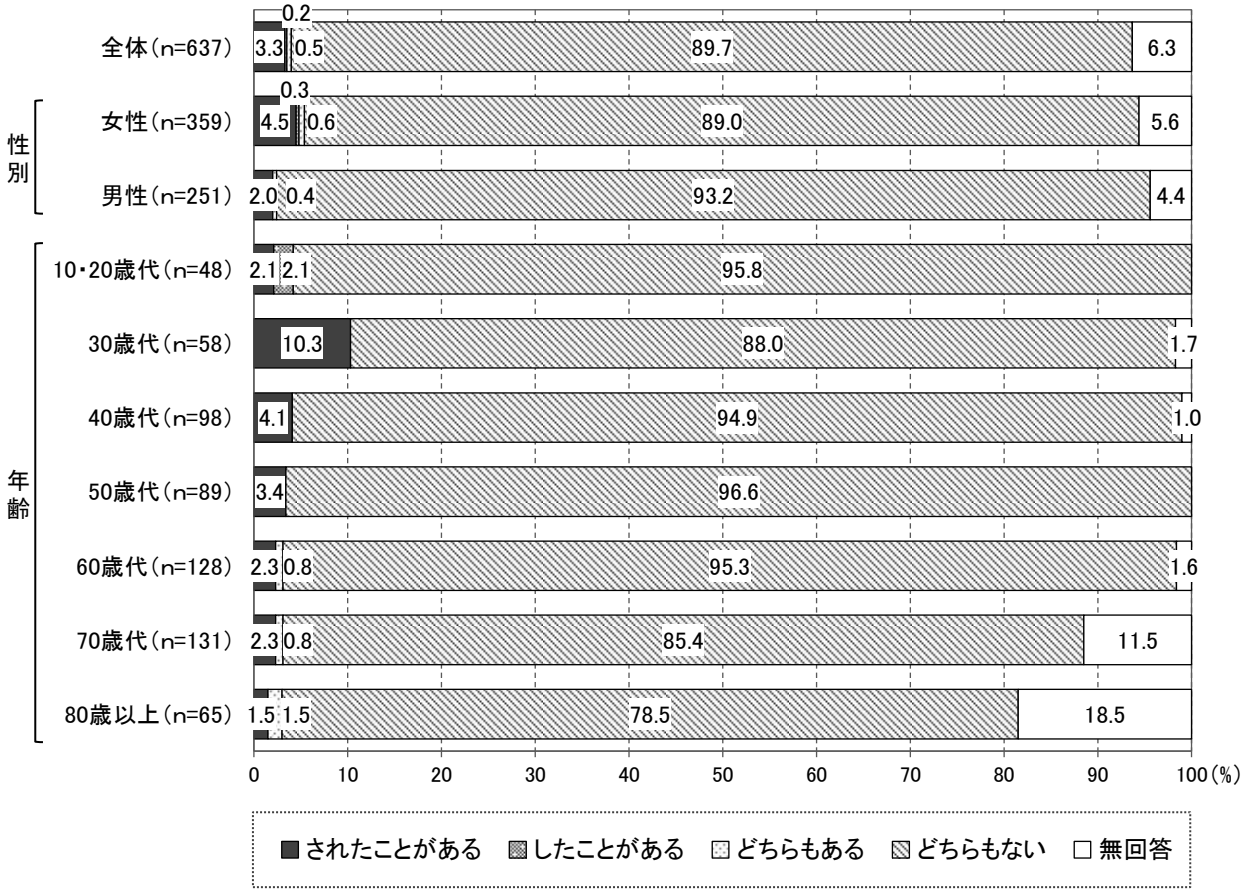
		(n=)	何を言っても無視され続ける	「誰のおかげで生活できてるんだ」、「殺すぞ」などと怒鳴ったり、「稼ぎが悪い」などとののしる	交友関係や電話、メールなどを細かく監視したり、頻繁に電話やメールをしてきて、すぐ返事をしないと怒る	社会との関わりや働くことなどを許さない	生活費を渡さなかったり、お金のやりくりを細かく報告させたりする	嫌がっているのに性的な行為を強要	避妊に協力しない
全体		637	347 54.5%	429 67.3%	324 50.9%	303 47.6%	342 53.7%	389 61.1%	309 48.5%
性別	女性	359	192 53.5%	253 70.5%	191 53.2%	181 50.4%	209 58.2%	237 66.0%	192 53.5%
	男性	251	143 57.0%	160 63.7%	120 47.8%	111 44.2%	121 48.2%	139 55.4%	108 43.0%
年齢	10・20歳代	48	31 64.6%	42 87.5%	35 72.9%	34 70.8%	30 62.5%	38 79.2%	36 75.0%
	30歳代	58	46 79.3%	51 87.9%	42 72.4%	43 74.1%	49 84.5%	47 81.0%	46 79.3%
	40歳代	98	60 61.2%	82 83.7%	64 65.3%	65 66.3%	68 69.4%	77 78.6%	64 65.3%
	50歳代	89	61 68.5%	78 87.6%	60 67.4%	55 61.8%	58 65.2%	66 74.2%	63 70.8%
	60歳代	128	74 57.8%	91 71.1%	67 52.3%	64 50.0%	70 54.7%	81 63.3%	61 47.7%
	70歳代	131	48 36.6%	58 44.3%	38 29.0%	28 21.4%	50 38.2%	54 41.2%	27 20.6%
	80歳以上	65	22 33.8%	19 29.2%	12 18.5%	9 13.8%	12 18.5%	20 30.8%	8 12.3%

問 21　夫婦や恋人同士などの親しい間柄で、今までに次のようなことをしたり、されたりしたことがありますか。

（１）命の危険を感じるほどの暴力

全体では、「どちらもない」が 89.7%と最も高く、次いで、「されたことがある」(3.3%)、「どちらもある」(0.5%）の順となっています。

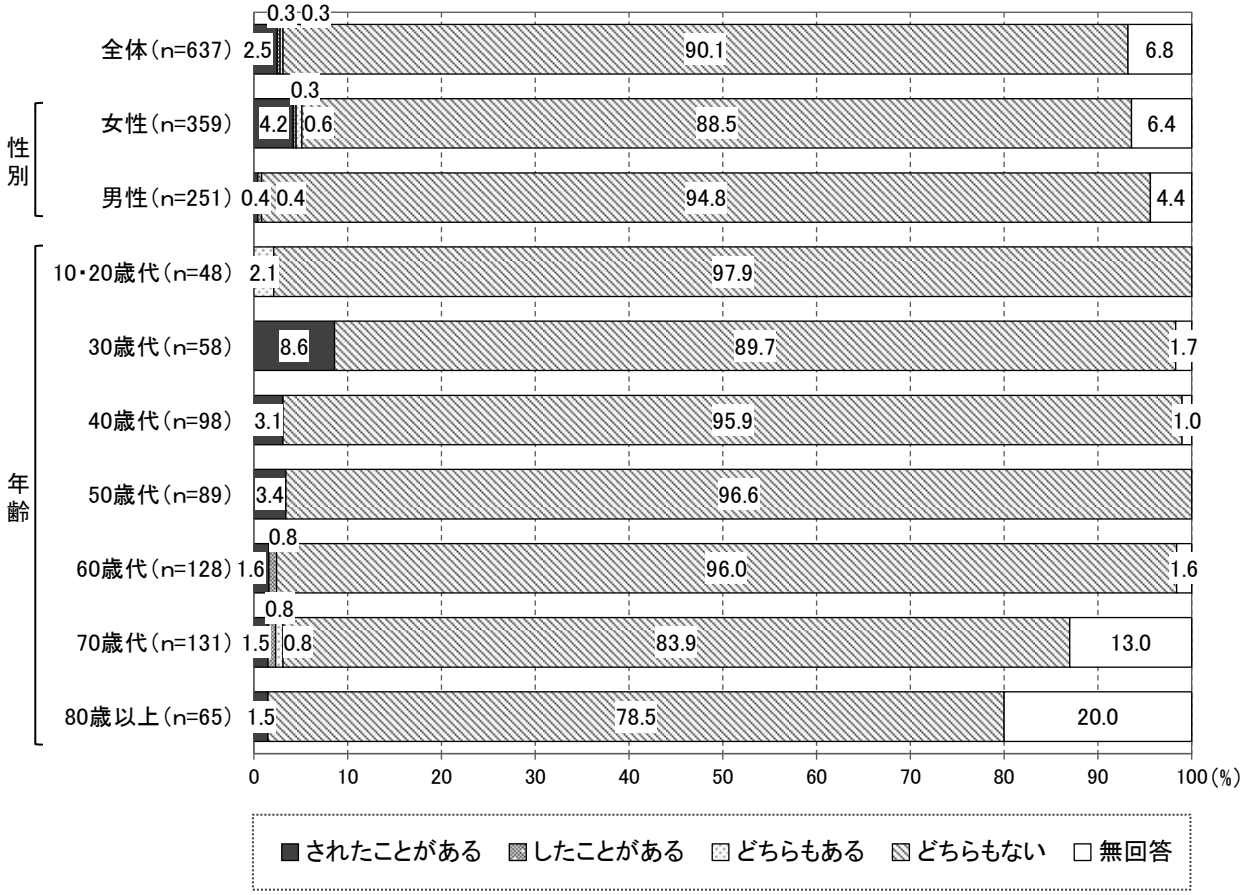
前回調査とは変わりありません。



（２）医師の治療が必要となるほどの暴力

全体では、「どちらもない」が 90.1%と最も高く、次いで、「されたことがある」(2.5%)、「したことがある」・「どちらもある」（0.3%で同率）の順となっています。

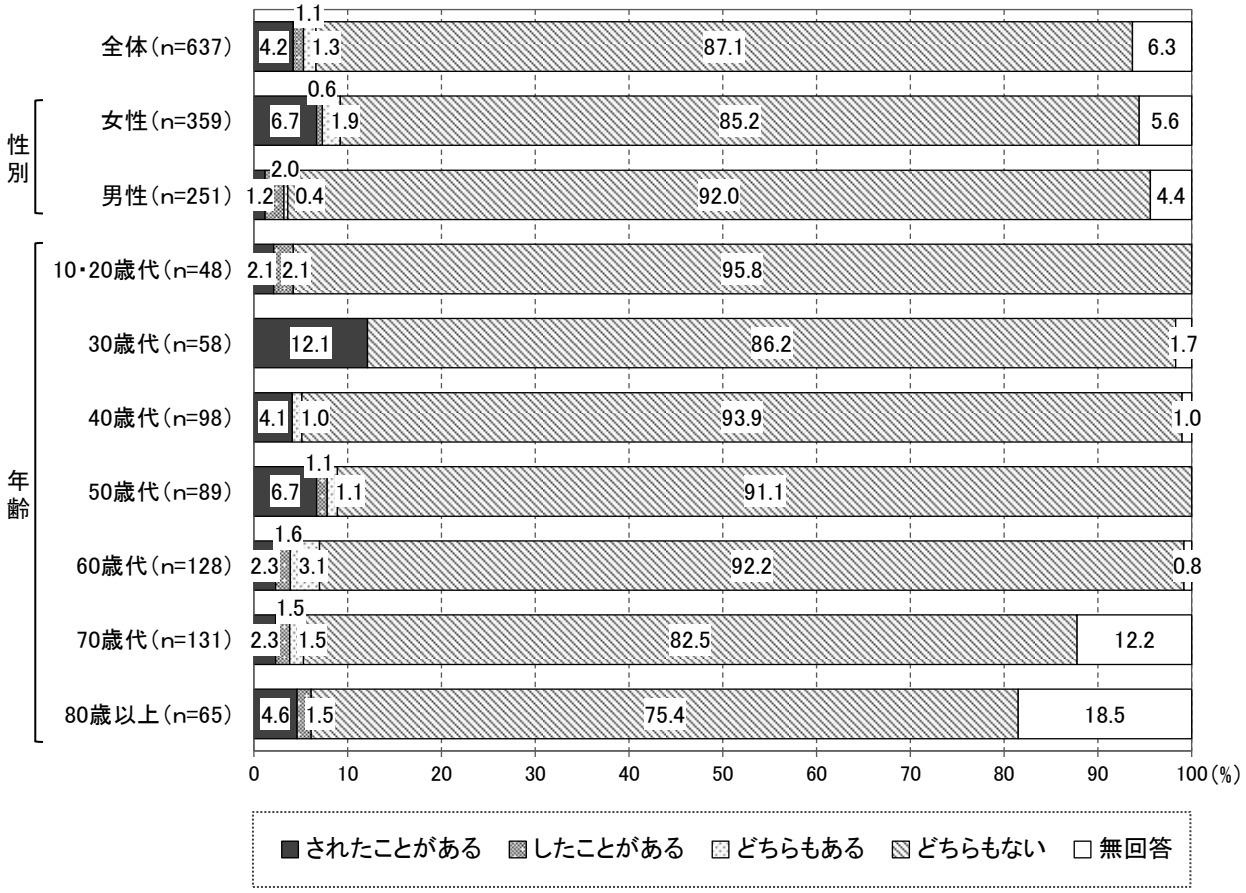
前回調査と比べると、女性で「されたことがある」がわずかながら高くなっています。



（3）医師の治療までは必要ない程度の暴力

全体では、「どちらもない」が87.1%と最も高く、次いで、「されたことがある」(4.2%)、「どちらもある」(1.3%）の順となっています。

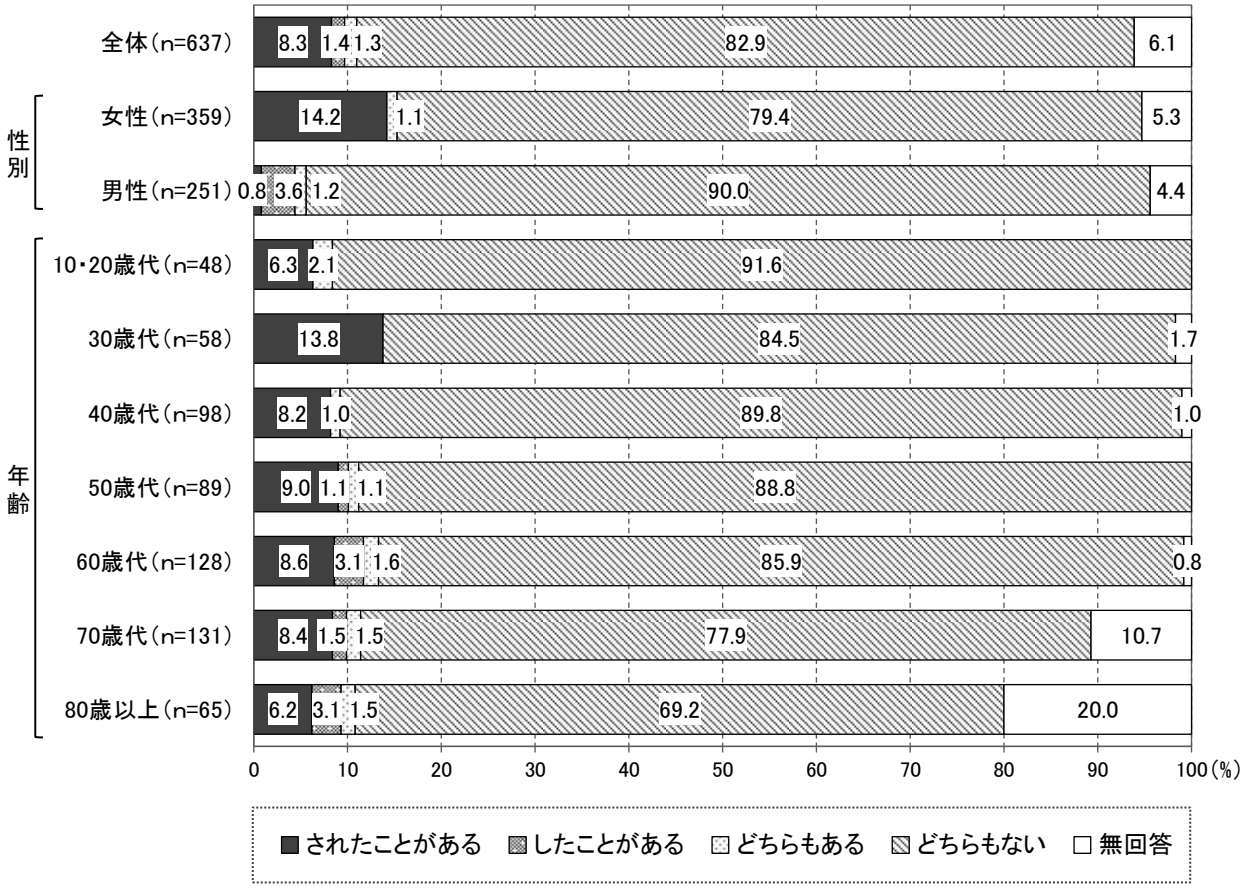
前回調査とは変わりありません。



（４）嫌がっているのに性的な行為を強要

全体では、「どちらもない」が 82.9%と最も高く、次いで、「されたことがある」(8.3%)、「したことがある」(1.4%）の順となっています。

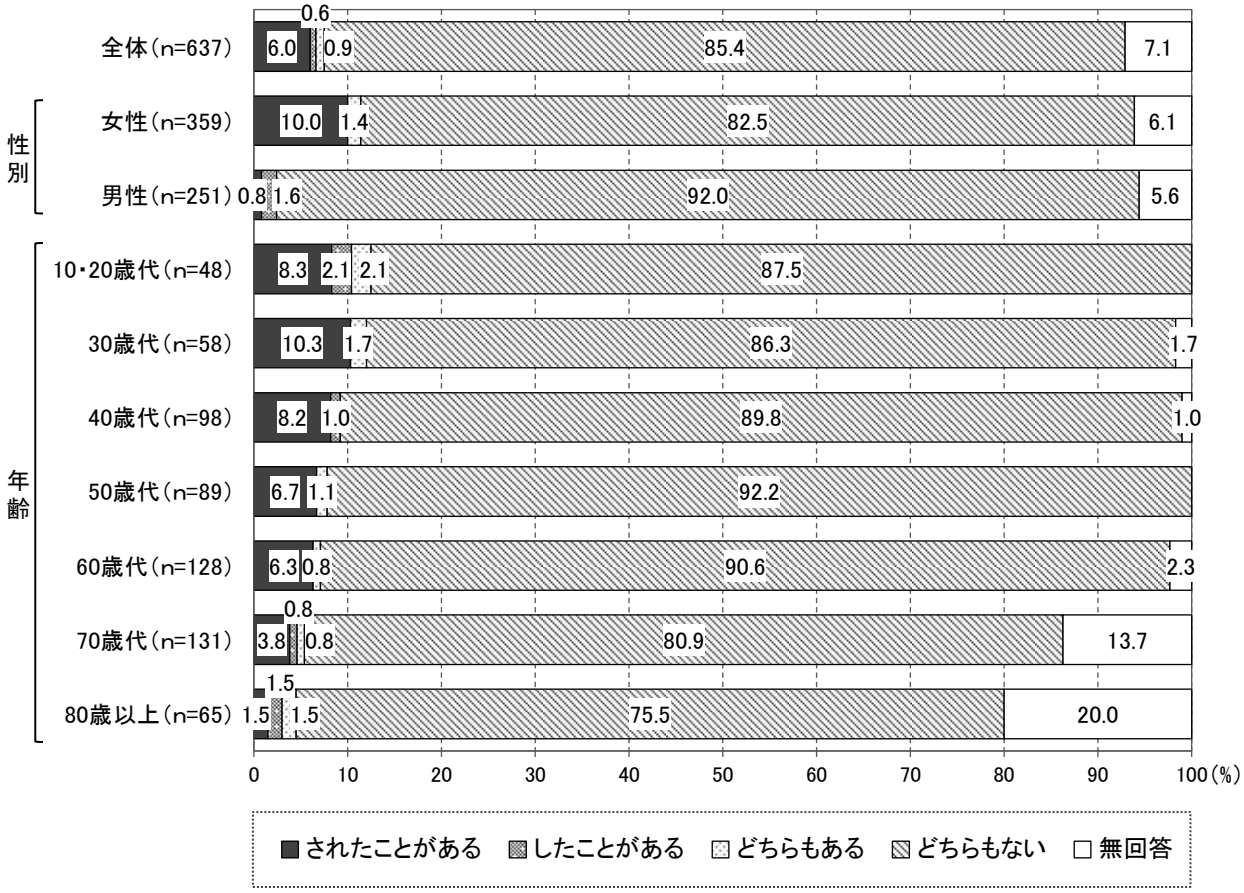
前回調査と比べると、女性で「されたことがある」が 6.3 ポイント（前回 7.9%）高くなっています。



（５）避妊に協力しない

全体では、「どちらもない」が 85.4%と最も高く、次いで、「されたことがある」(6.0%)、「どちらもある」(0.9%）の順となっています。

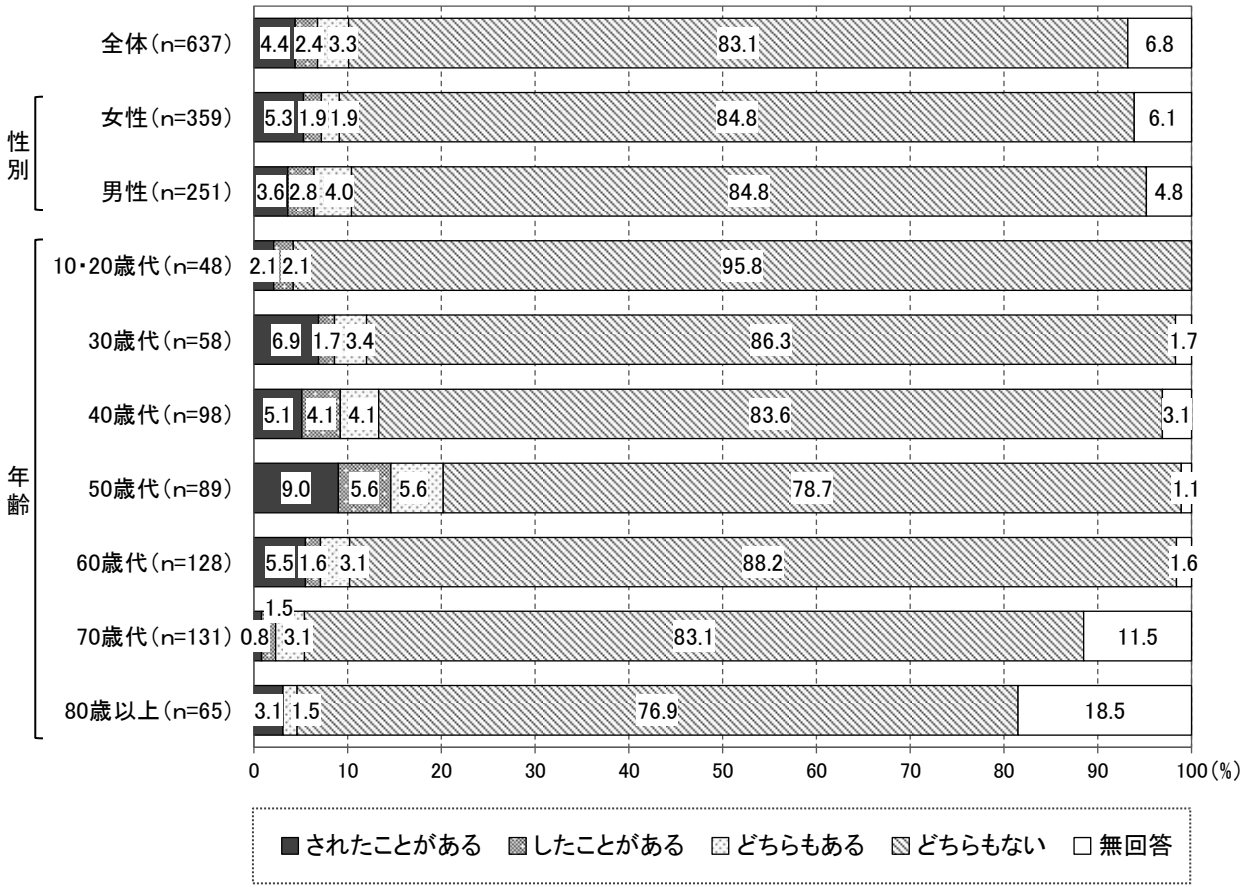
前回調査と比べると、女性で「されたことがある」がわずかながら高くなっています。



（６）何を言っても無視され続ける

全体では、「どちらもない」が 83.1%と最も高く、次いで、「されたことがある」(4.4%)、「どちらもある」(3.3%) の順となっています。

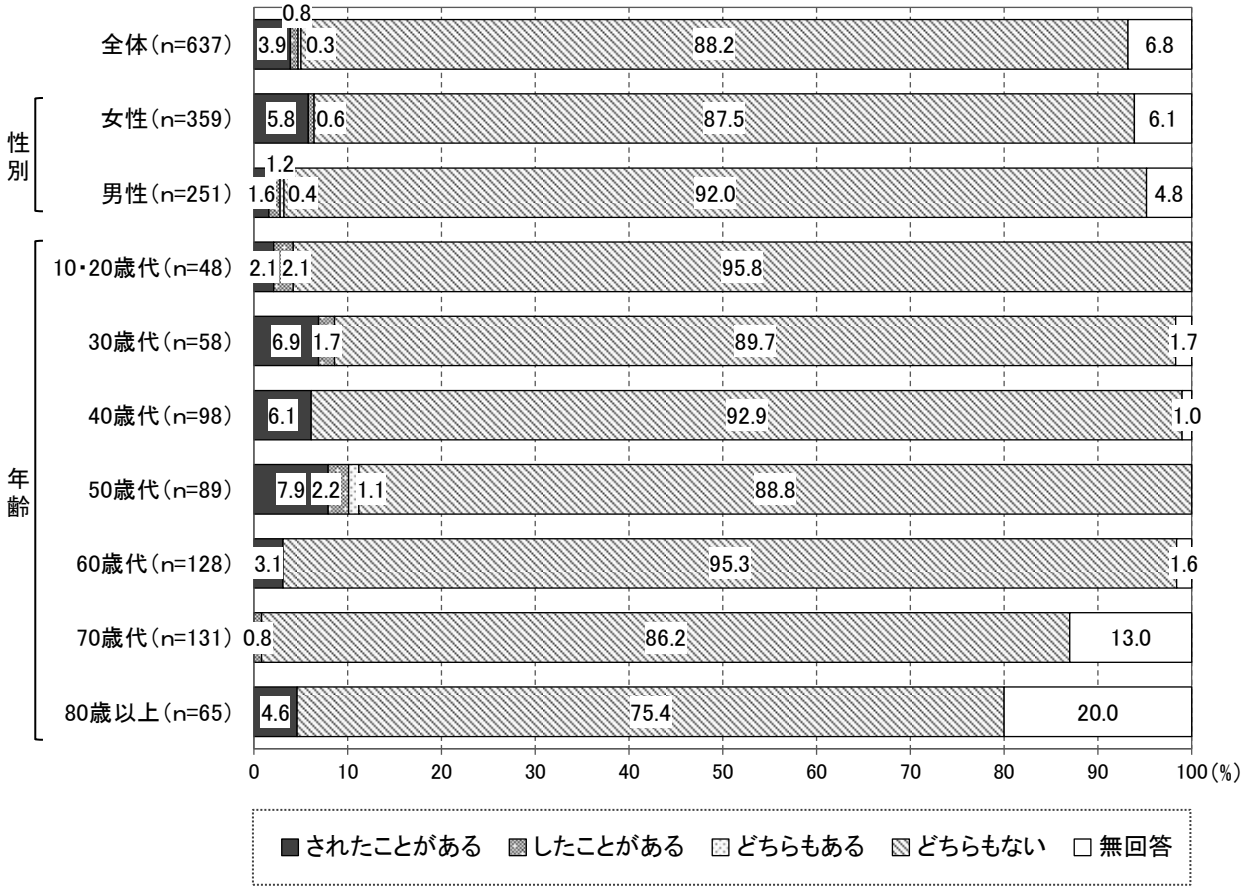
前回調査とは変わりありませんが、県調査と比べると、全体で「されたことがある」が 6.8 ポイント低くなっています。



（7）「誰のおかげで生活できてるんだ」「殺すぞ」などと怒鳴ったり、「稼ぎが悪い」などとののしる

全体では、「どちらもない」が88.2%と最も高く、次いで、「されたことがある」(3.9%)、「したことがある」(0.8%）の順となっています。

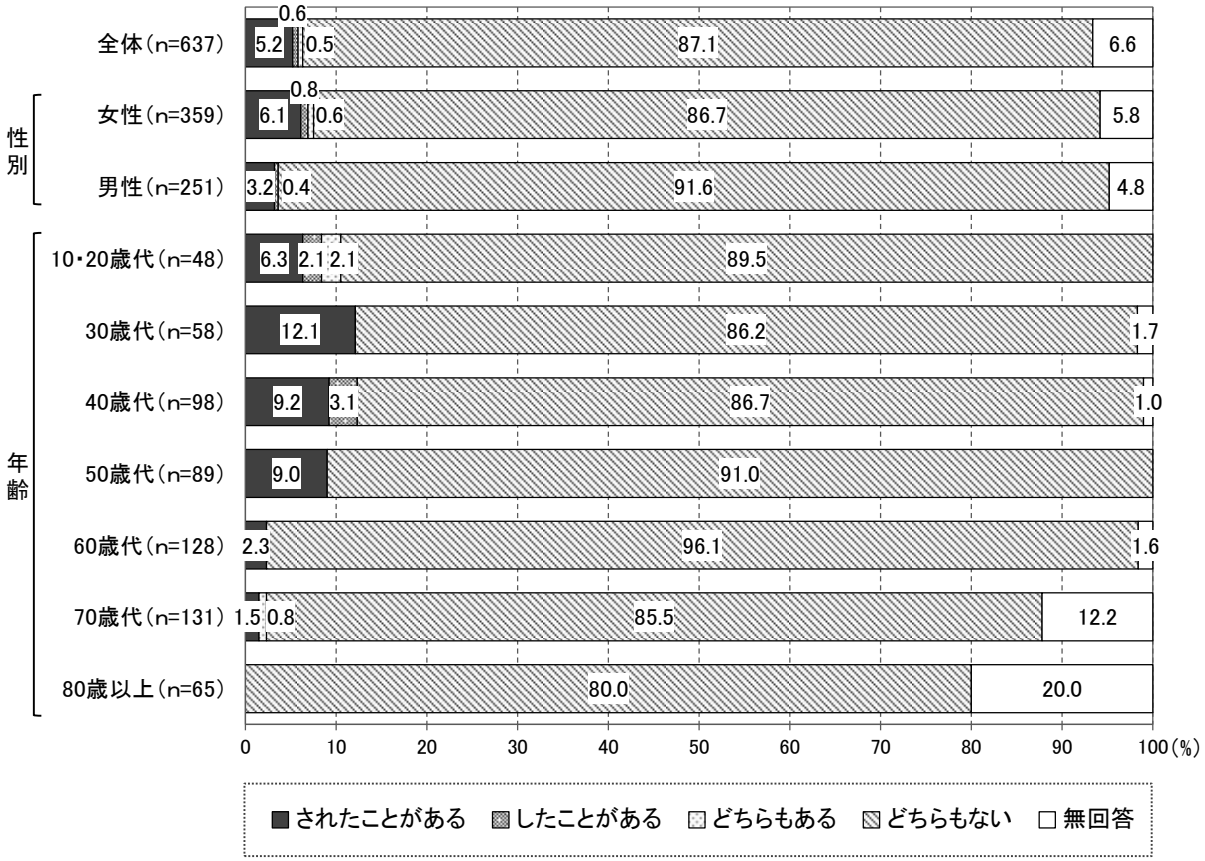
前回調査とは変わりありません。



（８）交友関係や電話、メールなどを細かく監視したり、頻繁に電話やメールをしてきて、すぐ返事をしないと怒る

全体では、「どちらもない」が87.1%と最も高く、次いで、「されたことがある」(5.2%)、「したことがある」(0.6%）の順となっています。

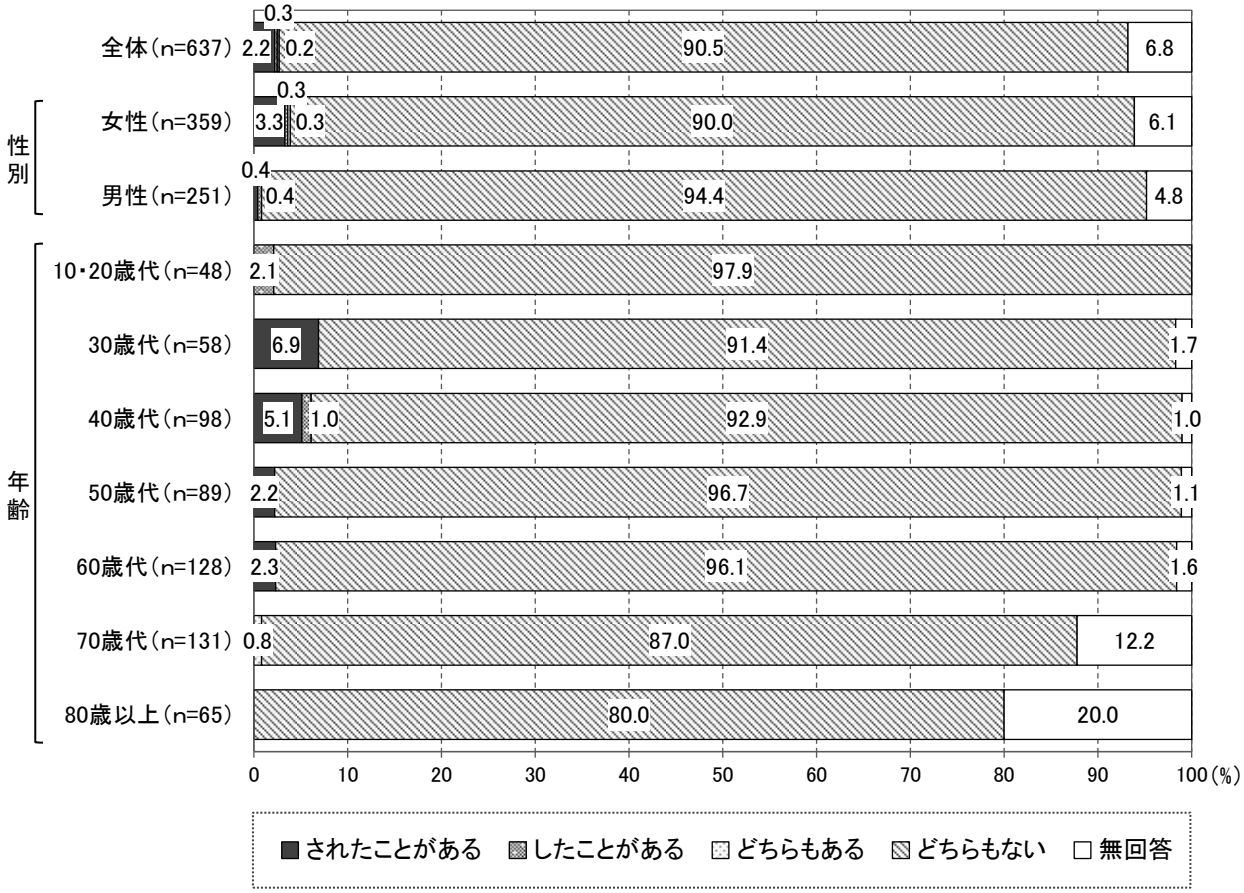
前回調査と比べると、男女とも「されたことがある」がわずかながら高くなっています。



（9）社会との関わりや働くことなどを許さない

全体では、「どちらもない」が90.5%と最も高く、次いで、「されたことがある」(2.2%)、「したことがある」(0.3%）の順となっています。

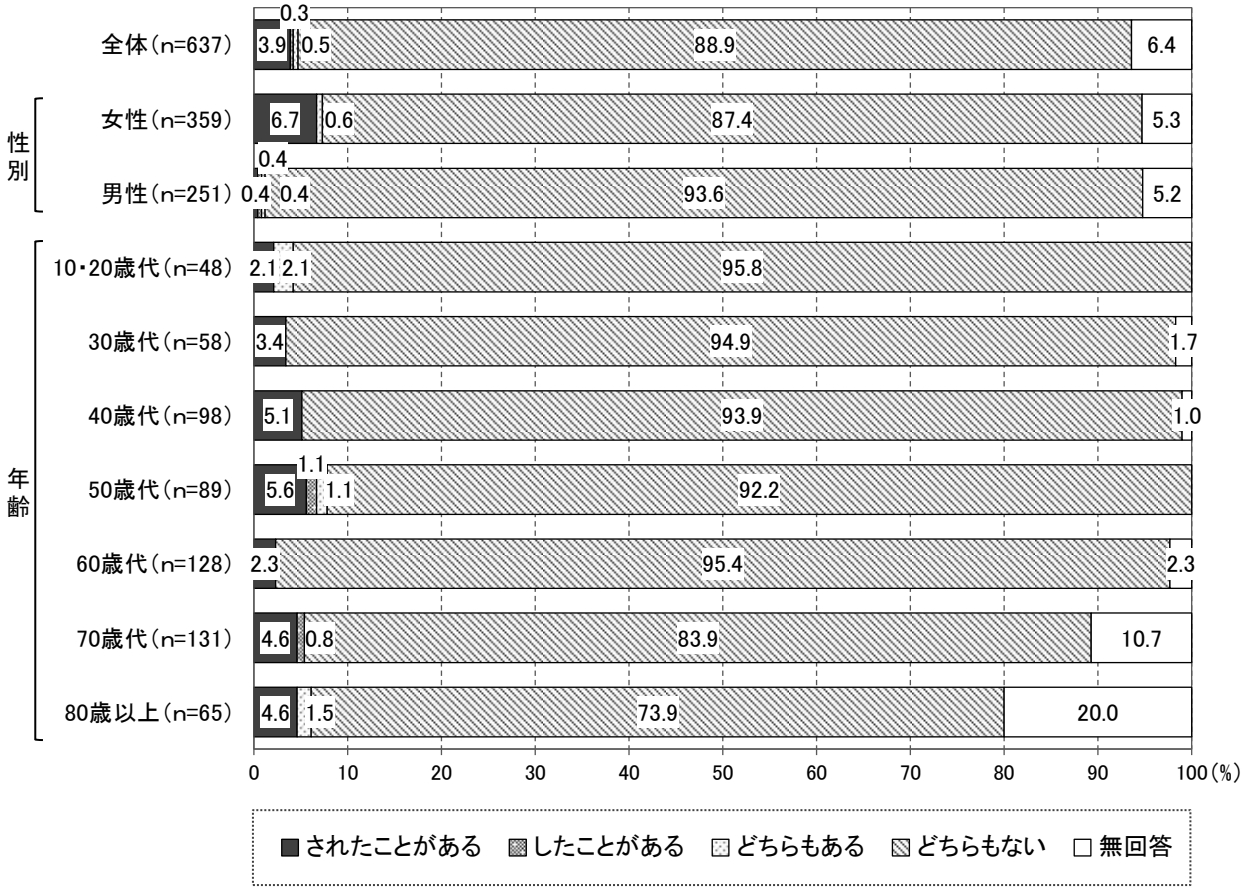
前回調査とは変わりありません。



（10）生活費を渡さなかったり、お金のやりくりを細かく報告させたりして経済的に押さえつける

全体では、「どちらもない」が88.9%と最も高く、次いで、「されたことがある」(3.9%)、「どちらもある」(0.5%）の順となっています。

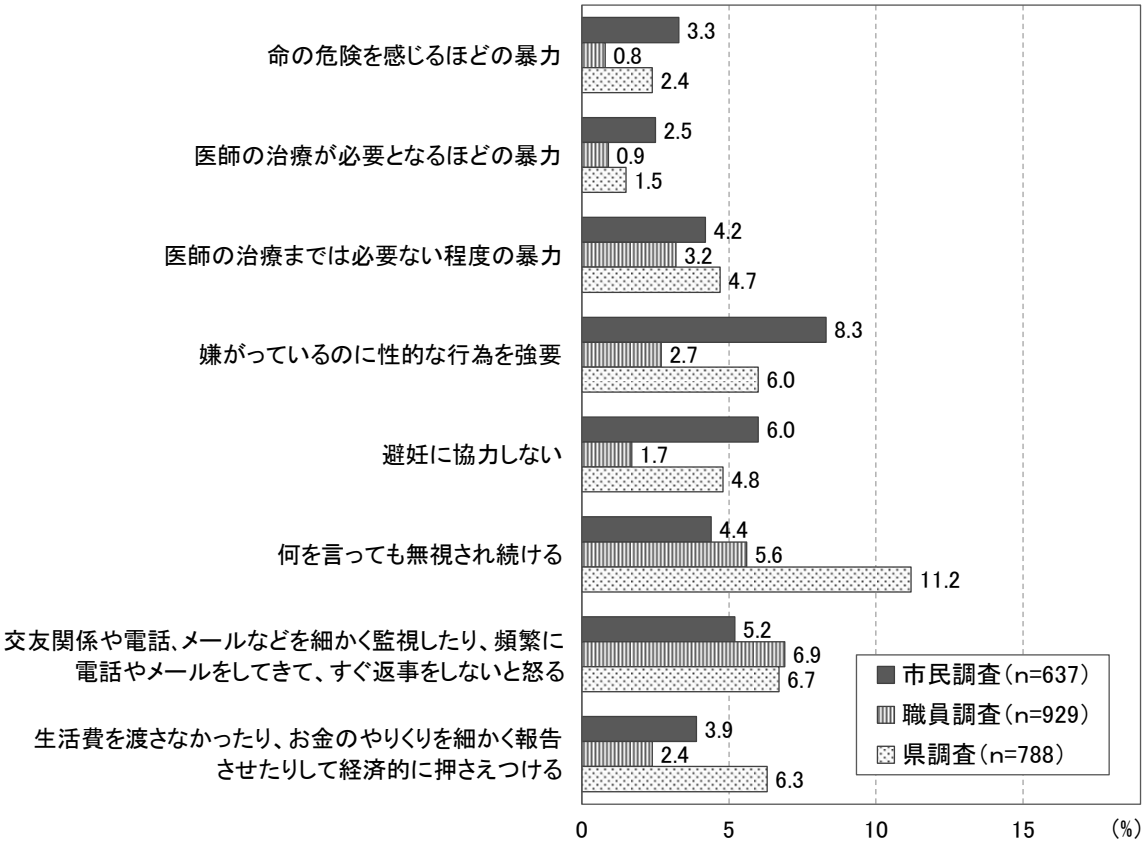
前回調査とは変わりありません。



◆県との比較（参考）

【県】令和元年度男女共同参画社会づくりのための県民意識調査結果

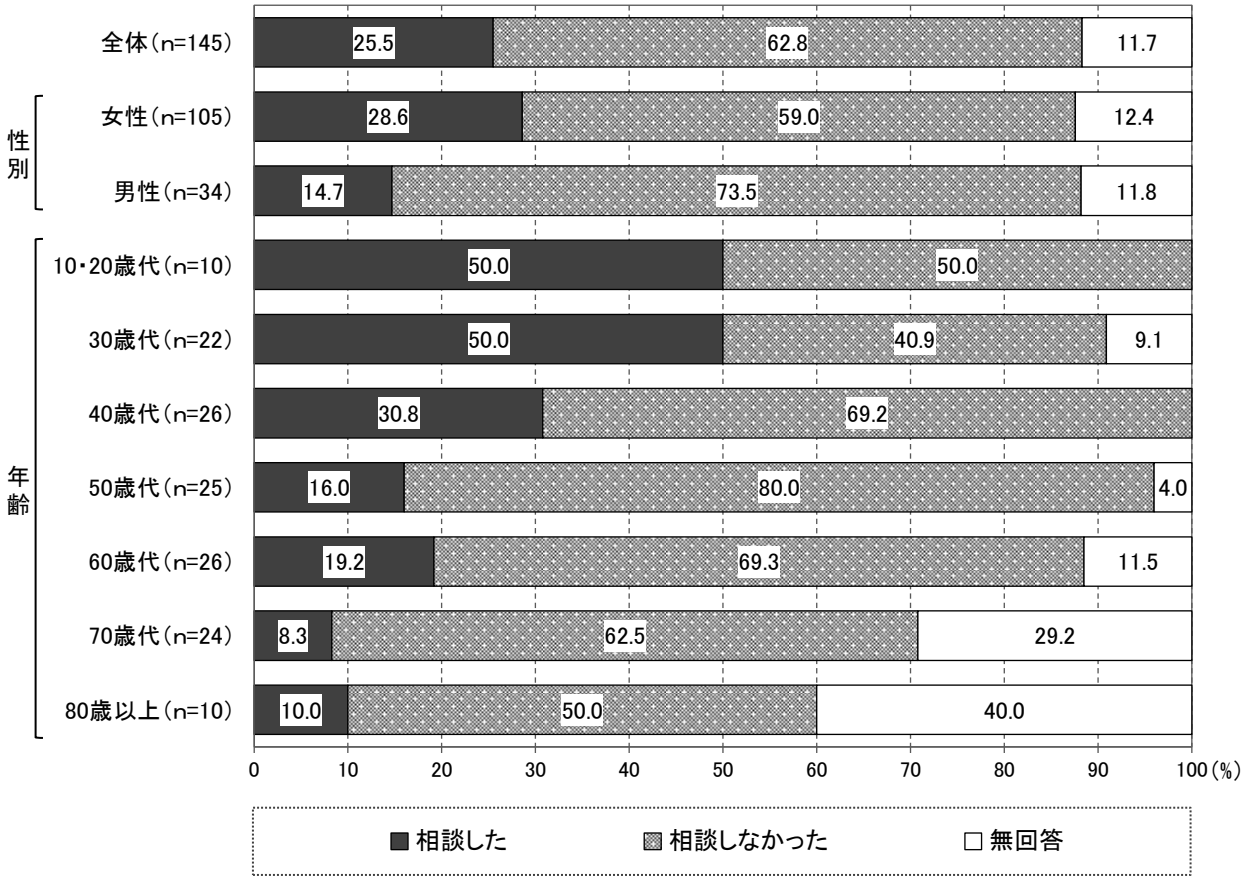
《されたことがあるDV内容》



問 21-1

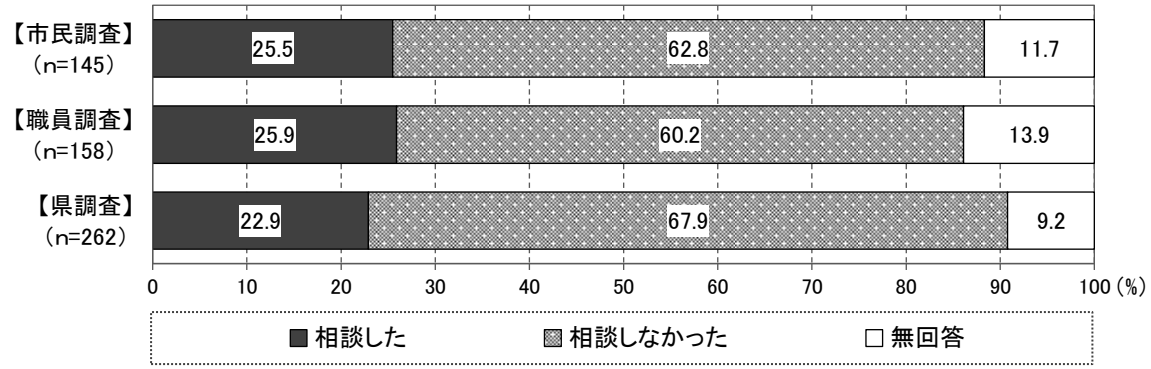
◆問 21 で、１つでも「されたことがある」・「どちらもある」と回答した方。
そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

全体では、「相談しなかった」が 62.8%と高く、「相談した」が 25.5%となっています。
前回調査と比べると、女性で「相談した」がわずかながら高くなっています。
県調査と比べると、全体で「相談した」がわずかながら高くなっています。



◆県との比較（参考）

【県】令和元年度男女共同参画社会づくりのための県民意識調査結果



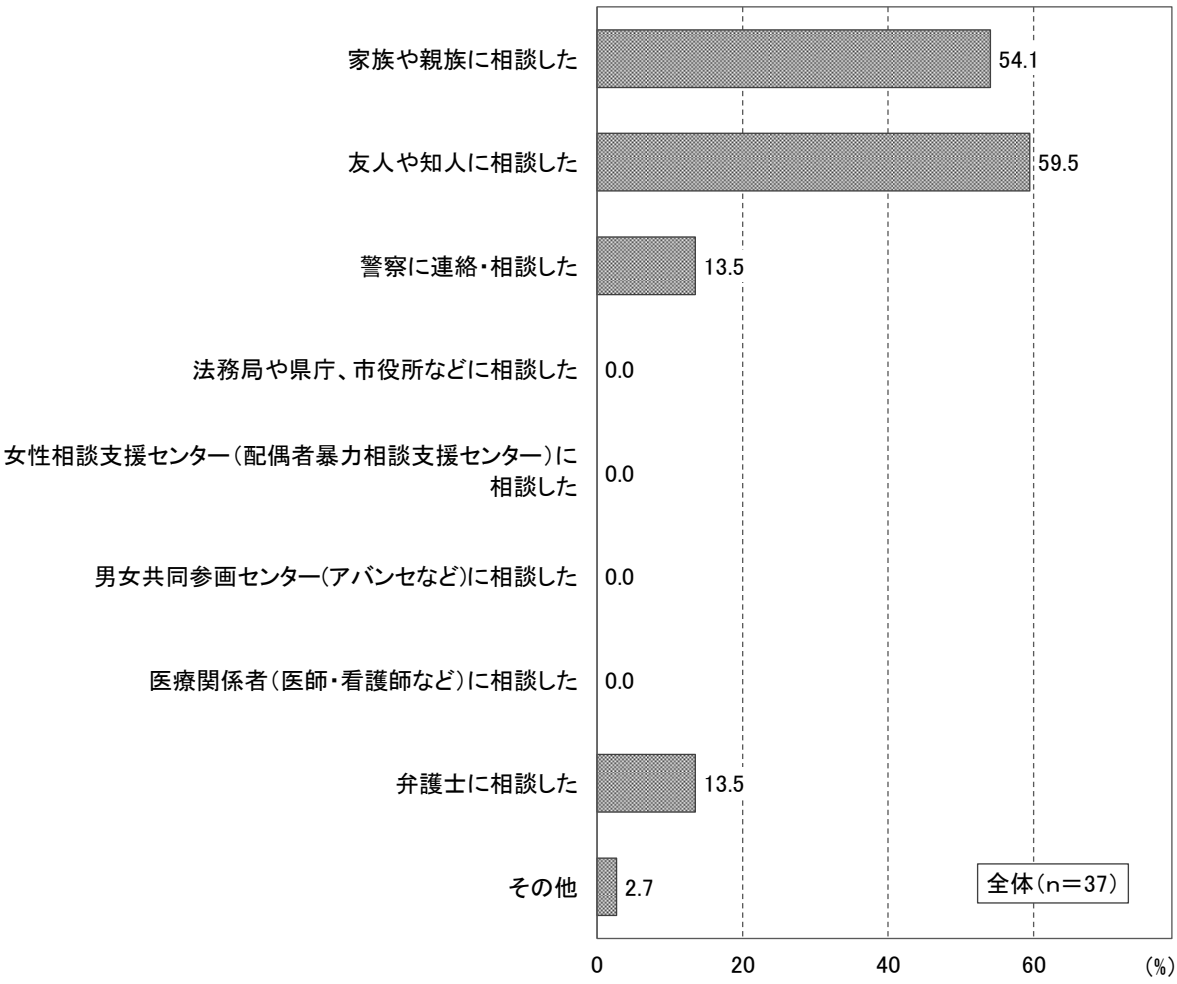
問 21-2

◆問 21-1 で、「1. 相談した」と回答した方。

誰（どこ）に相談しましたか。【複数回答可】

「友人や知人に相談した」が 59.5％と最も高く、次いで、「家族や親族に相談した」(54.1％)、「警察に連絡・相談した」・「弁護士に相談した」（13.5％で同率）の順となっています。

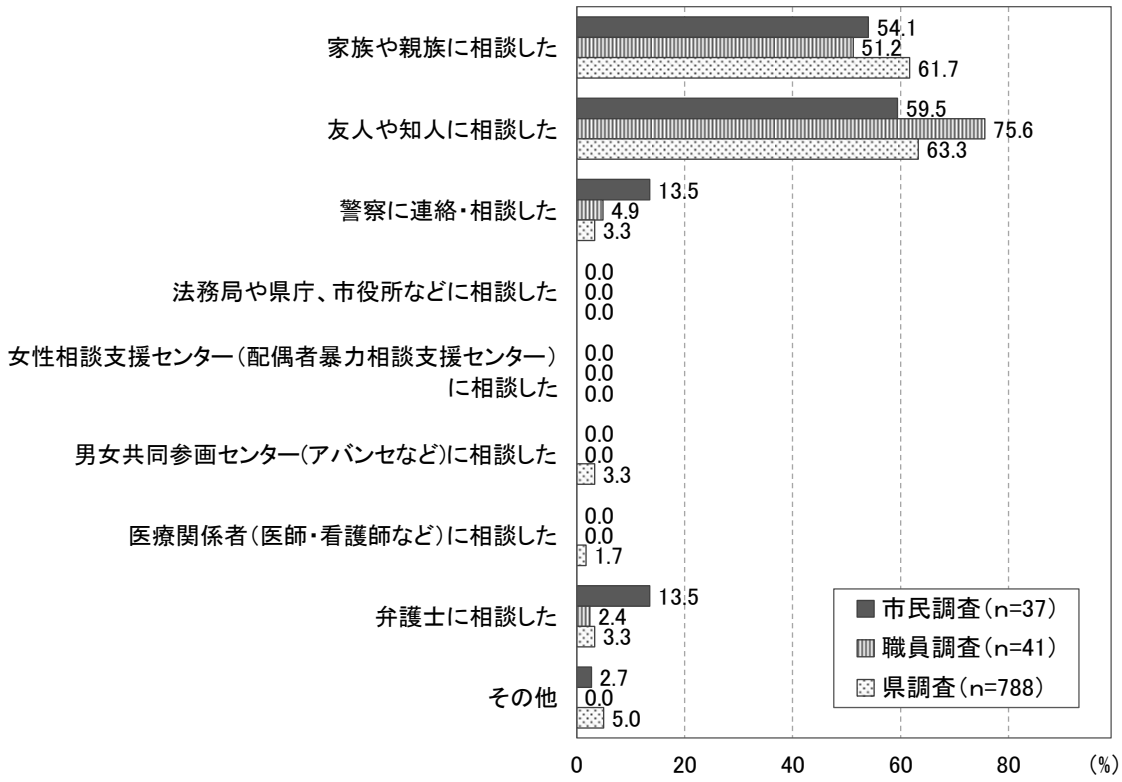
県調査と比べると、同じ順で高い割合となっています。



		(n=)	家族や親族に相談した	友人や知人に相談した	警察に連絡・相談した	法務局や県庁、市役所などに相談した	女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）に相談した	男女共同参画センター（アバンセなど）に相談した	医療関係者（医師・看護師など）に相談した	弁護士に相談した	その他
全体		37	20 54.1%	22 59.5%	5 13.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 13.5%	1 2.7%
性別	女性	30	18 60.0%	18 60.0%	3 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 16.7%	1 3.3%
	男性	5	2 40.0%	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
年齢	10･20歳代	5	2 40.0%	4 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30歳代	11	7 63.6%	4 36.4%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	40歳代	8	3 37.5%	8 100.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	1 12.5%
	50歳代	4	2 50.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%
	60歳代	5	3 60.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%
	70歳代	2	2 100.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%
	80歳以上	1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

◆県との比較（参考）

【県】令和元年度男女共同参画社会づくりのための県民意識調査結果



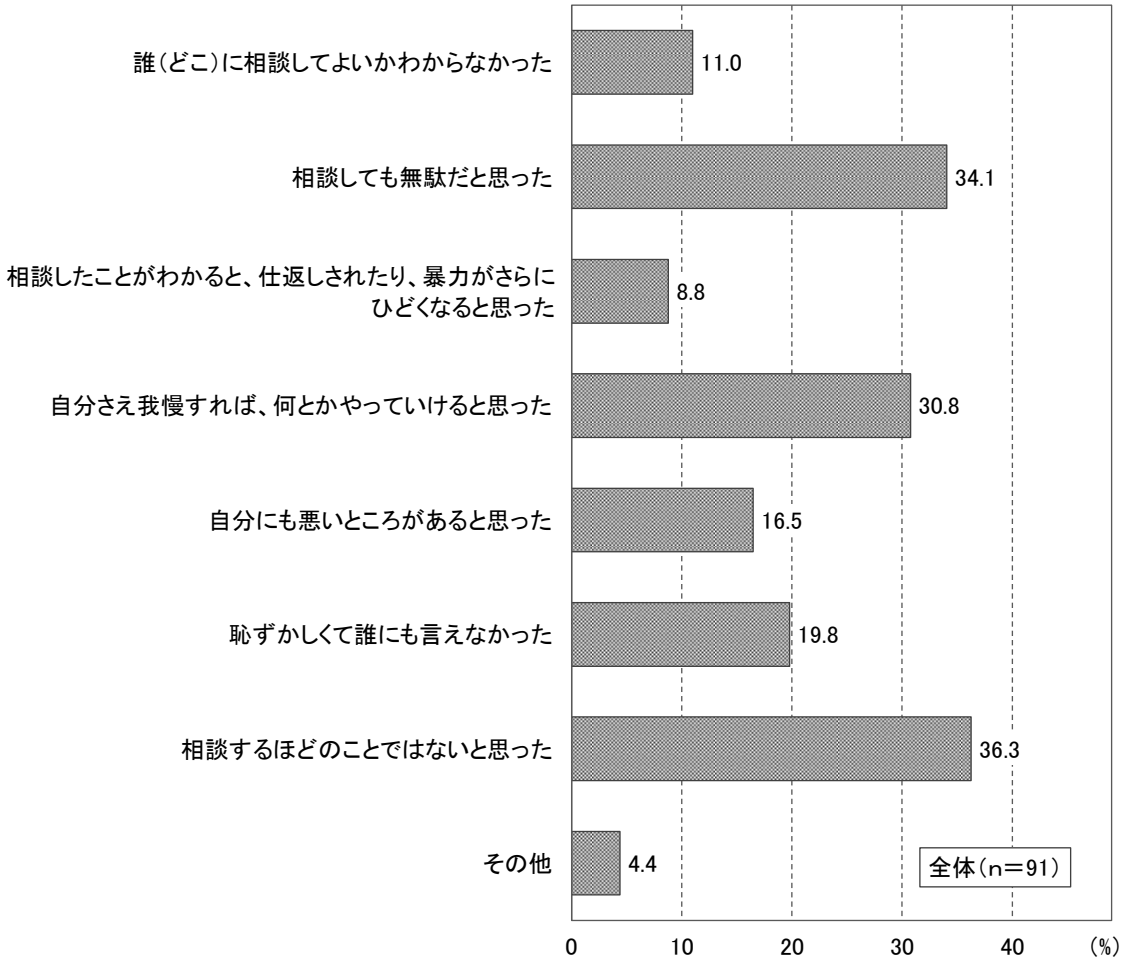
問 21-3

◆21-1 で、「２．相談しなかった」と回答した方。
それはなぜですか。【複数回答可】

「相談するほどのことではないと思った」が 36.3%と最も高く、次いで、「相談しても無駄だと思った」(34.1%)、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」(30.8%)の順となっています。

性別で見ると、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」で男性より女性が 21.1 ポイント高く、大きな差がみられます。

前回調査とは変わりありません。

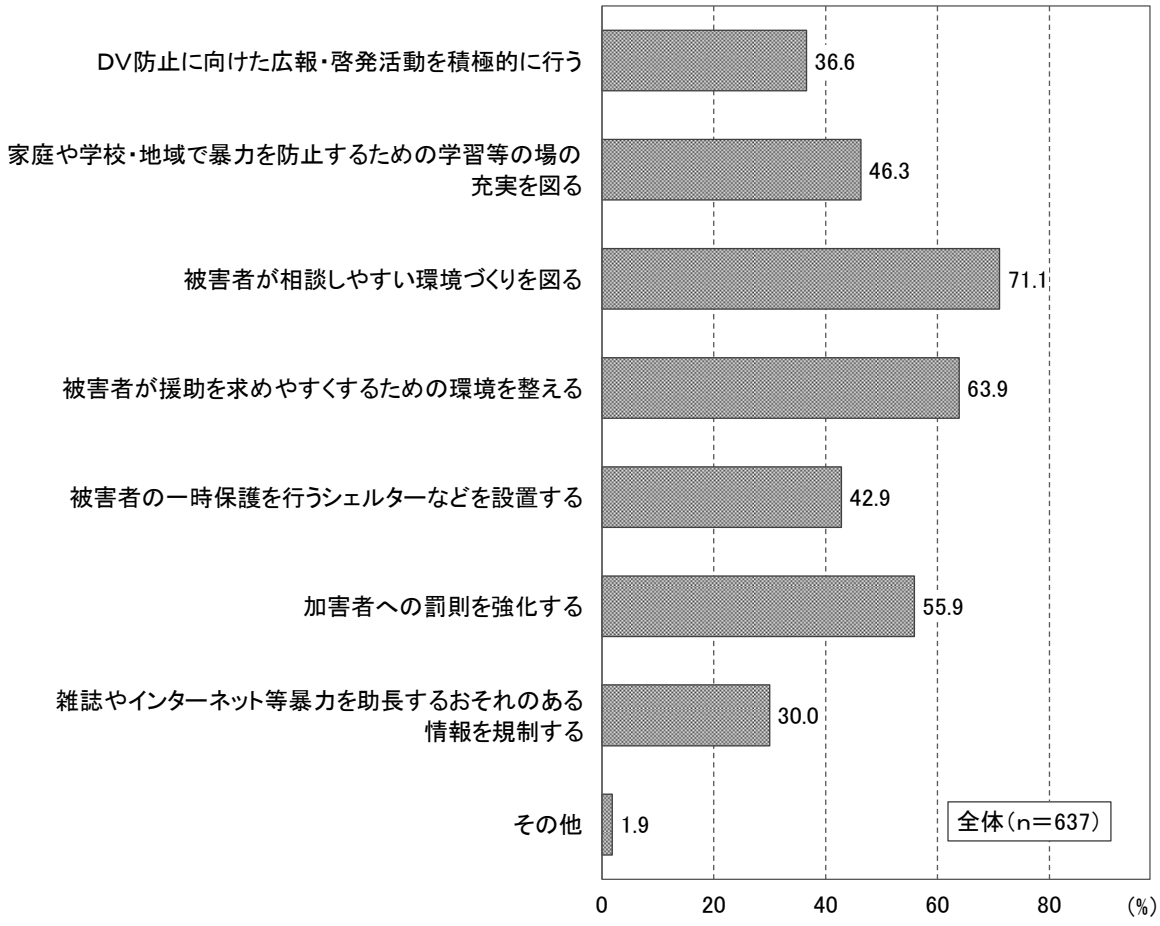


		（n＝）	誰（どこ）に相談してよいかわからなかった	相談しても無駄だと思った	相談したことがわかると、仕返しされたり、暴力がさらにひどくなると思った	自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った	自分にも悪いところがあると思った	恥ずかしくて誰にも言えなかった	相談するほどのことではないと思った	その他
全体		91	10 11.0%	31 34.1%	8 8.8%	28 30.8%	15 16.5%	18 19.8%	33 36.3%	4 4.4%
性別	女性	62	7 11.3%	21 33.9%	5 8.1%	23 37.1%	7 11.3%	14 22.6%	19 30.6%	4 6.5%
	男性	25	2 8.0%	9 36.0%	2 8.0%	4 16.0%	7 28.0%	3 12.0%	11 44.0%	0 0.0%
年齢	10・20歳代	5	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%
	30歳代	9	1 11.1%	2 22.2%	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	6 66.7%	0 0.0%
	40歳代	18	2 11.1%	7 38.9%	1 5.6%	7 38.9%	4 22.2%	6 33.3%	6 33.3%	1 5.6%
	50歳代	20	3 15.0%	8 40.0%	3 15.0%	4 20.0%	4 20.0%	3 15.0%	7 35.0%	1 5.0%
	60歳代	18	3 16.7%	5 27.8%	1 5.6%	8 44.4%	3 16.7%	6 33.3%	2 11.1%	1 5.6%
	70歳代	15	0 0.0%	5 33.3%	0 0.0%	4 26.7%	1 6.7%	2 13.3%	7 46.7%	0 0.0%
	80歳以上	5	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%

問 22　今後、ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）を防ぐためには、どのような取組が必要だと思いますか。【複数回答可】

「被害者が相談しやすい環境づくりを図る」が 71.1％と最も高く、次いで、「被害者が援助を求めやすくするための環境を整える」(63.9％)、「加害者への罰則を強化する」(55.9％)の順となっています。

前回調査と比べると、選択肢が異なりますが、「被害者が相談しやすい環境づくりを図る」（前回は「被害者が安心して相談できる窓口を整備する」）が最も高く、変わりありません。



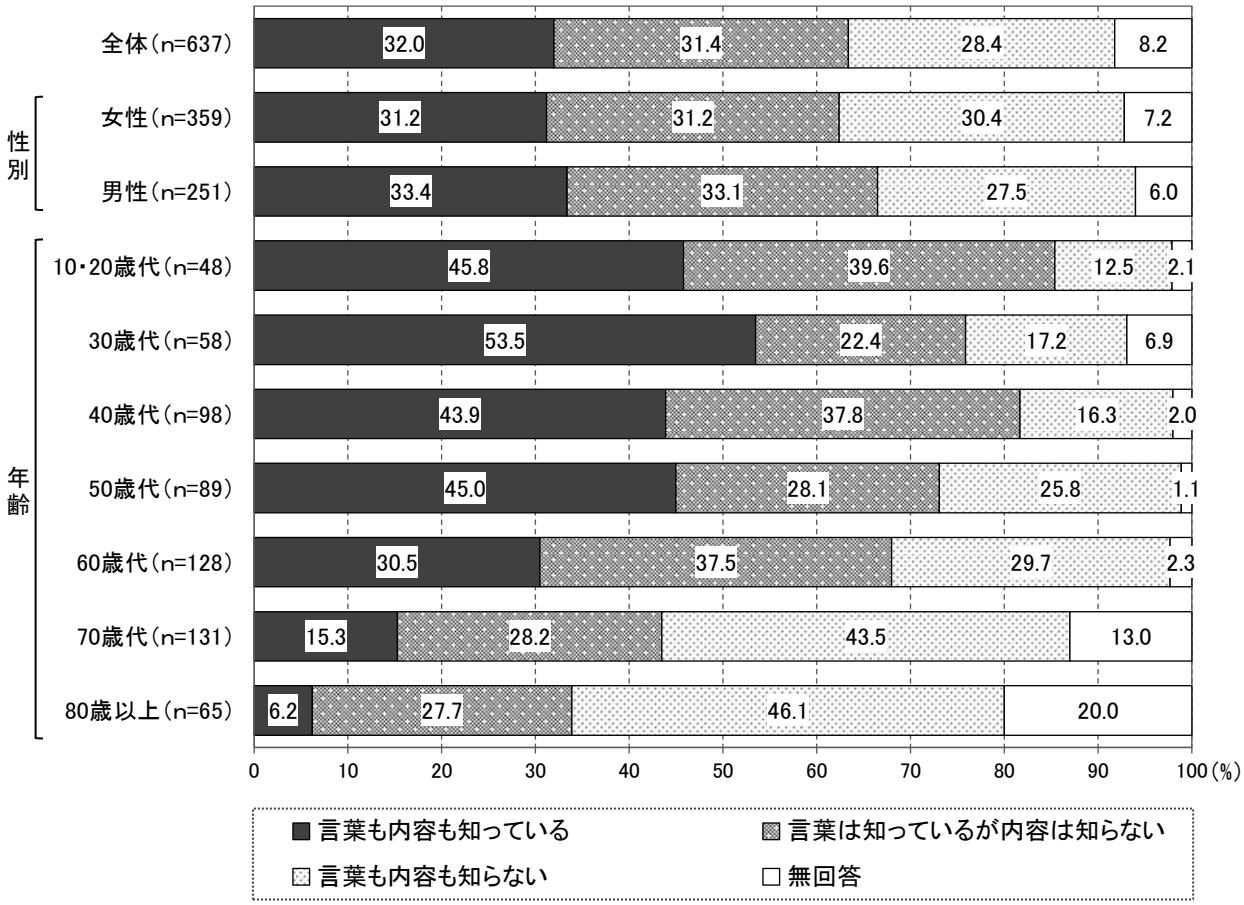
		（n＝）	ＤＶ防止に向けた広報・啓発活動を積極的に行う	家庭や学校・地域で暴力を防止するための学習等の場の充実を図る	被害者が相談しやすい環境づくりを図る	被害者が援助を求めやすくするための環境を整える	被害者の一時保護を行うシェルターなどを設置する	加害者への罰則を強化する	雑誌やインターネット等暴力を助長するおそれのある情報を規制する	その他
全体		637	233 36.6%	295 46.3%	453 71.1%	407 63.9%	273 42.9%	356 55.9%	191 30.0%	12 1.9%
性別	女性	359	130 36.2%	166 46.2%	267 74.4%	232 64.6%	166 46.2%	201 56.0%	113 31.5%	9 2.5%
	男性	251	95 37.8%	121 48.2%	173 68.9%	160 63.7%	98 39.0%	143 57.0%	71 28.3%	3 1.2%
年齢	10･20歳代	48	19 39.6%	24 50.0%	33 68.8%	36 75.0%	22 45.8%	28 58.3%	14 29.2%	2 4.2%
	30歳代	58	17 29.3%	26 44.8%	46 79.3%	38 65.5%	27 46.6%	38 65.5%	11 19.0%	2 3.4%
	40歳代	98	41 41.8%	54 55.1%	81 82.7%	79 80.6%	54 55.1%	68 69.4%	29 29.6%	2 2.0%
	50歳代	89	34 38.2%	48 53.9%	68 76.4%	66 74.2%	47 52.8%	61 68.5%	31 34.8%	3 3.4%
	60歳代	128	55 43.0%	64 50.0%	99 77.3%	84 65.6%	65 50.8%	77 60.2%	43 33.6%	3 2.3%
	70歳代	131	47 35.9%	50 38.2%	81 61.8%	62 47.3%	39 29.8%	55 42.0%	43 32.8%	0 0.0%
	80歳以上	65	16 24.6%	25 38.5%	36 55.4%	34 52.3%	14 21.5%	22 33.8%	16 24.6%	0 0.0%

問 23　「ＬＧＢＴＱ＋（プラス）」という言葉を知っていますか。

全体では、「言葉も内容も知っている」が 32.0％と最も高く、次いで、「言葉は知っているが内容は知らない」（31.4％）、「言葉も内容も知らない」（28.4％）の順となっています。

性年齢別では、70 歳代・80 歳以上男女で「言葉も内容も知らない」が最も高くなっています。

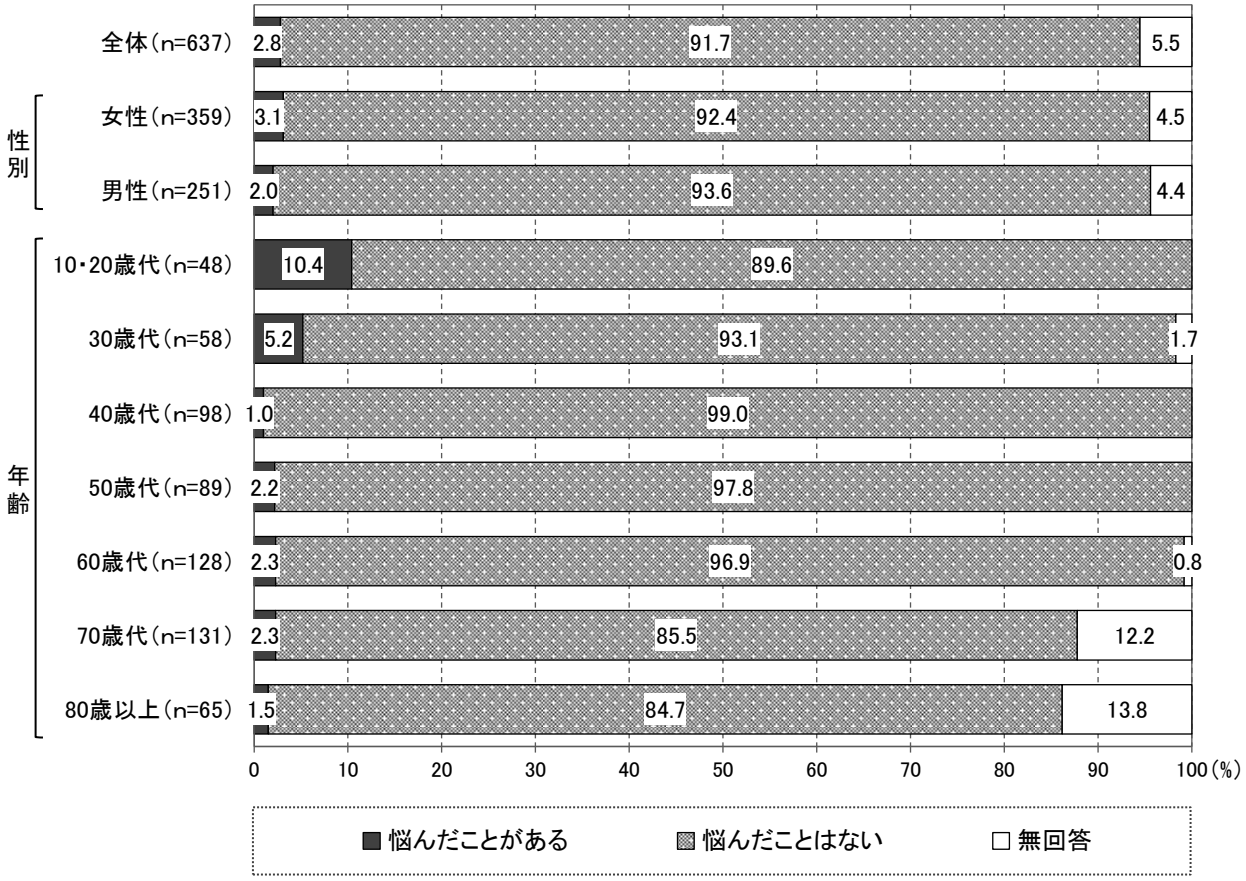
前回調査と比べると、「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが内容は知らない」を合わせた「認知度率」は男女とも 11.5 ポイント（前回 74.9％）低くなっています。



問 24　あなたは今までに自分のからだの性、こころの性または性的指向（同性愛など）に悩んだことがありますか。

全体では、「悩んだことはない」が 91.7%と高く、「悩んだことがある」が 2.8%となっています。

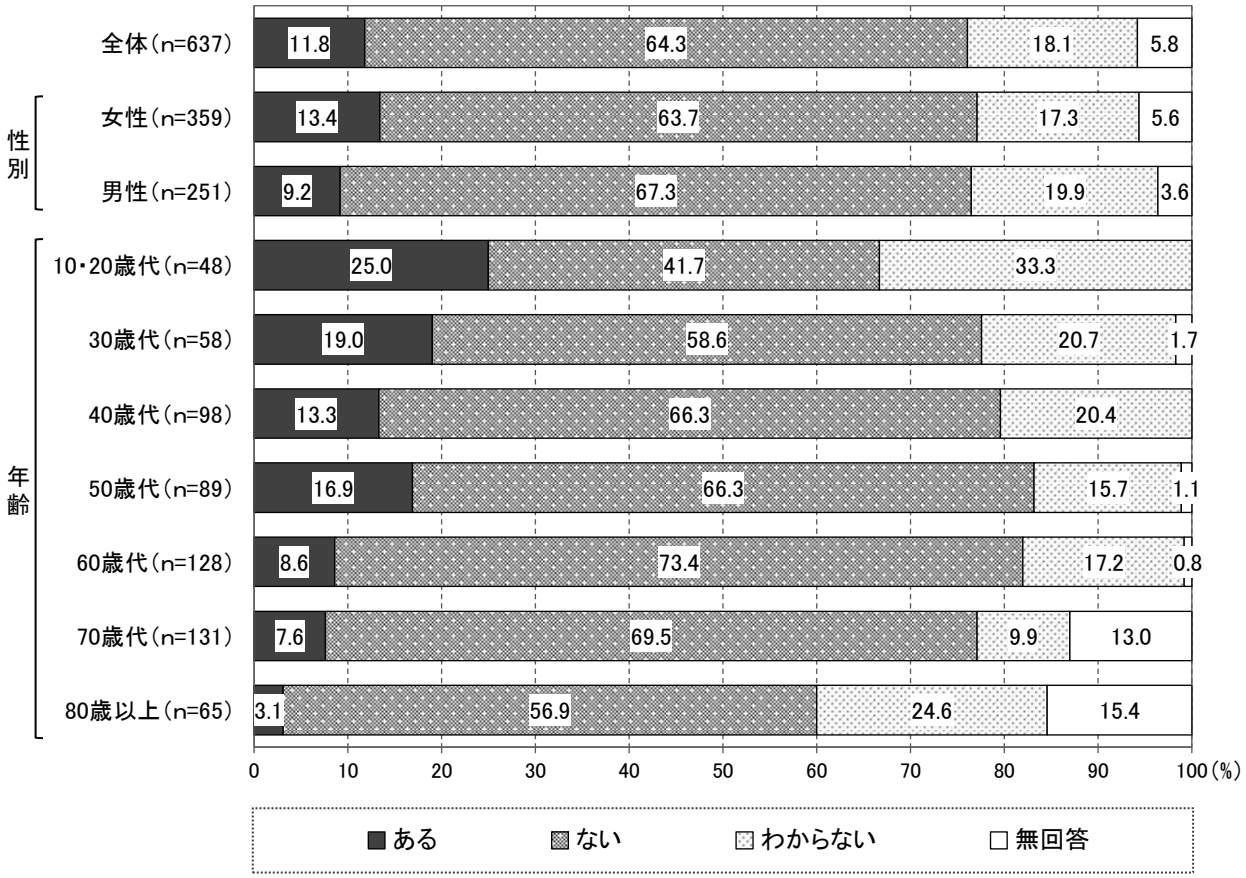
前回調査と比べると、女性で「悩んだことがある」がわずかながら高くなっています。



問 25　「ＬＧＢＴＱ＋」に関する差別的な言動を受けたり、見聞きしたことはありますか。

全体では、「ない」が 64.3％と最も高く、次いで、「わからない」（18.1％）、「ある」（11.8％）の順となっています。

前回調査と比べると、「ある」がわずかながら女性で高く、男性で低くなっています。



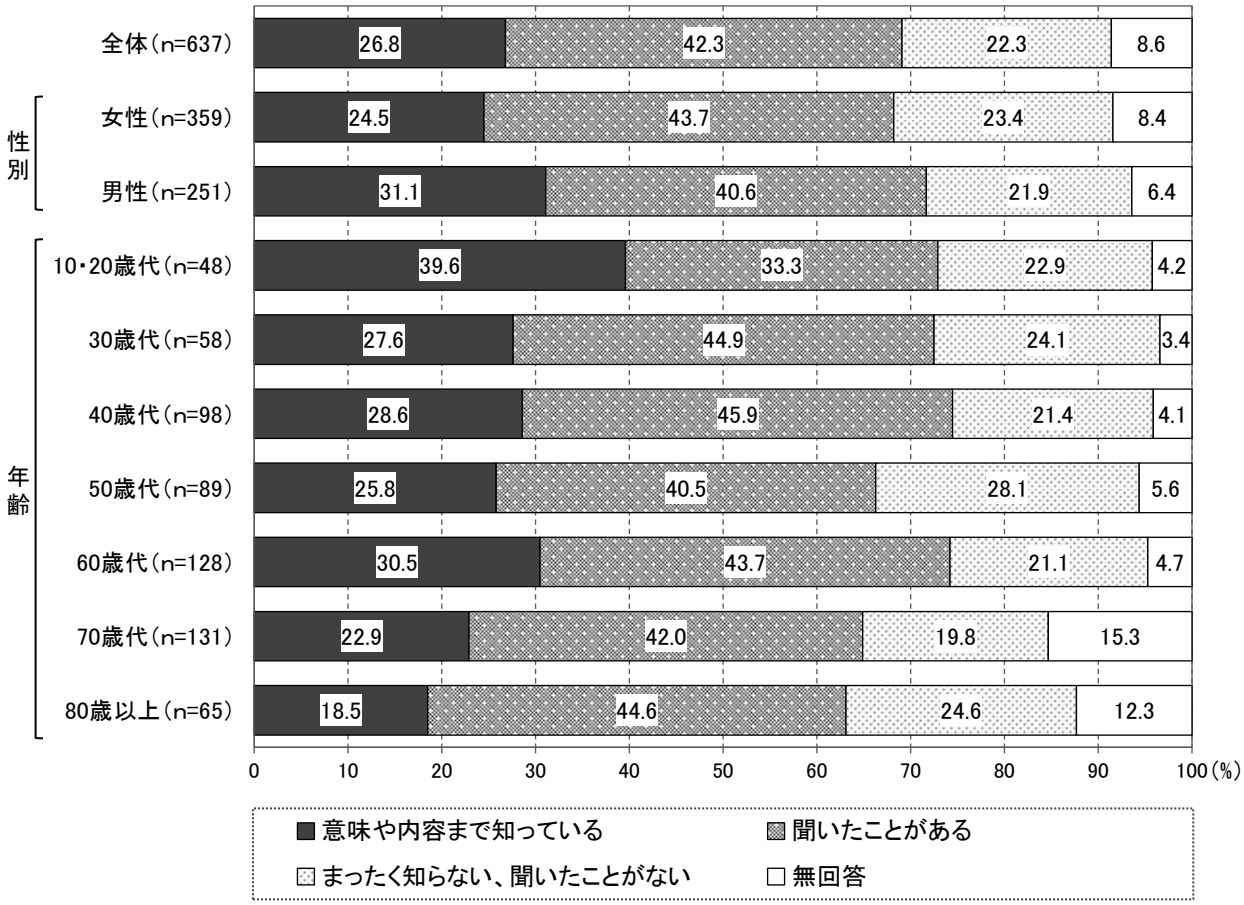
8．男女共同参画について

問 26　あなたは次の言葉や取組をどのくらい知っていますか。

（1）男女共同参画社会

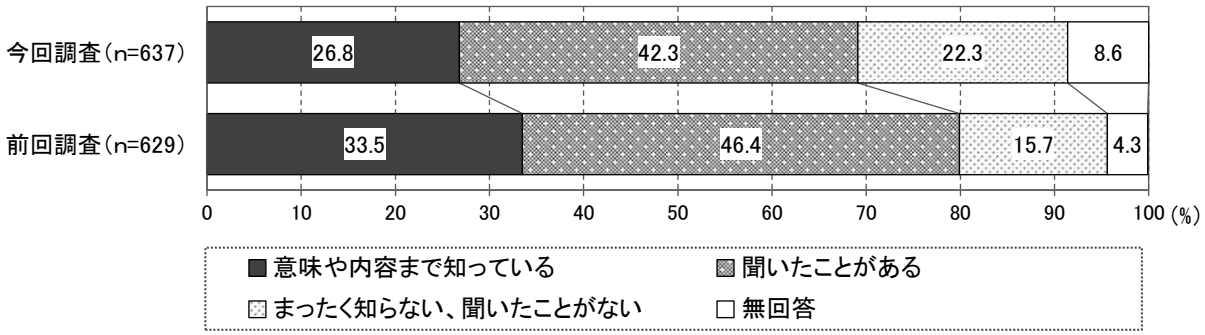
全体では、「聞いたことがある」が 42.3%と最も高く、次いで、「意味や内容まで知っている」（26.8%）、「まったく知らない、聞いたことがない」（22.3%）の順となっています。

前回調査と比べると、「聞いたことがある」と「意味や内容まで知っている」を合わせた「認知度率」は、全体で 10.8 ポイント（前回 79.9%）、女性で 11.5 ポイント（前回 79.7%）、男性で 9.8 ポイント（前回 81.5%）それぞれ低くなっています。



◆前回調査との比較（成果指標に関する設問）

【前回調査】平成 30 年度男女共同参画社会づくりのための市民意識調査

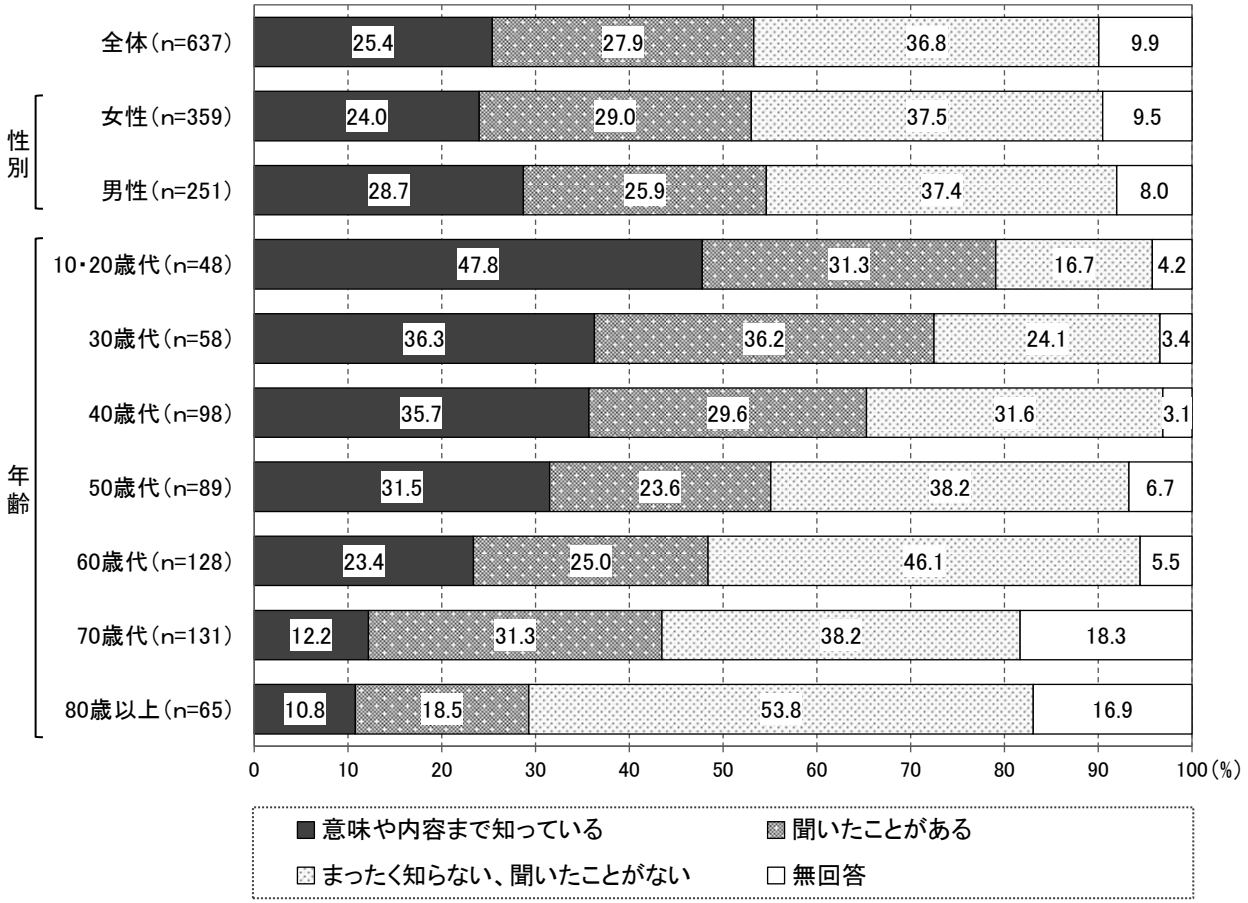


（2）ワーク・ライフ・バランス

全体では、「まったく知らない、聞いたことがない」が 36.8%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」（27.9%）、「意味や内容まで知っている」（25.4%）の順となっています。

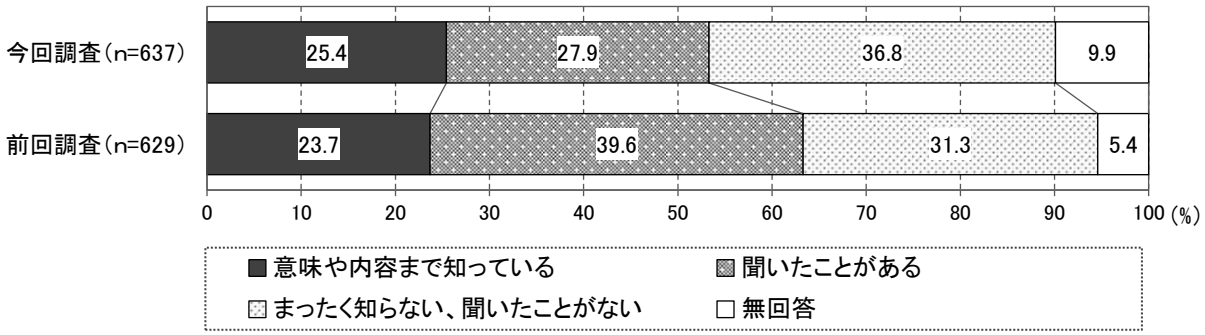
性年齢別では、50 歳代以上の男女で「まったく知らない、聞いたことがない」が最も高くなっています。

前回調査と比べると、「聞いたことがある」と「意味や内容まで知っている」を合わせた「認知度率」は、全体で 10.0 ポイント（前回 63.3%）、女性で 8.2 ポイント（前回 61.2%）、男性で 12.2 ポイント（前回 66.8%）それぞれ低くなっています。



◆前回調査との比較（成果指標に関する設問）

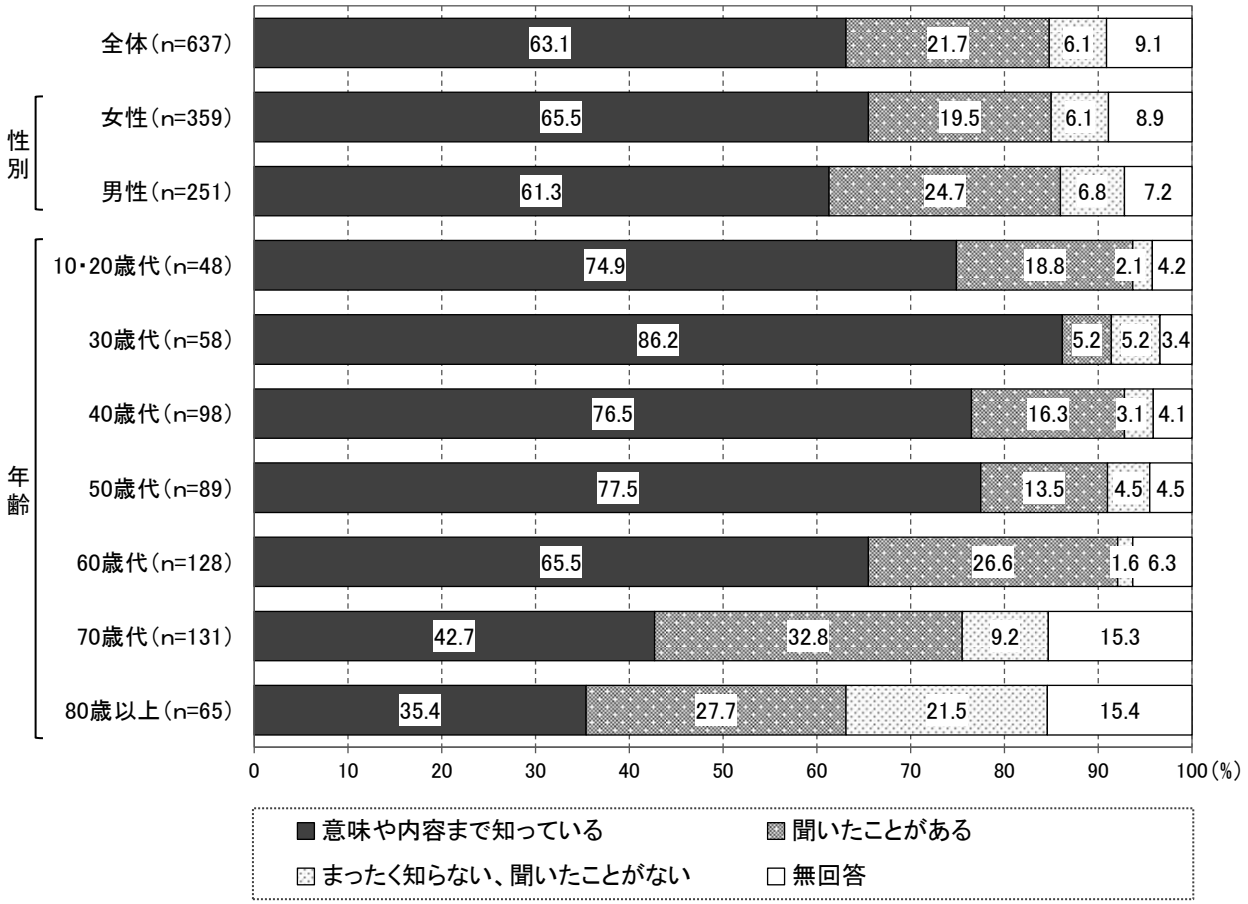
【前回調査】平成 30 年度男女共同参画社会づくりのための市民意識調査



（3）DV（ドメスティック・バイオレンス）

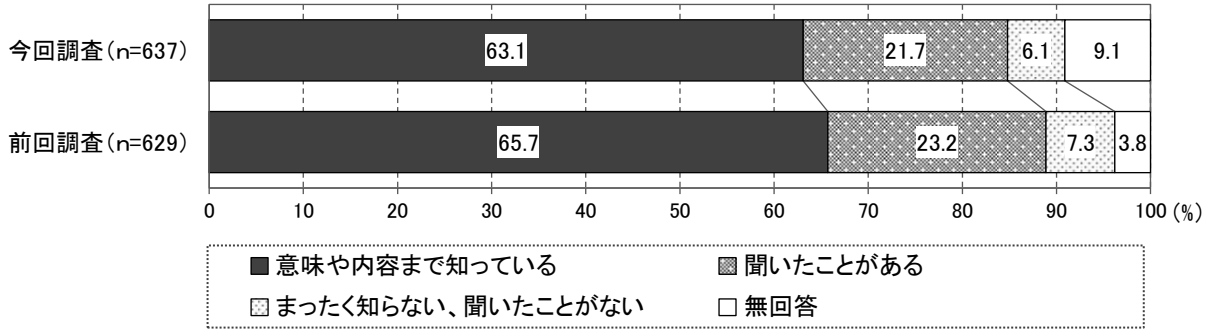
全体では、「意味や内容まで知っている」が 63.1%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」（21.7%）、「まったく知らない、聞いたことがない」（6.1%）の順となっています。

前回調査と比べると、「聞いたことがある」と「意味や内容まで知っている」を合わせた「認知度率」は、全体で 4.1 ポイント（前回 88.9%）、女性で 1.8 ポイント（前回 86.8%）、男性で 6.1 ポイント（前回 92.1%）それぞれ低くなっています。



◆前回調査との比較（成果指標に関する設問）

【前回調査】平成 30 年度男女共同参画社会づくりのための市民意識調査

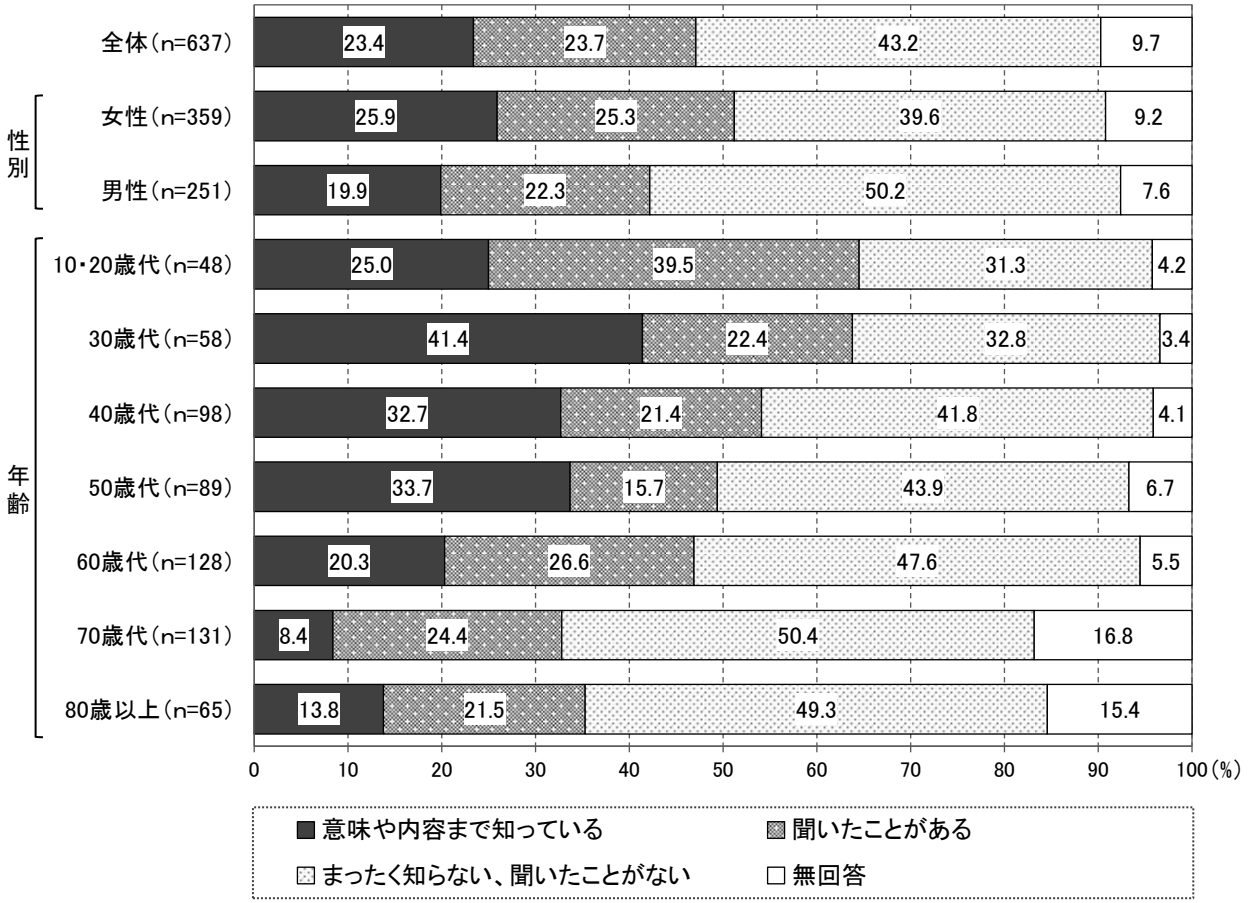


（4）デートＤＶ

全体では、「まったく知らない、聞いたことがない」が 43.2%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」（23.7%）、「意味や内容まで知っている」（23.4%）の順となっています。

性年齢別では、30～40 歳代女性で「意味や内容まで知っている」が最も高くなっています。

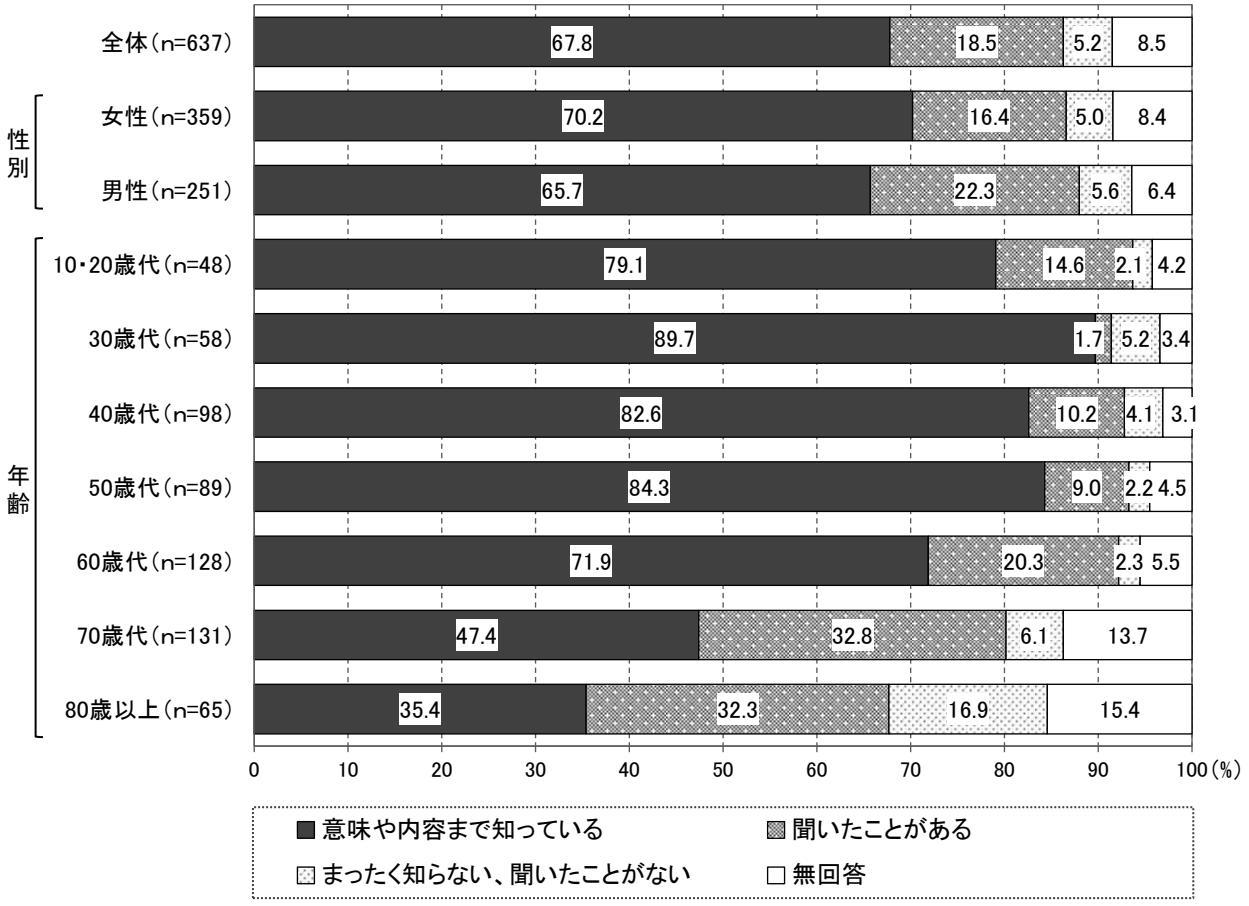
前回調査と比べると、「聞いたことがある」と「意味や内容まで知っている」を合わせた「認知度率」は、全体で 4.1 ポイント（前回 51.2%）、女性で 0.3 ポイント（前回 51.5%）、男性で 9.9 ポイント（前回 52.1%）それぞれ低くなっています。



（5）セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）

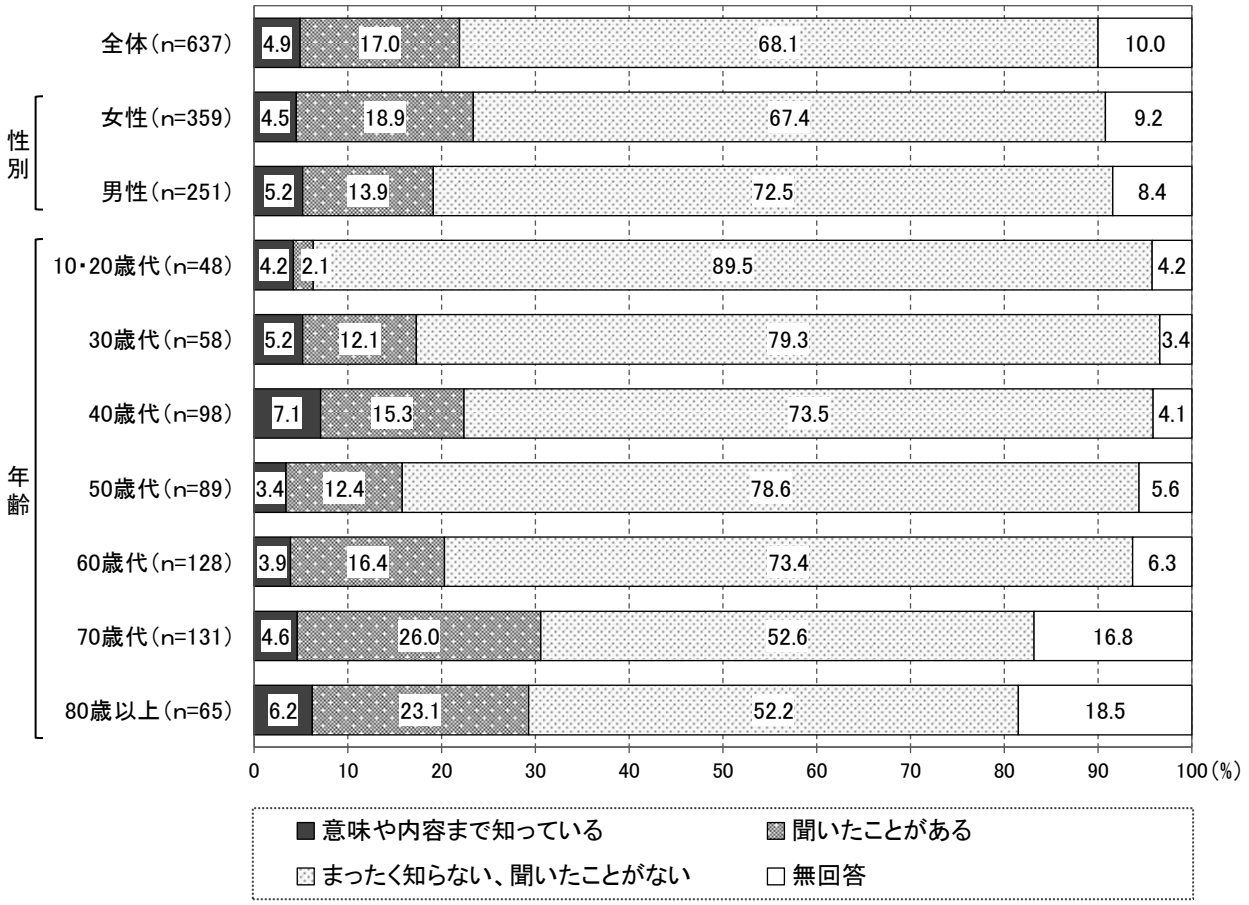
全体では、「意味や内容まで知っている」が 67.8%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」（18.5%）、「まったく知らない、聞いたことがない」（5.2%）の順となっています。

前回調査と比べると、「聞いたことがある」と「意味や内容まで知っている」を合わせた「認知度率」は、全体で 5.7 ポイント（前回 92.0%）、女性で 3.5 ポイント（前回 90.1%）、男性で 6.7 ポイント（前回 94.7%）それぞれ低くなっています。



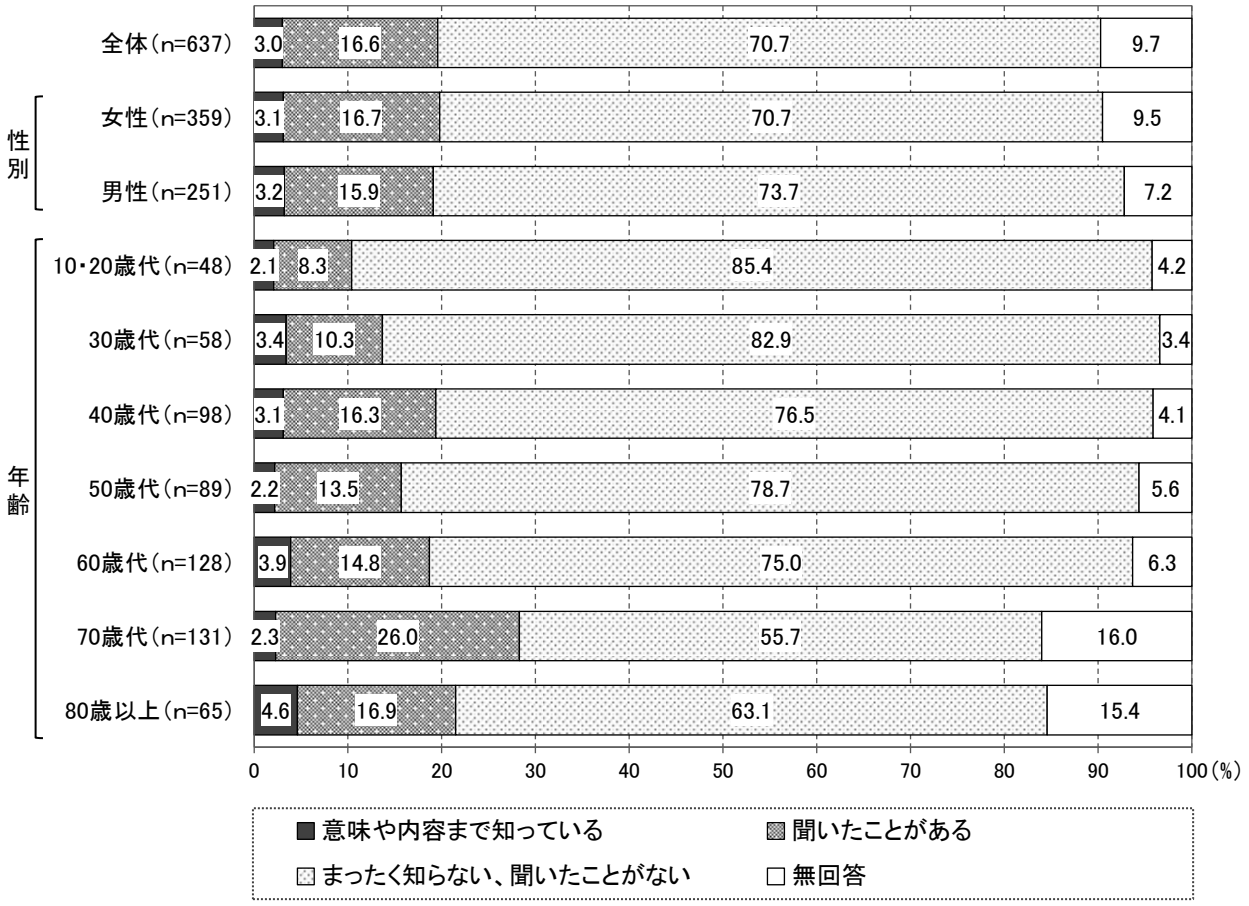
（６）唐津市女性総合相談

全体では、「まったく知らない、聞いたことがない」が 68.1％と最も高く、次いで、「聞いたことがある」（17.0％）、「意味や内容まで知っている」（4.9％）の順となっています。



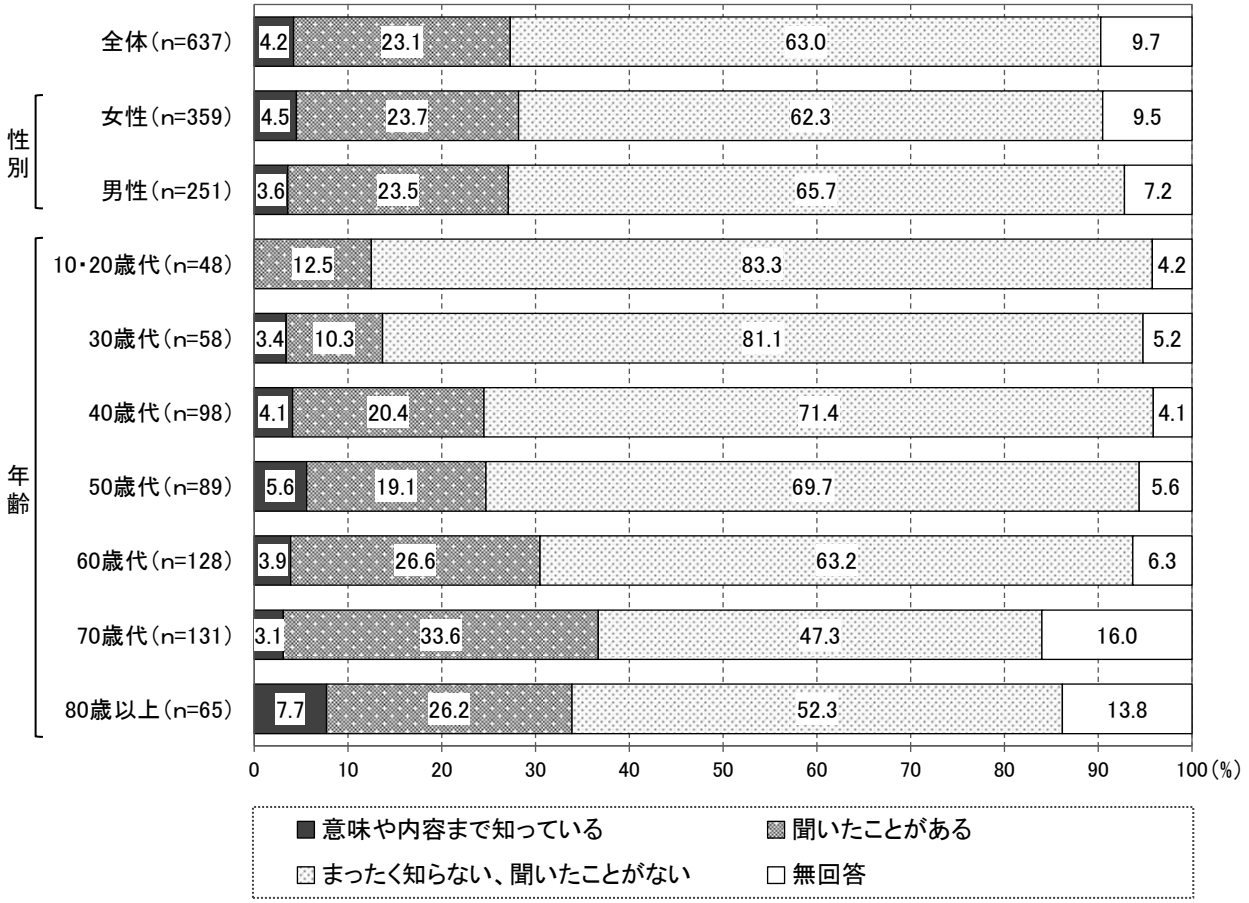
（7）唐津市女性人材バンク

全体では、「まったく知らない、聞いたことがない」が70.7%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」（16.6%）、「意味や内容まで知っている」（3.0%）の順となっています。



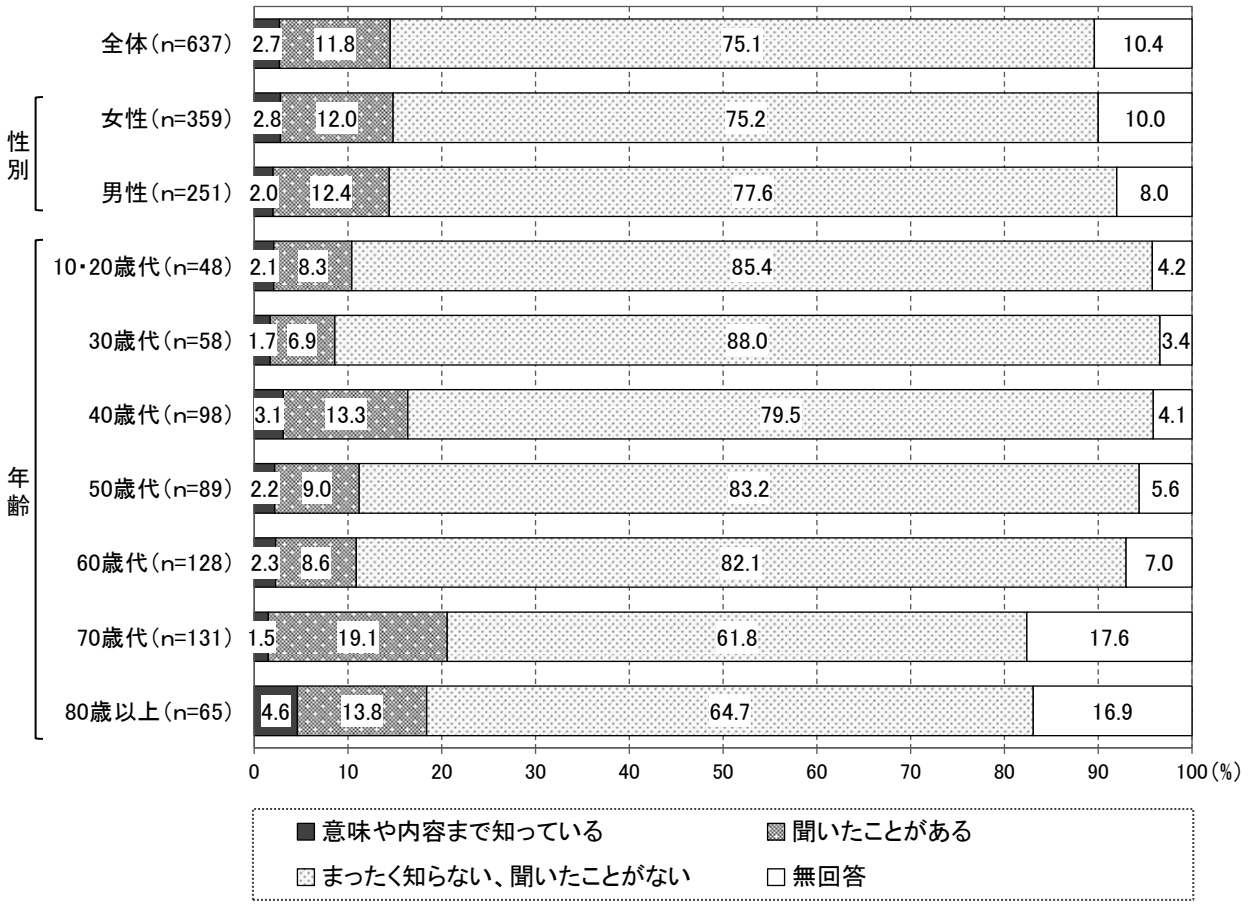
（８）唐津市男女共同参画推進講演会

全体では、「まったく知らない、聞いたことがない」が 63.0％と最も高く、次いで、「聞いたことがある」（23.1％）、「意味や内容まで知っている」（4.2％）の順となっています。



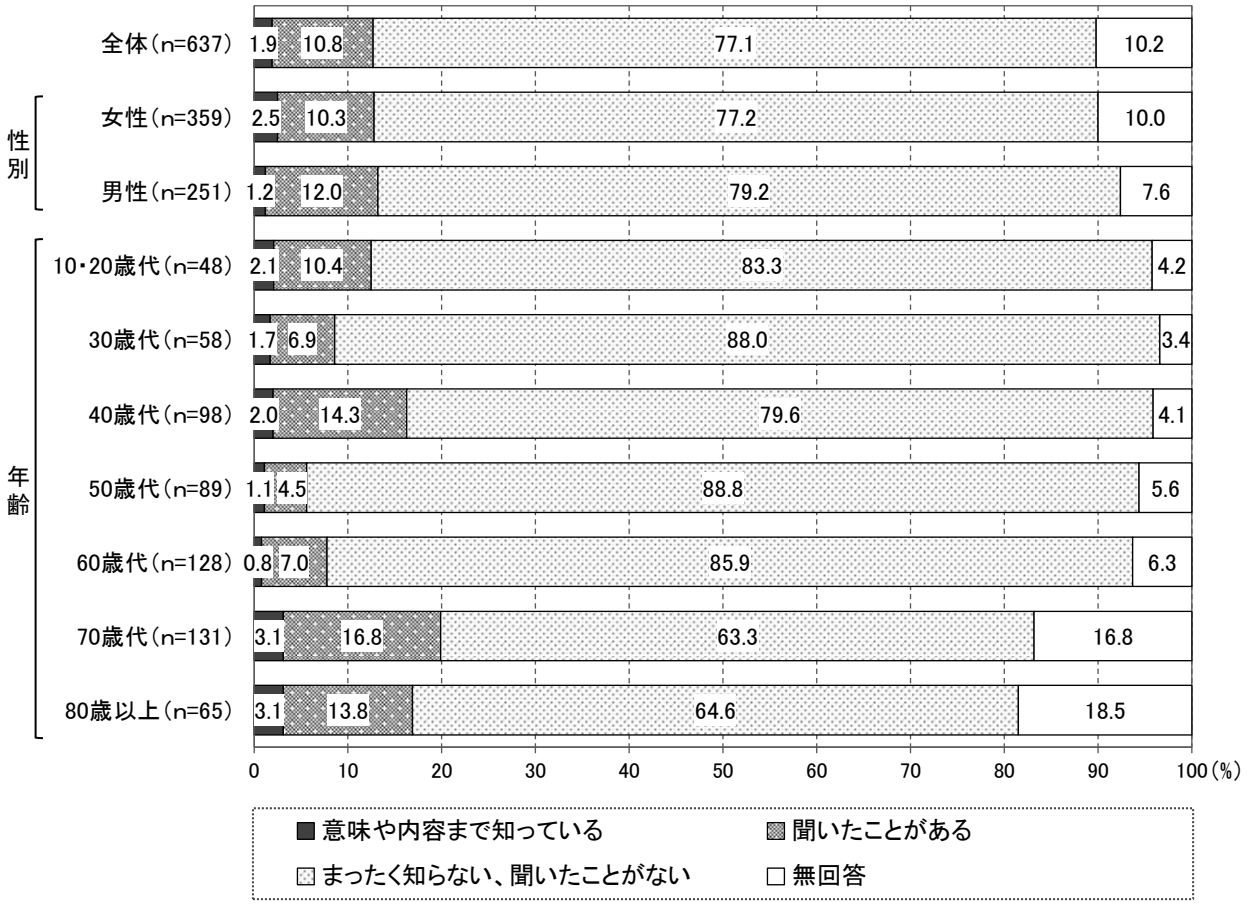
（9）唐津市男女共同参画週間パネル展

全体では、「まったく知らない、聞いたことがない」が75.1%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」（11.8%）、「意味や内容まで知っている」（2.7%）の順となっています。



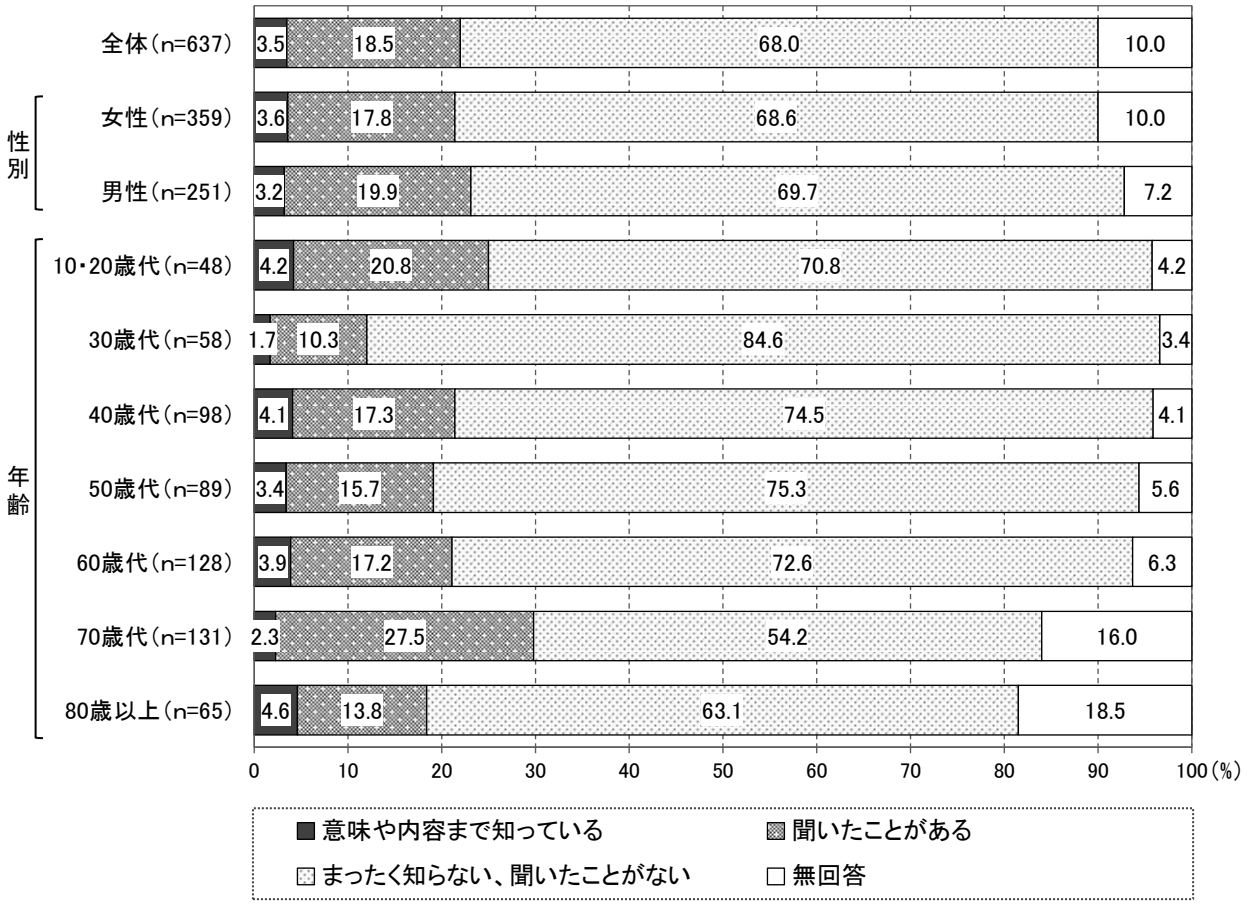
（10）唐津市男女共同参画劇場(唐津市公式チャンネル)

全体では、「まったく知らない、聞いたことがない」が77.1%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」（10.8%）、「意味や内容まで知っている」（1.9%）の順となっています。



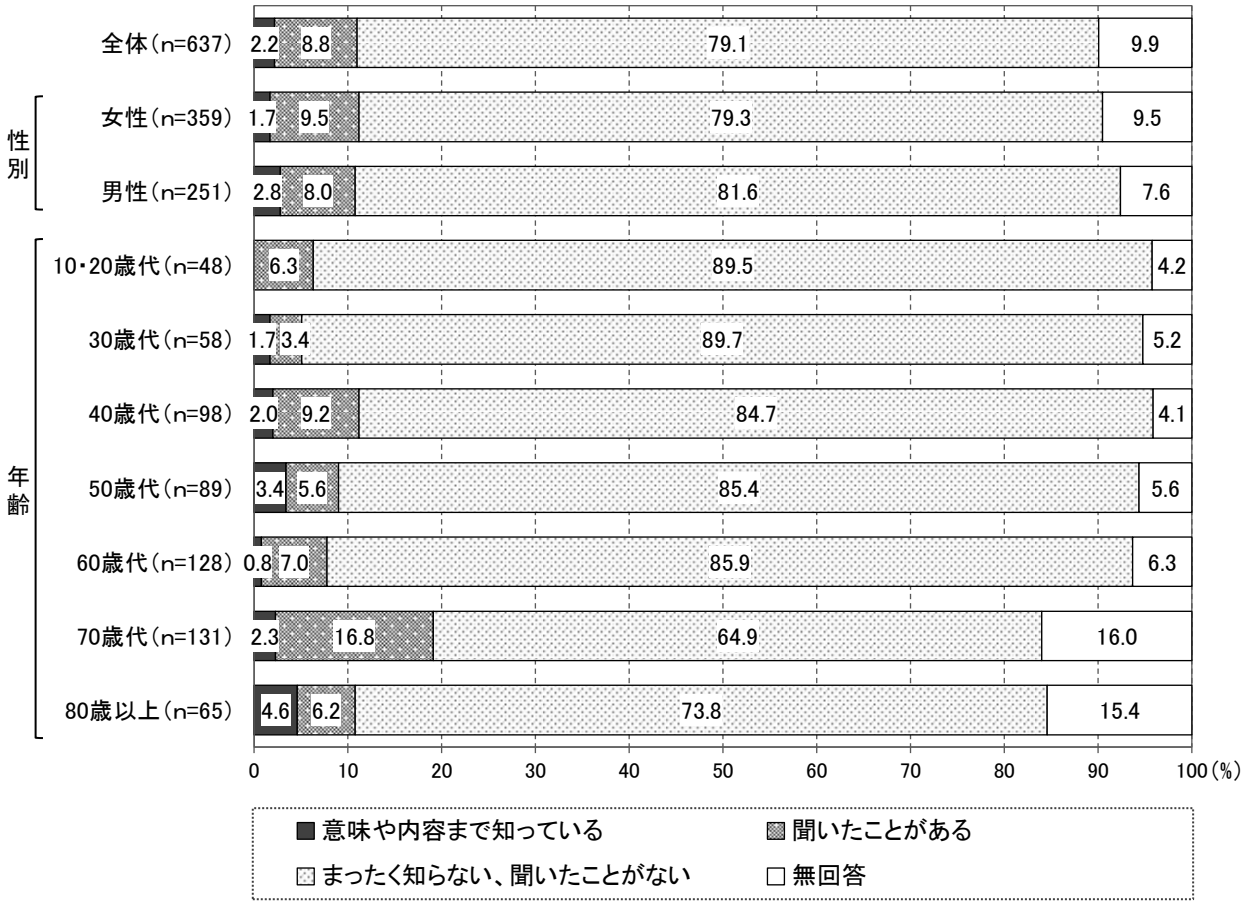
（11）唐津市男女共同参画基本計画

全体では、「まったく知らない、聞いたことがない」が68.0%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」（18.5%）、「意味や内容まで知っている」（3.5%）の順となっています。



（12）唐津市お出かけ講座志援隊

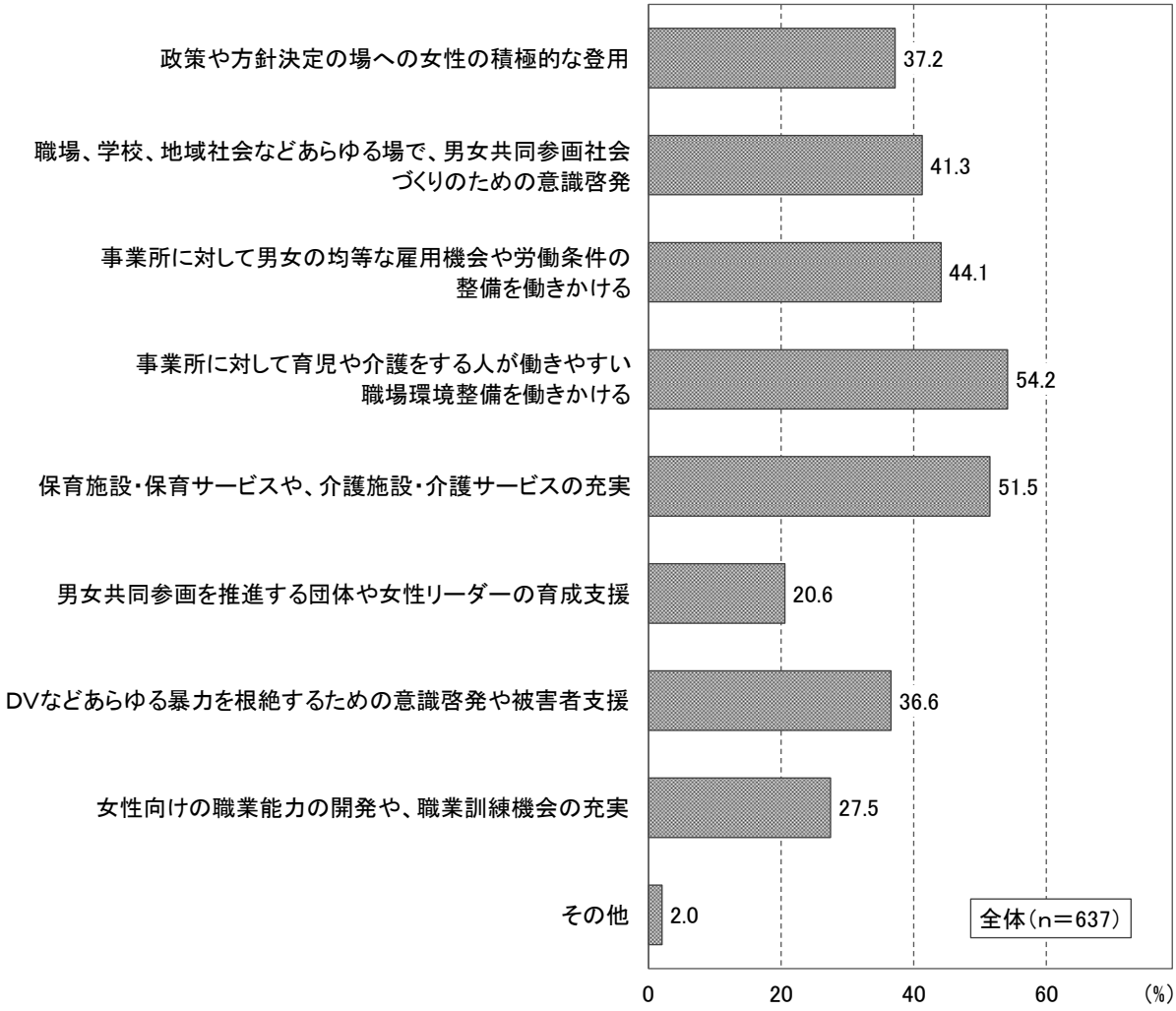
全体では、「まったく知らない、聞いたことがない」が79.1%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」（8.8%）、「意味や内容まで知っている」（2.2%）の順となっています。



問 27　男女共同参画社会の実現をめざして、今後、唐津市はどのようなことに力を入れていったらよいと思いますか。【複数回答可】

「事業所に対して育児や介護をする人が働きやすい職場環境整備を働きかける」が 54.2%と最も高く、次いで、「保育施設・保育サービスや、介護施設・介護サービスの充実」(51.5%)、「事業所に対して男女の均等な雇用機会や労働条件の整備を働きかける」(44.1%) の順となっています。

前回調査では、「職場、学校、地域社会などあらゆる場で男女共同参画社会づくりのための意識啓発」、「政策や方針決定の場への女性の積極的な登用」で女性より男性が 10 ポイント以上高くなっていましたが、今回の調査では、性別による差異はみられません。



		（n＝）	政策や方針決定の場への女性の積極的な登用	職場、学校、地域社会などあらゆる場で、男女共同参画社会づくりのための意識啓発	事業所に対して男女の均等な雇用機会や労働条件の整備を働きかける	事業所に対して育児や介護をする人が働きやすい職場環境整備を働きかける	保育施設・保育サービスや、介護施設・介護サービスの充実	男女共同参画を推進する団体や女性リーダーの育成支援	ＤＶなどあらゆる暴力を根絶するための意識啓発や被害者支援	女性向けの職業能力の開発や、職業訓練機会の充実	その他
全体		637	237 37.2%	263 41.3%	281 44.1%	345 54.2%	328 51.5%	131 20.6%	233 36.6%	175 27.5%	13 2.0%
性別	女性	359	122 34.0%	144 40.1%	155 43.2%	201 56.0%	188 52.4%	78 21.7%	134 37.3%	107 29.8%	4 1.1%
	男性	251	108 43.0%	109 43.4%	118 47.0%	135 53.8%	136 54.2%	49 19.5%	93 37.1%	61 24.3%	7 2.8%
年齢	10･20歳代	48	17 35.4%	19 39.6%	28 58.3%	29 60.4%	25 52.1%	9 18.8%	24 50.0%	12 25.0%	1 2.1%
	30歳代	58	19 32.8%	19 32.8%	30 51.7%	34 58.6%	33 56.9%	9 15.5%	19 32.8%	18 31.0%	1 1.7%
	40歳代	98	39 39.8%	38 38.8%	45 45.9%	60 61.2%	51 52.0%	18 18.4%	36 36.7%	34 34.7%	2 2.0%
	50歳代	89	27 30.3%	36 40.4%	37 41.6%	49 55.1%	49 55.1%	18 20.2%	34 38.2%	23 25.8%	4 4.5%
	60歳代	128	57 44.5%	64 50.0%	66 51.6%	73 57.0%	75 58.6%	37 28.9%	56 43.8%	39 30.5%	1 0.8%
	70歳代	131	48 36.6%	53 40.5%	48 36.6%	64 48.9%	57 43.5%	26 19.8%	41 31.3%	31 23.7%	0 0.0%
	80歳以上	65	24 36.9%	28 43.1%	23 35.4%	31 47.7%	36 55.4%	11 16.9%	19 29.2%	15 23.1%	3 4.6%

Ⅲ　調査票

男女共同参画社会づくりのための
市　民　意　識　調　査

調査へのご協力のお願い

市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市では、令和２年３月に「唐津市男女共同参画基本計画（第４次）」を策定し、一人ひとりが性別にかかわらず、自分の個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現を目指して、具体的な施策の取組を進めています。

このたび、第５次となる新たな「唐津市男女共同参画基本計画」の策定と今後の男女共同参画の施策を進める上での基礎資料とさせていただくため、「男女共同参画づくりのための市民意識調査」を行うことにいたしました。

この調査は、唐津市に住む 18 歳以上の方から男女各 1,000 人、合わせて 2,000 人を無作為に選ばせていただきました。調査は無記名です。すべて統計的に処理を行い、個人が特定されるなどご迷惑をおかけすることはありませんので、ぜひご協力をお願いいたします。

令和５（2023）年 11 月

唐津市長　峰　達郎

ご記入にあたってのお願い

１．回答はあなた（封筒の宛名ご本人）自身のお考えでお答えください。

２．記入は黒のボールペンまたは濃い鉛筆でお願いします。

３．回答は、質問ごとにあてはまる選択肢の番号に○をつけてください。

４．ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、１２月１２日（火）までにご返送ください。（切手は不要です。）

５．インターネットでご回答いただくことも可能です。右の二次元コードまたはＵＲＬからＷｅｂサイトにアクセスし、説明に沿ってご回答ください。インターネットでご回答いただいた方は本調査票の返信は不要です。

スマートフォンやタブレットの場合、右の二次元コードを読み取ってください。

パソコンの場合、以下の URL にアクセスしてください。

https://x.gd/5Ktc9

ログイン ID

※ログインには、上記 ID が必要です。

※ID は乱数で処理しており、WEB 回答の重複を防止する目的のみに利用します。個人が特定されることはありません。

◆この調査についてのお問い合わせ先
唐津市 地域交流部 男女共同参画課
電話 ０９５５-７２-９２３９（直通）

Ⅰ　結婚や家庭生活についておたずねします

問１　あなたの考えに近いものは何ですか。（次の項目ごとに、１つずつ選んで○）

		賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
(1)	結婚は個人の自由なので、結婚してもしなくても どちらでもよい	1	2	3	4	5
(2)	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
(3)	女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもなど 家庭を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
(4)	子どもを持つか持たないかは夫婦で決めるべきである	1	2	3	4	5
(5)	結婚生活の継続が困難な時は、離婚もやむをえない	1	2	3	4	5
(6)	男性も女性もどちらも仕事と家庭を両立できるとよい	1	2	3	4	5

【問２は、結婚している人（事実婚を含む）のみにおたずねします】

問２　あなたの家庭で、生活に必要な家事などは、おもに誰の役割ですか。
（次の項目ごとに、１つずつ選んで○）

		自分	自分と配偶者	配偶者	配偶者以外の家族	家族以外の人や、	該当なし
(1)	掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6
(2)	食事の準備・後片付け	1	2	3	4	5	6
(3)	日常の買い物	1	2	3	4	5	6
(4)	日々の家計管理	1	2	3	4	5	6
(5)	高額な商品や土地、家屋の購入	1	2	3	4	5	6
(6)	町内会などの地域活動への参加	1	2	3	4	5	6
(7)	子どもの世話・しつけ	1	2	3	4	5	6
(8)	ＰＴＡ・子どもクラブ活動への参加	1	2	3	4	5	6
(9)	家族の世話（介護・看護）	1	2	3	4	5	6

Ⅱ　教育・子育てについておたずねします

問３　子どもの育て方について、あなたの考えに近いものは何ですか。子どもがいない人も、あなたの考え方をお答えください。（次の項目ごとに、１つずつ選んで○）

		賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
(1)	女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる	1	2	3	4	5
(2)	女の子も男の子も、経済的に自立できるよう育てる	1	2	3	4	5
(3)	女の子も男の子も、炊事・洗濯・掃除など生活に必要な技術が身につくよう育てる	1	2	3	4	5
(4)	女の子も男の子も、生まれ持った個性・才能を可能な限り活かして育てる	1	2	3	4	5

問４　少子化が問題になっていますが、その理由は何だと思いますか。（３つまで○）

１．子育てのための経済的負担が大きいから
２．雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから
３．子育てを支援するためのサービス（保育所、放課後児童クラブ等）が不足しているから
４．子育てよりも自分たちの生活を楽しみたいと考えているから
５．生き方が多様化して、結婚・子育てを選ばない人が増えたから
６．女性が仕事をしながら子育てをするのが困難だから
７．夫の育児に対する協力が少ないから
８．出産・育児の肉体的・心理的な負担が大きいから
９．子どもをとりまく社会環境に不安があるから
10．晩婚化による年齢的な理由から
11．その他（具体的に　　）

Ⅲ 仕事と生活についておたずねします

問５　女性の働き方についておたずねします。あなたが、女性の働き方として「望ましい」と思うのはどれですか。（１つ選んで○）

１．結婚や出産に関わらず仕事を続ける（産休・育休を取得する場合を含む）
２．子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする
３．子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする
４．子どもができるまでは仕事をするが、子どもができたら家事や育児に専念する
５．結婚するまでは仕事をして、結婚後は家事に専念する
６．女性は仕事をしないほうがよい
７．その他（具体的に　　）

問６　あなたは、女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。（１つ選んで○）

１．家事の負担が大きいこと
２．夫や子どもの世話の負担が大きいこと
３．高齢者など家族介護の負担が大きいこと
４．夫や子どもなどの理解や協力が少ないこと
５．職場で男女格差があること
６．職場で結婚・出産時に退職の慣例があること
７．夫の転勤や長時間労働があること
８．女性の就職先自体が少ないこと
９．保育所不足など子育て支援体制が十分ではないこと
10．その他（具体的に　　）
11．支障となることは特にない

問７　あなたは、これまでに育児休業（産休を除く）や介護休業を取得したことがありますか。（①、②のそれぞれについて、１つ選んで○）

①育児休業　※産休を除く

１．取得したことがある　　２．取得したことはない
３．取得したかったが取得できなかった　　４．取得する必要がなかった

②介護休業

１．取得したことがある　　２．取得したことはない
３．取得したかったが取得できなかった　　４．取得する必要がなかった

【問８は、結婚している人（していた人や事実婚を含む）のみにおたずねします】

問８　あなたは、これまでに結婚や妊娠・出産の際、働き方に変化がありましたか。（１つ選んで○）

１．結婚を機に仕事をやめた
２．妊娠を機に仕事をやめた　→**問８－１へ**
３．出産を機に仕事をやめた
４．仕事内容や勤務形態を変えずに働いた
５．同じ職場で仕事内容や勤務形態を変えて働いた（フルタイムからパートなど）
６．転職した
７．もともと働いていなかった
８．その他（具体的に　　）

問８-1　問８で「1.」～「３.」と回答した人におたずねします
仕事をやめた理由は何ですか。（３つまで○）

１．もともと仕事をやめたかったから
２．家事に十分な時間をかけたかったから
３．子育てに十分な時間をかけたかったから
４．職場に十分な制度や理解がなかったから
５．体力的に自信がなかったから
６．家族や親族の理解や協力が得られなかったから
７．保育所など子どもを預かってくれる場所がなかったから
８．世帯に十分な収入があったから
９．その他（具体的に　　）

問９　あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。（１つ選んで○）

１．大変働きやすいと思う
２．ある程度は働きやすいと思う
３．あまり働きやすいとは思わない　→**問９－１へ**
４．働きやすいとは思わない　→**問９－１へ**
５．どちらともいえない
６．わからない

問9-1　問9で「3．」または「4．」と回答した人におたずねします
そう思わない理由は何ですか。（3つまで○）

1．働く場が限られているから
2．能力発揮の場が少ないから
3．労働条件が整っていないから
4．保育施設が不足しているから
5．介護施設が不足しているから
6．昇進や給与等の待遇に男女格差があるから
7．結婚や出産の時に退職する慣例があるから
8．セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）があるから
9．男は仕事、女は家庭という固定的な社会通念があるから
10．家族の理解や協力が得られにくいから
11．その他（具体的に　　）

【問10は、現在、就労されている方のみにおたずねします】

問10　現在、あなたの働く場では、女性と男性は平等だと思いますか。
（次の項目ごとに、1つずつ選んで○）

		どちらかといえば男性の方が優遇されている	ほぼ平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	わからない
(1)	募集・採用	1	2	3	4
(2)	賃金・昇給	1	2	3	4
(3)	昇進や昇格	1	2	3	4
(4)	仕事の内容	1	2	3	4
(5)	能力評価・査定	1	2	3	4
(6)	教育訓練や研修	1	2	3	4
(7)	有給休暇の取得	1	2	3	4

問 11　あなたは、男性が育児休業や介護休業を取ることをどう思いますか。
（次の項目ごとに、１つずつ選んで○）

		賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
(1)	男性が育児休業を取得すること	1	2	3	4	5
(2)	男性が介護休業を取得すること	1	2	3	4	5

問 12　一般的に男性が育児休業・介護休業を取ることが進んでいないと言われていますが、その理由は何だと思いますか。（２つまで○）

１．自分の仕事の代わりをしてくれる人がいないから
２．同僚の理解が得られないから
３．上司の理解が得られないから
４．収入が減るから
５．人事評価や昇給・昇進に影響があると思うから
６．育児・介護に自信がないから
７．自分の職場で男性が育児休業・介護休業を取った前例が少ないから
８．男性が育児休業・介護休業を取るのは恥ずかしいから
９．その他（具体的に　　）

問 13　日常生活における、「仕事」「家庭生活（プライベートな時間／趣味や学習・地域活動・付き合いなど）」のバランスについて、①あなたの希望する（理想とする）優先度と、②実際の（現実の）優先度をお答えください。
（①、②のそれぞれについて、１つ選んで○）

①あなたの希望する（理想とする）優先度

１．仕事を優先したい
２．家庭生活（プライベートな時間）を優先したい
３．仕事と家庭生活（プライベートな時間）を両立したい

②実際の（現実の）優先度

１．仕事を優先している
２．家庭生活（プライベートな時間）を優先している
３．仕事と家庭生活（プライベートな時間）を両立している

問 14　男女がともに、「仕事」と「家庭生活（プライベートな時間／趣味や学習・地域活動・付き合いなど）」を両立させるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（３つまで○）

１．育児休業や介護休業を取りやすい環境を整えること
２．男性が家事などをすることへの理解を促進すること
３．女性が働き続けることへの理解を促進すること
４．延長保育や放課後児童クラブなどの子育て支援を充実すること
５．高齢者や病人の介護サービスを充実すること
６．短時間勤務や在宅勤務制度などを導入すること
７．家事や育児を支援するサービスを充実すること
８．年配者や地域の人が、夫婦の役割分担について理解を示すこと
９．育児などで退職した人を再雇用する制度を取り入れること
10．その他（具体的に　　）
11．わからない

Ⅳ　心と身体の健康についておたずねします

問 15　女性の身体を守るために、男女ともに知っておいた方がよいことはどんなことだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

１．妊娠・出産について
２．更年期障害・婦人科の病気について
３．性感染症・ＨＩＶ／エイズについて
４．人工妊娠中絶が女性の身体に与える影響について
５．避妊について
６．不妊症について
７．その他（具体的に　　）

【問 16 は男性のみにおたずねします】

問 16 「男もつらい」と感じたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

１．家族を養うのは男の責任だと言われたこと
２．男なのに酒が飲めないのかとからかわれたこと
３．仕事の責任が重く、仕事ができて当たり前だと言われたこと
４．力が弱い、運転が苦手だとからかわれたこと
５．弱音を吐けなかったり、悩みを相談することができないこと
６．その他（具体的に　　）
７．特にない

Ⅴ 社会活動についておたずねします

問 17　自治会長や区長、ＰＴＡ会長などの地域の役職についておたずねします。

【女性の方】あなたが長に推薦されたらどうしますか。（１つ選んで○）
【男性の方】配偶者などの身近な女性が長に推薦されたらどうしますか。（１つ選んで○）

１．引き受ける（引き受けることをすすめる）　　２．断る（断ることをすすめる）
３．わからない

次は問 17-1 へ

問 17-1　問 17 で、「2. 断る（断ることをすすめる）」と回答した人におたずねします

主な理由を次の中から選んでください。（３つまで○）

１．家族の協力が得られないから
２．女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから
３．責任が重いから
４．役職につく知識や経験がないから
５．女性には向いてないから
６．本人の職業生活に支障がでるから
７．家事育児や介護に支障がでるから
８．人間関係がわずらわしいから
９．こうした役職に興味がないから
10．その他（具体的に　　）

Ⅵ 人権尊重についておたずねします

問 18　女性の人権が尊重されていないと感じることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

１．売春・買春・援助交際
２．女性の働く風俗営業
３．セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）
４．女性の体の一部やこびたポーズ・視線を、商品の内容に関係なく使用した広告など、テレビ・新聞・雑誌・インターネットなどでの女性の性的描写
５．女性の容姿を競うコンテスト
６．家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力（ＤＶ）
７．ストーカー行為（つきまとい行為）
８．痴漢行為・強制性交等（レイプ）などの性犯罪
９．昇給・昇進・給与の格差など、職場における男女の待遇の違い
10．男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）
11．わからない
12．その他（具体的に　　）
13．そう感じることはない

問 19　これまでにセクシュアル・ハラスメント行為(性的嫌がらせ)をしたり、されたり、見聞きしたことがありますか。(次の項目ごとに、１つずつ選んで○)

		されたことがある	したことがある	見たり聞いたりした	まったくない
(1)	恋愛や結婚についてしつこく聞かれた	1	2	3	4
(2)	年齢や容姿のことでからかわれた	1	2	3	4
(3)	性的な冗談を言われたり、質問をされたりした	1	2	3	4
(4)	異性関係が派手など、性的な噂を流された	1	2	3	4
(5)	宴会でお酌やデュエットを強要された	1	2	3	4
(6)	不必要に身体を触られたり、抱きつかれたりした	1	2	3	4
(7)	地位や権限を利用して、しつこく誘ったり性的な関係を迫られたりした	1	2	3	4
(8)	その他（具体的に　　）	1	2	3	4

問 19-1　問 19 で、１つでも「1 されたことがある」と回答した人におたずねします
そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(１つ選んで○)

１．相談した　　２．相談しなかった

次は問 19-２へ

問 19-2　問 19-1 で、「2. 相談しなかった」人におたずねします
相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

１．誰（どこ）に相談してよいかわからなかった
２．恥ずかしくて誰にも言えなかった
３．相談しても無駄だと思った
４．他人に知られると、これまでの人間関係がこわれると思った
５．相談するほどのことではないと思った
６．その他（具体的に　　）

問 20　夫婦や恋人同士などの親しい間柄で、暴力だと感じるのは次のどのような行為ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．何を言っても無視され続ける
2．「誰のおかげで生活できてるんだ」、「殺すぞ」などと怒鳴ったり、「稼ぎが悪い」などとののしる
3．交友関係や電話、メールなどを細かく監視したり、頻繁に電話やメールをしてきて、すぐ返事をしないと怒る
4．社会との関わりや働くことなどを許さない
5．生活費を渡さなかったり、お金のやりくりを細かく報告させたりする
6．嫌がっているのに性的な行為を強要
7．避妊に協力しない

問 21　夫婦や恋人同士などの親しい間柄で、今までに次のようなことをしたり、されたりしたことがありますか。（次の項目ごとに、１つずつ選んで○）

		されたことがある	したことがある	どちらもある	どちらもない
(1)	命の危険を感じるほどの暴力	1	2	3	4
(2)	医師の治療が必要となるほどの暴力	1	2	3	4
(3)	医師の治療までは必要ない程度の暴力	1	2	3	4
(4)	嫌がっているのに性的な行為を強要	1	2	3	4
(5)	避妊に協力しない	1	2	3	4
(6)	何を言っても無視され続ける	1	2	3	4
(7)	「誰のおかげで生活できてるんだ」「殺すぞ」などと怒鳴ったり、「稼ぎが悪い」などとののしる	1	2	3	4
(8)	交友関係や電話、メールなどを細かく監視したり、頻繁に電話やメールをしてきて、すぐ返事をしないと怒る	1	2	3	4
(9)	社会との関わりや働くことなどを許さない	1	2	3	4
(10)	生活費を渡さなかったり、お金のやりくりを細かく報告させたりして経済的に押さえつける	1	2	3	4
(11)	その他（具体的に　　）	1	2	3	4

→ **問 21-1**　**問 21 で、１つでも「されたことがある」・「どちらもある」と回答した人におたずねします**

そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（１つ選んで○）

1．相談した　→**問 21－２へ**　　2．相談しなかった　→**問 21－３へ**

問 21-2　問 21-1 で、「1. 相談した」人におたずねします

誰（どこ）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

１．家族や親族に相談した
２．友人や知人に相談した
３．警察に連絡・相談した
４．法務局や県庁、市役所などに相談した
５．女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）に相談した
６．男女共同参画センター(アバンセなど)に相談した
７．医療関係者（医師・看護師など）に相談した
８．弁護士に相談した
９．その他（具体的に　　）

問 21-3　問 21-1 で、「2. 相談しなかった」人におたずねします

それはなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

１．誰（どこ）に相談してよいかわからなかった
２．相談しても無駄だと思った
３．相談したことがわかると、仕返しされたり、暴力がさらにひどくなると思った
４．自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った
５．自分にも悪いところがあると思った
６．恥ずかしくて誰にも言えなかった
７．相談するほどのことではないと思った
８．その他（具体的に　　）

問 22　今後、ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）を防ぐためには、どのような取組が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

１．ＤＶ防止に向けた広報・啓発活動を積極的に行う
２．家庭や学校・地域で暴力を防止するための学習等の場の充実を図る
３．被害者が相談しやすい環境づくりを図る
４．被害者が援助を求めやすくするための環境を整える
５．被害者の一時保護を行うシェルターなどを設置する
６．加害者への罰則を強化する
７．雑誌やインターネット等暴力を助長するおそれのある情報を規制する
８．その他（具体的に　　）

問 23 「ＬＧＢＴＱ＋（プラス）」という言葉を知っていますか。（１つ選んで○）

※下の用語の説明を参考にしてください。

１．言葉も内容も知っている　　２．言葉は知っているが内容は知らない ３．言葉も内容も知らない

＜用語説明＞ＬＧＢＴＱ＋とは？

性的マイノリティ（性的少数者）の総称として使われる頭文字を並べた言葉です。

Lesbian	レズビアン	こころの性が女性で、好きになる性も女性
Gay	ゲイ	こころの性が男性で、好きになる性も男性
Bisexual	バイセクシュアル	好きになる性が男性・女性の両方
Transgender	トランスジェンダー	からだの性とこころの性が異なる
Questioning	クエスチョニング	自分の性のあり方が自分でもわからない。自分の性のあり方を探している途中である。性別を決めたくない。
Queer	クィア	性的マイノリティの総称のひとつ。差別的に使われる意味だったが、最近は当事者が自称する表現として使われている。
＋	プラス	ほかにも様々な性のあり方があることを示す。

問 24　あなたは今までに自分のからだの性、こころの性または性的指向（同性愛など）に悩んだことがありますか。（１つ選んで○）

１．悩んだことがある　　２．悩んだことはない

問 25 「ＬＧＢＴＱ＋」に関する差別的な言動を受けたり、見聞きしたことはありますか。（１つ選んで○）

１．ある　　２．ない　　３．わからない

★悩んだときは、専門機関に相談してください。秘密は守られます。
あなたの住所や名前を言う必要もありません。安心して相談してください。

「佐賀県ＤＶ総合対策センター（アバンセ）女性総合相談」
相談窓口：0952-26-0018
火～土 9:00～21:00　日・祝 9:00～16:30（月曜日・年末年始を除く）

「佐賀県ＤＶ総合対策センター（アバンセ）男性総合相談」
相談窓口：080-6426-3867
電話相談　毎週水曜日　19:00～21:00（祝日を除く）
面　　談　第４土曜日　14:00～16:00（予約制）

市のホームページへのアクセスはこちら ⇒

Ⅶ 男女共同参画についておたずねします

問 26　あなたは次の言葉や取組をどのくらい知っていますか。
（次の項目ごとに、１つずつ選んで○）※下の説明を参考にしてください。

		意味や内容まで知っている	聞いたことがある	全く知らない聞いたことがない
(1)	男女共同参画社会	1	2	3
(2)	ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
(3)	ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）	1	2	3
(4)	デートＤＶ	1	2	3
(5)	セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）	1	2	3
(6)	唐津市女性総合相談	1	2	3
(7)	唐津市女性人材バンク	1	2	3
(8)	唐津市男女共同参画推進講演会	1	2	3
(9)	唐津市男女共同参画週間パネル展	1	2	3
(10)	唐津市男女共同参画劇場(唐津市公式チャンネル)	1	2	3
(11)	唐津市男女共同参画基本計画	1	2	3
(12)	唐津市お出かけ講座志援隊	1	2	3

＜用語説明＞

男女共同参画社会	男女が共に対等な立場であらゆる分野に均等に参画し、ともに役割も、責任も果たす社会。
ワーク・ライフ・バランス	仕事と仕事以外の個人の生活の両方について、どちらかが犠牲になることなく、それぞれをバランスよく充実させていこうという考え方。
DV（ドメスティック・バイオレンス）	配偶者やパートナー、恋人からの暴力。
デート DV	DV の中でも、特に結婚前の若い恋人同士の間に起こる暴力。
セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）	性的嫌がらせ。
唐津市女性総合相談	唐津市役所本庁 1 階に開庁日に開設しています。常駐の女性相談員がさまざまな相談をお受けします。電話でも相談できます。 （月～金／8:30～17:15 ※開庁日のみ TEL0955-53-7180）
唐津市女性人材バンク	政策決定にかかわる審議会や委員会に女性が登録されるよう人材を紹介しています。市内にお住まいかお勤めの人で、関心のある方は、男女共同参画課（TEL0955-72-9239）へお問い合わせください。
唐津市男女共同参画推進講演会	男女共同参画社会についての基本的な理解を広めるために、毎年講演会を開催しています。今年度の開催情報や過去の開催状況など詳しくは、唐津市ホームページをご覧ください。

唐津市男女共同参画週間パネル展	性別にかかわりなく、一人ひとりが個性と能力を発揮できる社会づくりのため、毎年 6 月 23 日から 6 月 29 日までの男女共同参画週間に合わせて市内で活動している団体の活動状況を紹介するパネル展を開催しています。本庁開催後は各市民センターを巡回しています。
唐津市男女共同参画劇場（唐津市公式チャンネル）	男女共同参画の意識づくり・社会づくりのため、男女共同参画をわかりやすく伝える映像を自主制作しました。唐津市公式チャンネルからご覧いただけます。
唐津市男女共同参画基本計画	唐津市では、一人ひとりが性別にかかわらず、自分の個性と能力を発揮できる男女共同参画社会を実現するため、取り組みを進めてきました。令和 2 年 3 月に第4次計画を策定していますが、この度、第 5 次計画の策定のために、今回「市民意識調査」「中学生意識調査」「企業アンケート調査」「市職員意識調査」を実施しています。
唐津市お出かけ講座志援隊	男女共同参画社会づくりに向け、男女共同参画を推進する団体が、市民が組織する自治会やサークル等の集会等に出向き、朗読劇やグループワークなどで男女共同参画をわかりやすく説明する出前講座です。

問 27　男女共同参画社会の実現をめざして、今後、唐津市はどのようなことに力を入れていったらよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1．政策や方針決定の場への女性の積極的な登用
2．職場、学校、地域社会などあらゆる場で、男女共同参画社会づくりのための意識啓発
3．事業所に対して男女の均等な雇用機会や労働条件の整備を働きかける
4．事業所に対して育児や介護をする人が働きやすい職場環境整備を働きかける
5．保育施設・保育サービスや、介護施設・介護サービスの充実
6．男女共同参画を推進する団体や女性リーダーの育成支援
7．ＤＶなどあらゆる暴力を根絶するための意識啓発や被害者支援
8．女性向けの職業能力の開発や、職業訓練機会の充実
9．その他（具体的に　　）

＊唐津市の男女共同参画社会づくりについて、ご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください。

最後に、あなたについておたずねします

それぞれあてはまる番号を○で囲んでください。

Q１　性別

１．女性　　２．男性　　３．どちらともいえない

Q２　年齢（年代）

１．10 歳代　２．20 歳代　３．30 歳代　４．40 歳代　５．50 歳代
６．60 歳代　７．70 歳代　８．80 歳以上

Q３　結婚していますか。

１．結婚している（事実婚を含みます）
２．結婚していたが、離別・死別した
３．結婚したことがない

Q３で「1．結婚している」と回答した人におたずねします

Q3-1 あなたと配偶者は、共働きをしていますか。

１．共働きをしている　　２．共働きをしていない

Q４　家族構成はどれですか。

１．ひとり暮らし（単身世帯）　２．夫婦のみ（事実婚を含みます）
３．親と子　４．親と子と孫（三世代世帯）
５．その他（具体的に　　）

【ひとり暮らし（単身世帯）以外の人におたずねします】

Q５　同居家族に次の１～４にあてはまる人はいますか。（すべてに○）

１．未就学児（小学生未満）　２．小学生　３．中学生
４．介護が必要な人（施設などに入居している人は除きます）　５．いない

長い時間をかけてご回答いただき、ありがとうございました。

記入もれがないかお確かめのうえ、同封の返信用封筒に入れて１２月１２日（火）までに
ポストに投函してください。（切手はいりません）

＊インターネット（WEB）でご回答いただいた方は、本調査票の返送は必要ありません。

「第５次唐津市男女共同参画基本計画」
策定のための市民意識調査結果
《報告書》

令和６年３月

編集・発行　　唐津市　地域交流部　男女共同参画課